

仏 教 学 部

履 修 要 項

(講 義 内 容)

1995 (平成7) 年度

駒 澤 大 學

学 年 暦

前 期

- 4月8日(土) 入学式
- 10日(月) } 新入生オリエンテーション
- 12日(水) }
- 10日(月) } 在校生身分証明登録
- 15日(土) }
- 10日(月) } 在校生成績発表
- 11日(火) }
- 10日(月) } 体育実技Ⅱ受講届(種目選択届)
- 11日(火) } 受付(学部2年次生)
- 12日(水) } 時事外国語受講届受付
(経済学部3年次生)
- 13日(木) }
- 19日(水) } 在校生成績質疑応答
- 13日(木) } 前期授業開始
- 17日(月) } 春季健康診断(卒業年次生対象)
- 21日(金) }
- 20日(木) } 履修届受付(土曜日は除く)
(学部により受付日が異なる)
- 25日(火) }
- 5月23日(火) } 履修確認表配布及び履修届訂正期間
- 24日(水) }
- 25日(木) } 卒業論文論題受付(仏教・文学部の
4年次生)(締切日は正午まで)
- 6月12日(月) }
- 7月14日(金) } 中間試験及び前期終了科目定期試験
(授業平常どおり)
- 20日(木) }
- 20日(木) } 前期授業最終日
- 21日(金) } 夏季休業開始(9月15日まで)
- 21日(金) } 体育実技Ⅱ集中授業コース
(学部2年次生)
- 25日(火) }
- 25日(火) } 前期終了科目定期試験欠試届(追試
験申込)受付締切
- 9月4日(月) }
- 8日(金) } 補講期間

後 期

- 9月16日(土) 後期授業開始
- 18日(月) } 前期終了科目定期試験成績発表(質
疑応答)及び再試験申込受付
- 19日(火) }

- 25日(月) } 外国語指定届受付(仏教・文<除英
米文>・法学部・短大国文・英文の1
年次生)
- 29日(金) } 秋季健康診断(卒業年次生以外対象)
- 26日(火) } 専攻コース指定届受付
(歴史・社会学科の1年次生)
- 27日(水) }
- 26日(火) } 前期終了科目追・再試験
(授業平常どおり)
- 10月2日(月) }
- 15日(日) } 第113回開校記念日
- 23日(月) }
- 27日(金) } 編入学試験願書受付
- 11月13日(月) }
- 16日(木) } 転部・転科試験願書受付
- 12月1日(金) }
- 11日(月) } 卒業論文受付(仏教・文学部の4年
次生)(締切日は正午まで)
- 3日(日) } 編入学・転部・転科試験
- 21日(木) } 冬季休業開始(1月7日まで)
- 21日(木) } 体育実技Ⅱ集中授業コース
(学部2年次生)
- 25日(月) }
- 平成8年
- 1月8日(月) } 後期授業再開
- 13日(土) } 後期授業最終日
- 16日(火) }
- 24日(水) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 25日(木) }
- 31日(水) } 定期試験(一般・外国語・保健体育
科目)
- 2月5日(月) } 定期試験欠試届(追試験申込)受付
締切
- 6日(火) } 卒業論文口頭試問(仏教・文学部の
4年次生)
- 16日(金) } 成績発表(質疑応答)及び再試験申
込受付(学部4年次生・短大生)
- 17日(土) }
- 19日(月) } 体育実技Ⅱシーズン・コース(ス
キー)(学部2年次生)
- 23日(金) }
- 22日(木) } 追・再試験(学部4年次生・短大生)
及び追試験(学部1~3年次生)
- 28日(水) }
- 3月19日(火) } 卒業者名簿発表
- 25日(月) } 卒業式

授 業 時 間

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

仏 教 学 部

履 修 要 項

(講 義 内 容)

I	単 位 制 と 学 年 制
II	卒 業 に 必 要 な 単 位 数 と 卒 業 論 文
III	授 業 科 目 の 履 修 方 法
IV	履 修 科 目 の 登 録 (履 修 届) と そ の 作 成 順 序
V	試 験 及 び 成 績 評 価
VI	進 級 に つ い て
VII	ク ラ ス 制 及 び ク ラ ス 主 任
VIII	教 職 課 程 ・ 資 格 講 座
IX	事 務 取 扱 い に つ い て
X	学 籍 に つ い て
XI	既 修 得 単 位 の 認 定 に つ い て
XII	届 書 ・ 願 書 に つ い て
XIII	各 種 証 明 書 取 扱 い 窓 口
	試 験 実 施 規 程 (抜 粋)
	講 義 内 容

目 次

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制 (3)
2. 授業科目の単位数 (3)
3. 授業科目の区分 (3)

II 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数 (7)
2. 卒業論文 (8)
3. 卒業及び学位記の授与 (8)

III 授業科目の履修方法

1. 一般教育科目の履修方法 (11)
2. 外国語科目の履修方法 (12)
3. 保健体育科目の履修方法 (14)
4. 基礎教育科目の履修方法 (15)
5. 専門教育科目の履修方法 (16)
6. 他学部科目の履修方法 (24)
7. 随意科目の履修方法 (26)
8. 再履修科目の履修方法 (26)
- ※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法 (26)

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録 (29)
2. 履修届記入上の注意 (31)
3. 履修届（時間割）の作成順序 (32)
4. 授業時間 (32)

V 試験及び成績評価

1. 定期試験 (35)
2. 中間試験 (35)
3. 追・再試験 (35)
4. 受験心得 (36)
5. 成績評価・単位認定 (36)
6. 試験時間 (37)
7. 成績発表 (37)

VI	進級について	(41)
VII	クラス制及びクラス主任	(45)
VIII	教職課程・資格講座	(45)
IX	事務取扱いについて	
	1. 事務室の事務受付時間	(49)
	2. 休 講	(49)
	3. 掲示・連絡	(49)
	4. 問い合わせ	(49)
X	学籍について	
	1. 修業年限と在学年数	(53)
	2. 休 学	(53)
	3. 復 学	(53)
	4. 退 学	(54)
	5. 除 籍	(54)
	6. 懲 戒	(54)
	7. 編 入 学	(54)
	8. 再 入 学	(54)
	9. 転部・転科	(54)
	10. 留 学	(55)
	11. 学生氏名・保証人	(55)
	12. 学生番号	(55)
XI	既修得単位の認定について	(59)
XII	届書・願書について	(63)
XIII	各種証明書取扱い窓口	(67)
	試験実施規程（抜粋）	(71)
	講 義 内 容	(73)



I 単 位 制 と 学 年 制

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

大学では単位制が採用されている。単位制とは、授業科目を履修して試験に合格することにより、各授業科目ごとに定められている単位を修得する制度である。また、学年制とは、単位制に基づく学修過程を第1学年から第4学年の段階を辿って計画的に修学し、一定の単位を修得すれば上級学年に進級していく制度である。

本学では、授業科目の履修と単位の修得を体系的、かつ合理的に進められるように単位制と学年制を併用した教育システムを採用している。

※ 進級についての基準はP.41を参照のこと。

2. 授業科目の単位数

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して大学設置基準を基に学則において定めている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

- | | | |
|-----------|--------------------------|-----------|
| 1. 一般教育科目 | (人文分野・社会分野・自然分野) …………… | 選択必修科目 |
| 2. 外国語科目 | (第1外国語・第2外国語) …………… | 選択必修科目 |
| 3. 保健体育科目 | (講義・実技) …………… | 必修科目 |
| 4. 基礎教育科目 | (専門教育科目の基礎となる科目) …………… | 必修科目 |
| 5. 専門教育科目 | (専門的知識を内容とする科目) …………… | 必修科目・選択科目 |
| 6. 他学部科目 | (履修可能な他学部公開設置科目) …………… | 選択科目 |
| 7. 随意科目 | (卒業に必要な単位に含まれない科目) …………… | 選択科目 |

- ※ 必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目
選択必修科目 …… 数科目の中から所定の科目数又は単位数を選び、必ず履修しなければならない科目
選択科目 …… 自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数

A. 平成3年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	3	12	24	} 132以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	1	4		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専門教育科目	必 修	8	32	88	
	選 択	12	48		
	卒業論文(必修)		8		

B. 平成2年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	3	12	24	} 132以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	1	4		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		4	16	16	
専門教育科目	必 修	14	38	76	
	選 択		30		
	卒業論文(必修)		8		

2. 卒業論文

卒業論文は、あらかじめ自己の研究目標に基づき、2年次以降その研究目標に関連する科目を履修し、4年次で提出しなければならない。

指導教授及び論題は、原則として演習Ⅰ、演習Ⅱに基づいて決定することが望ましい。

提出された卒業論文（1部）は審査の上、合格者には8単位を認定する。

イ. 論題提出について

- (1) 論題は所定の用紙「卒業論文論題届」に楷書で正確に記入の上、指導教授の承認印を受けて提出すること。
- (2) 提出された論題の変更は原則として認めない。

論題提出期間 5月25日（木）～6月12日（月）正午まで（教務部⑥番窓口）

ロ. 論文作成について

- (1) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。
- (2) 論文は提出した論題により作成すること。
- (3) 論文は所定用紙（大学売店にて販売）を使用すること。
- (4) 論文は楷書でていねいに書くこと。
- (5) 論文の枚数・表紙・体裁等については別に指示する。
- (6) 論文作成にあたっては『卒業論文作成の手引』を参照のこと。

ハ. 論文提出について

- (1) 論文は論題受付印のある「卒業論文審査願」とともに提出すること。
- (2) 卒業論文審査願と論文表紙の論題は同一であること。
- (3) 論文は誤字・脱字・内容等について再点検し、提出すること。

論文提出期間 12月1日（金）～11日（月）正午まで（教務部⑥番・臨時窓口）

〔提出期限に遅れたとき、または授業料その他の学費を納入していない場合は受理しない。〕

ニ. 論文審査について

論文は指導教授によって審査・口頭試問を行い可否を判定する。

口頭試問日 2月6日（火）

3. 卒業及び学位記の授与

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には、卒業証書・学位記が授与され、次の学士の学位が与えられる。

仏教学部 禅学科 …… 学士（禅学）
 仏教学科 …… 学士（仏教学）

Ⅲ 授業科目の履修方法

Ⅲ 授業科目の履修方法

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配当する。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が示されている科目は、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし、再履修又は指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低及び最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次及び2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 「宗教学Ⅰ」を1年次の必修科目とする。
- ハ. 2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

人文分野	3科目	計12単位	}	合計6科目	24単位
社会分野	2科目	計8単位			
自然分野	1科目	4単位			

分 野	授 業 科 目	単 位	履 修 科 目 数	修 得 単 位	計	備 考
人文分野	宗教学Ⅰ（1年次必修）	4	「宗教学Ⅰ」を 含めて3科目選 択必修	12	}	
	哲 学	4				
	論 理 学	4				
	文 学	4				
社会分野	法 学 憲 法 （日本国憲法2単位を含む）	4	2科目選択必修	8	}	教員免許状を取 得しようとする ものは「法学憲 法」を必修とす る。
	経 済 学	4				
	社 会 学	4				
自然分野	自 然 科 学 概 論	4	1科目選択必修	4	}	
	心 理 学	4				
	人 類 学	4				

※「宗教学Ⅰ」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6か国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した英語以外の外国語の2か国語を履修することになる。その2か国語を、1年次及び2年次において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

履修年次	第1外国語		第2外国語		計	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2	4	4	8
2年次	2	4	—	—	2	4
計	4	8	2	4	6	12

1年次の履修

6か国語のうち英語ⅠA・ⅠBの2科目と、入学手続の際に指定した英語以外の外国語ⅠA・ⅠBの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数
英語ⅠA	2		ⅠA・ⅠBの2科目を必修とする。ただしⅠAは「英会話Ⅰ（定員40名）」又は「英語LLⅠ（定員30名）」に振り替えることができる。なお、振り替えを希望する者は、最初の授業に『履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。
英語ⅠB	2		
英会話Ⅰ	2		
英語LLⅠ	2	視聴覚教材を使用した語学教育	5か国語のうちから入学手続の際指定した1か国語ⅠA・ⅠBの2科目を必修とする。
ドイツ語ⅠA	2	文 法	
ドイツ語ⅠB	2	講 読	
フランス語ⅠA	2	文 法	
フランス語ⅠB	2	講 読	
中国語ⅠA	2		
中国語ⅠB	2		
スペイン語ⅠA	2		
スペイン語ⅠB	2		
ロシア語ⅠA	2		
ロシア語ⅠB	2		

※ 英語科目内容

英語ⅠA：意思表示と意思伝達の基礎を把握する。

英語ⅠB：講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

※ LL……ランゲージ・ラボラトリー

※「英語ⅠB」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修した2か国語のうち、いずれかを第1外国語としてⅡA・ⅡBの2科目4単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
英 語 Ⅱ A	2		中 国 語 Ⅱ A	2	
英 語 Ⅱ B	2		中 国 語 Ⅱ B	2	
ド イ ツ 語 Ⅱ A	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ A	2	
ド イ ツ 語 Ⅱ B	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ B	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ A	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ A	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ B	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ B	2	

※ 英語科目内容

英語ⅡA：意思表現と意思伝達の能力を発展させ、応用力を修得する。

英語ⅡB：講読を通し、はば広い教養を修得する。

外国語科目履修上の注意

イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号により該当するクラスで履修すること。

ロ. 1年次の9月25日（月）～29日（金）までの期間内に、現在履修の外国語（英語と他の1か国語）の中から2年次に履修する外国語（第1外国語）を指定し、登録すること。なお、登録後の変更はできないので、十分考慮の上行うこと。

また、登録をしない場合、外国語の履修ができなくなることもあるので、登録は必ず行うこと。

ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。

ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める（P.26参照）。

ホ. 2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は1年次に「保健体育理論」を1科目2単位、実技は1年次に「体育実技Ⅰ」を1科目1単位と2年次に「体育実技Ⅱ」を1科目1単位、計3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期又は後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期又は後期

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は月曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰ（再履修クラス含む）の種目等の説明は、最初の授業に『体育実技受講要領』を配布して行うので、必ず出席すること。なお、当日の服装は、普段着でよい。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期又は後期の体育実技Ⅱの授業

B. 後期（冬季休業中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休業中）又は後期（冬季休業中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コース及び集中授業等の申込み方法については、『体育実技受講要領』を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

4. 基礎教育科目の履修方法

A. 平成3年度以降入学生適用

基礎教育科目とは専門教育科目の基礎となる授業科目で、1年次において1科目4単位を必修とする。

履修年次	学 科	授 業 科 目	単 位	備 考
1 年 次	禪 学 科	禪学序説	4	
	仏 教 学 科	仏教学序説	4	

B. 平成2年度以前入学生適用

基礎教育科目とは専門教育科目の基礎となる授業科目で、1年次・2年次において4科目16単位を必修とする。

履修年次	授 業 科 目	単 位	備 考
1 年 次	基礎仏教学	4	(禪学科) 禪学序説 (仏教学科) 仏教学序説
	仏書解説Ⅰ	4	
2 年 次	仏教語解説	4	
	仏書解説Ⅱ	4	

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は禅学科と仏教学科で異なる。

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討すること。なお、一度単位を修得した科目については再度履修することはできない。

禅 学 科

必修科目 (40単位)

A. 平成3年度以降入学生適用

	授業科目	単位	科 目 内 容	備 考
二年次	坐 禅 I	4	坐禅 (坐禅儀)	
	宗 典	4	正法眼蔵・伝光録	
三年次	演 習 I	4		※
四年次	卒 業 論 文	8	8 頁参照	
二・三 年次	禅学 研究 I	4	教義に関するもの	} 2 年次 1 科目のみ 3 年次 1 科目のみ 計 2 科目 8 単位 選 択 必 修
	禅学 研究 II	4	実践に関するもの	
	禅学 研究 III	4	教団に関するもの	
	禅学 研究 IV	4	歴史に関するもの	
	インド仏教史	4		} 1 科目 4 単位のみ 選 択 必 修
	パーリ仏教史	4		
	チベット仏教史	4		
	中国 仏教史	4		
	朝鮮 仏教史	4		
	日本 仏教史	4		
中国 禅宗史	4			
日本 禅宗史	4			
三・四 年次	禅籍 講読 I	4	【中国初期】二入四行論・絶観論・六祖壇経・参同契 等	} 3 年次 1 科目のみ 4 年次 1 科目のみ 計 2 科目 8 単位 選 択 必 修
	禅籍 講読 II	4	【中国後期】宏智録・従容録・如浄録・臨済録 等	
	禅籍 講読 III	4	【日本初期】正法眼蔵・永平広録・伝光録・信心銘拈提 等	
	禅籍 講読 IV	4	【日本後期】元山広録・面山広録・五家参詳要路門・盤詰禅師語録 等	

※ 演習 I・演習 II (選択科目) の履修方法については、2 年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので掲示に注意すること。

禅学 科

選 択 科 目 (48単位以上)

A. 平成3年度以降入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
1・2・3・4年次選択			仏教研究Ⅳ	4		宗教行政	4	隔年開講 休講
宗 教 史	4		仏教特講Ⅰ	4		新宗教概説	4	輪 番 開 講 本 年 度 新 宗 教 概 説
日 用 経 典	4		仏教特講Ⅱ	4		神道概説	4	
中国古典語初級	4		仏教特講Ⅲ	4		宗教哲学	4	
2・3・4年次選択			仏教特講Ⅳ	4		キリスト教概論	4	
仏書解説Ⅰ	4		仏教特講Ⅴ	4		キリスト教史	4	
仏書解説Ⅱ	4		仏教特講Ⅵ	4		パーリ語初級	4	
仏教語解説	4		インド仏教思想史	4		パーリ語上級	4	
禅学概論	4		中国仏教思想史	4		サンスクリット語初級	4	
禅学研究Ⅰ	4	必修としたをこ 科目以外をこ 履修する と	インド仏教文化史	4	休講	サンスクリット語上級	4	
禅学研究Ⅱ	4		パーリ仏教特講	4	休講	チベット語初級	4	
禅学研究Ⅲ	4		仏典研究	4		チベット語上級	4	
禅学研究Ⅳ	4		原始仏教	4		中国古典語上級	4	※イ
禅学特講Ⅰ	4		外国語仏書演習	4		ラテン語特講	4	
禅学特講Ⅱ	4		各宗綱要(浄土学)	4	輪 番 開 講 本 年 度 浄 土 学 は	青少年問題研究	4	
禅学特講Ⅲ	4		各宗綱要(真言学)	4		青少年指導演習	4	
禅学特講Ⅳ	4		各宗綱要(日蓮教学)	4		心理学概論	4	
禅学特講Ⅴ	4		仏教民俗学	4		詩 偈	4	
禅学思想史	4		仏教美術	4		書 道	4	
禅 美 術	4		仏教伝道概説	4		3・4年次選択		
禅 心 理 学	4		仏教伝道研究	4		坐 禅 Ⅱ	4	※ロ
インド仏教史	4	必修としたをこ 科目以外をこ 履修する と	哲学概説	4		禅籍講読Ⅰ	4	必修としたをこ 科目以外をこ 履修する と
パーリ仏教史	4		現代哲学概説	4		禅籍講読Ⅱ	4	
チベット仏教史	4		哲 学 史	4		禅籍講読Ⅲ	4	
中国仏教史	4		哲学史特講	4		禅籍講読Ⅳ	4	
朝鮮仏教史	4		哲学演習	4		仏典講読Ⅰ	4	
日本仏教史	4		インド哲学史	4		仏典講読Ⅱ	4	
中国禅宗史	4		中国哲学史	4		仏典講読Ⅲ	4	
日本禅宗史	4		東洋思想研究	4		仏典講読Ⅳ	4	
仏教概論	4		中国文学概論	4		4年次選択		
仏教研究Ⅰ	4		中国文学演習	4		演 習 Ⅱ	4	
仏教研究Ⅱ	4		宗教学概論	4				
仏教研究Ⅲ	4		宗教教育	4				

※イ. 中国古典語初級を修得していなくても履修することができる。

※ロ. 坐禅Ⅱは曹洞宗教師資格取得を希望するものは履修することが望ましい。

禪 学 科

必 修 科 目 (46単位)

B. 平成2年度以前入学生適用

	授業科目	単位	科 目 内 容	備 考
二 年 次	禪 学 概 論	4		
	禪 宗 史 I	2	中国禪宗史	
	宗典講読 I	2	修証義・用心集・随聞記	
	禪学実習 I	2	坐禅（坐禅儀）	
三 年 次	宗典講義 I	4	正法眼蔵	
	禪 宗 史 II	2	日本禪宗史	
	宗典講読 II	2	大清規・信心銘拈提	
	禪 学 講 義	2	参同契・宝鏡三昧・証道歌	
	禪学演習 I	2	碧巖録・従容録・無門関	
	禪学実習 II	2	坐禅（用心記）	
四 年 次	演 習 I	4		
	宗典講義 II	4	伝光録	
	禪学演習 II	2	洞山録・永平語録・臨濟録	
	演 習 II	4		
	卒 業 論 文	8	8 頁参照	

※ 演習 I・演習 II の履修方法については、2 年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので
 掲示に注意すること。

禅学 科

選択科目 (30単位以上)

B. 平成2年度以前入学生適用

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
1・2・3・4年次選択			仏教研究Ⅲ	4		東洋思想研究	4	
宗 教 史	4		仏教研究Ⅳ	4		中国文学概論	4	
日 用 経 典	4		仏教特講Ⅰ	4		中国文学演習	4	
中国古典語初級	4		仏教特講Ⅱ	4		宗 教 学 概 論	4	
2・3・4年次選択			仏教特講Ⅲ	4		宗 教 教 育	4	
禅学 研究Ⅱ	4		仏教特講Ⅳ	4		宗 教 行 政	4	隔年開講 休 講
禅学 研究Ⅳ	4		仏教特講Ⅴ	4		新 宗 教 概 説	4	輪 番 開 講 本 年 度 は 「新 宗 教 概 説」
禅学 特 講Ⅰ	4		仏教特講Ⅵ	4	旧「仏教研究」	神 道 概 説	4	
禅学 特 講Ⅱ	4		インド仏教文化史	4	旧「印度仏教文化史」 休 講	宗 教 哲 学	4	
禅学 特 講Ⅲ	4		パーリ仏教特講	4	休 講	キリスト教概論	4	
禅学 特 講Ⅳ	4		仏 典 研 究	4		キリスト教史	4	
禅学 特 講Ⅴ	4	旧「禅特講」	原 始 仏 教	4		パーリ語初級	4	
禅学 思想史	4		外国語仏書演習	4		パーリ語上級	4	
禅 美 術	4		各宗綱要(浄土学)	4	輪 番 開 講 本 年 度 は 「浄土学」	サンスクリット語初級	4	
禅 心 理 学	4		各宗綱要(真言学)	4		サンスクリット語上級	4	
インド仏教史	4	旧「印度仏教史」	各宗綱要(日蓮教学)	4		チベット語初級	4	旧「チベ(文法)」
パーリ仏教史	4		仏 教 民 俗 学	4		チベット語上級	4	旧「チ(講説)」
チベット仏教史	4	旧「仏教史特講Ⅱ」 (チベット)	仏 教 美 術	4		中国古典語上級	4	※
中国 仏 教 史	4		仏教伝道概説	4	旧「教化法」	ラテン語特講	4	
朝鮮 仏 教 史	4	旧「仏教史特講Ⅰ」 (朝鮮)	仏教伝道研究	4	旧「青少年教化法」	青少年問題研究	4	
日本 仏 教 史	4		哲 学 概 説	4		青少年指導演習	4	
仏 教 概 論	4		現 代 哲 学 概 説	4		心 理 学 概 論	4	
仏教教理史Ⅰ	2	印度	哲 学 史	4		詩 偈	4	
仏教教理史Ⅱ	2	中国	哲 学 史 特 講	4		書 道	4	
仏 教 研 究Ⅰ	4		哲 学 演 習	4				
仏 教 研 究Ⅱ	4		中国哲学史	4				

※ 中国古典語初級を修得していなくても履修することができる。

[廃講科目] (平成3年度から)

禅学研究・禅籍講義・パーリ語演習・サンスクリット語演習

[名称変更科目] (平成3年度から)

新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称	新 名 称	旧 名 称
仏教特講Ⅵ	— 仏教研究	禅学特講Ⅴ	— 禅 特 講
インド仏教史	— 印度 仏 教 史	チベット語初級	— チベット語(文法)
インド仏教文化史	— 印度 仏 教 文 化 史	チベット語上級	— チベット語(講説)
朝鮮 仏 教 史	— 仏教史特講Ⅰ 朝鮮	仏教伝道概説	— 教 化 法
チベット 仏 教 史	— 仏教史特講Ⅱ チベット	仏教伝道研究	— 青 少 年 教 化 法

仏 教 学 科

必 修 科 目 (40単位)

A. 平成3年度以降入学生適用

	授業科目	単位	科 目 内 容	備 考
二年次	坐 禅 I	4	坐禅(坐禅儀)	
	宗 典	4	正法眼蔵・伝光録	
三年次	演 習 I	4		※
四年次	卒 業 論 文	8	8頁参照	
二・三 年次	仏教研究Ⅰ	4	教義に関するもの	} 2年次1科目のみ 3年次1科目のみ 計2科目8単位 選 択 必 修
	仏教研究Ⅱ	4	実践に関するもの	
	仏教研究Ⅲ	4	教団に関するもの	
	仏教研究Ⅳ	4	歴史に関するもの	
	インド仏教史	4		} 1科目4単位のみ 選 択 必 修
	パーリ仏教史	4		
	チベット仏教史	4		
	中国仏教史	4		
	朝鮮仏教史	4		
	日本仏教史	4		
	中国禅宗史	4		
	日本禅宗史	4		
	三・四 年次	仏典講読Ⅰ	4	
仏典講読Ⅱ		4	大乘仏教(般若経・法華経・華嚴経・中論等)	
仏典講読Ⅲ		4	中国仏教(三論玄義・摩訶止観・華嚴五教章・四分律行事鈔等)	
仏典講読Ⅳ		4	日本仏教(三経義疏・顯成論・往生要集・數異抄等)	

※ 演習Ⅰ・演習Ⅱ(選択科目)の履修方法については、2年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので掲示に注意すること。

仏教学科

選択科目(48単位以上)

A. 平成3年度以降入学生適用

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
1・2・3・4年次選択			インド仏教史	4	必修とした科目以外を履修すること	宗教行政	4	隔年開講 休講
宗教史	4		パーリ仏教史	4		新宗教概説	4	輪番開講は 本年度は 「新宗教概説」
日用経典	4		チベット仏教史	4		神道概説	4	
中国古典語初級	4		中国仏教史	4		宗教哲学	4	
2・3・4年次選択			朝鮮仏教史	4		キリスト教概論	4	
仏書解説Ⅰ	4		日本仏教史	4		キリスト教史	4	
仏書解説Ⅱ	4		中国禅宗史	4		パーリ語初級	4	
仏教語解説	4		日本禅宗史	4		パーリ語上級	4	
仏教概論	4		禅学概論	4		サンスクリット語初級	4	
仏教研究Ⅰ	4	必修とした科目以外を履修すること	禅学研究Ⅰ	4		サンスクリット語上級	4	
仏教研究Ⅱ	4		禅学研究Ⅱ	4	チベット語初級	4		
仏教研究Ⅲ	4		禅学研究Ⅲ	4	チベット語上級	4		
仏教研究Ⅳ	4		禅学研究Ⅳ	4	中国古典語上級	4	※イ	
仏教特講Ⅰ	4		禅学特講Ⅰ	4	ラテン語特講	4		
仏教特講Ⅱ	4		禅学特講Ⅱ	4	青少年問題研究	4		
仏教特講Ⅲ	4		禅学特講Ⅲ	4	青少年指導演習	4		
仏教特講Ⅳ	4		禅学特講Ⅳ	4	心理学概論	4		
仏教特講Ⅴ	4		禅学特講Ⅴ	4	詩 偈	4		
仏教特講Ⅵ	4		禅学思想史	4	書 道	4		
インド仏教思想史	4		禅 美 術	4	3・4年次選択			
中国仏教思想史	4		禅 心 理 学	4	坐 禅 Ⅱ	4	※ロ	
インド仏教文化史	4	休講	哲学概説	4	仏典講読Ⅰ	4	必修とした科目以外を履修すること	
パーリ仏教特講	4	休講	現代哲学概説	4	仏典講読Ⅱ	4		
仏典研究	4		哲学史	4	仏典講読Ⅲ	4		
原始仏教	4		哲学史特講	4	仏典講読Ⅳ	4		
外国語仏書演習	4		哲学演習	4	禅籍講読Ⅰ	4		
各宗綱要(浄土学)	4	輪番開講は 本年度は 「浄土学」	インド哲学史	4	禅籍講読Ⅱ	4		
各宗綱要(真言学)	4		中国哲学史	4	禅籍講読Ⅲ	4		
各宗綱要(日蓮教学)	4		東洋思想研究	4	禅籍講読Ⅳ	4		
仏教民俗学	4		中国文学概論	4	4年次選択			
仏教美術	4		中国文学演習	4	演 習 Ⅱ	4		
仏教伝道概説	4		宗教学概論	4				
仏教伝道研究	4		宗教教育	4				

※イ. 中国古典語初級を修得していなくても履修することができる。

※ロ. 坐禅Ⅱは曹洞宗教師資格取得を希望するものは履修することが望ましい。

仏教学科

必修科目(46単位)

B. 平成2年度以前入学生適用

	授業科目	単位	科目内容	備考
二 年 次	仏教概論	4		
	仏教教理史Ⅰ	2	印度仏教教理史	
	仏典演習Ⅰ	2	原人論・覚夢抄・七十五法	
	禅学実習Ⅰ	2	坐禅(坐禅儀)	
三 年 次	仏教教理史Ⅱ	2	中国仏教教理史	
	印度哲学史	2		
	経典講読Ⅰ	2	法句経・四十二章経・遺教経・ 心経・金剛般若経	
	仏典演習Ⅱ	2	起信論・三論玄義・四教儀・ 五教章	
	宗典講義Ⅰ	4	正法眼蔵	
	禅学実習Ⅱ	2	坐禅(用心記)	
	演習Ⅰ	4		
四 年 次	経典講読Ⅱ	2	法華経(寿量品・普門品) 般若経・維摩経	
	宗典講義Ⅱ	4	伝光録	
	演習Ⅱ	4		
	卒業論文	8	8頁参照	

※ 演習Ⅰ・演習Ⅱの履修方法については、2年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので
掲示に注意すること。

仏教学科

選択科目 (30単位以上)

B. 平成2年度以前入学生適用

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
1・2・3・4年次選択			仏教伝道研究	4	旧「青少年教化法」	東洋思想研究	4	
宗 教 史	4		インド仏教史	4	旧「印度仏教史」	中国文学概論	4	
日 用 経 典	4		パーリ仏教史	4		中国文学演習	4	
中国古典語初級	4		チベット仏教史	4	旧「仏教史特講Ⅱ」 (チベット)	宗 教 学 概 論	4	
2・3・4年次選択			中国仏教史	4		宗 教 教 育	4	
仏 教 研 究 Ⅰ	4		朝鮮仏教史	4	旧「仏教史特講Ⅰ」 (朝鮮)	宗 教 行 政	4	隔年開講 休 講
仏 教 研 究 Ⅱ	4		日本仏教史	4		新 宗 教 概 説	4	輪 番 開 講 本 年 度 は 「新宗教概説」
仏 教 研 究 Ⅲ	4		禅学概論	4		神 道 概 説	4	
仏 教 研 究 Ⅳ	4		禅宗史Ⅰ	2	中国	宗 教 哲 学	4	
仏 教 特 講 Ⅰ	4		禅宗史Ⅱ	2	日本	キリスト教概論	4	
仏 教 特 講 Ⅱ	4		禅学研究Ⅱ	4		キリスト教史	4	
仏 教 特 講 Ⅲ	4		禅学研究Ⅳ	4		パーリ語初級	4	
仏 教 特 講 Ⅳ	4		禅学特講Ⅰ	4		パーリ語上級	4	
仏 教 特 講 Ⅴ	4		禅学特講Ⅱ	4		サンスクリット語初級	4	
仏 教 特 講 Ⅵ	4	旧「仏教研究」	禅学特講Ⅲ	4		サンスクリット語上級	4	
インド仏教文化史	4	旧「印度仏教文化史」 休 講	禅学特講Ⅳ	4		チベット語初級	4	旧「チ語(文法)」
パーリ仏教特講	4	休 講	禅学特講Ⅴ	4	旧「禅特講」	チベット語上級	4	旧「チ語(講読)」
仏 典 研 究	4		禅学思想史	4		中国古典語上級	4	※
原 始 仏 教	4		禅 美 術	4		ラテン語特講	4	
外国語仏書演習	4		禅 心 理 学	4		青少年問題研究	4	
各宗綱要(浄土学)	4	輪 番 開 講 本 年 度 は 「浄土学」	哲学概説	4		青少年指導演習	4	
各宗綱要(真言学)	4		現代哲学概説	4		心 理 学 概 論	4	
各宗綱要(日蓮教学)	4		哲 学 史	4		詩 偈	4	
仏 教 民 俗 学	4		哲学史特講	4		書 道	4	
仏 教 美 術	4		哲学演習	4				
仏教伝道概説	4	旧「教化法」	中国哲学史	4				

※ 中国古典語初級を修得していなくても履修することができる。

〔廃講科目〕 (平成3年度から)

禅学研究・禅籍講義・パーリ語演習・サンスクリット語演習

〔名称変更科目〕 (平成3年度から)

新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称	新 名 称	旧 名 称
仏 教 特 講 Ⅵ	仏 教 研 究	禅 学 特 講 Ⅴ	禅 特 講
インド仏教史	印 度 仏 教 史	チベット語初級	チベット語(文法)
インド仏教文化史	印 度 仏 教 文 化 史	チベット語上級	チベット語(講読)
朝鮮仏教史	仏 教 史 特 講 Ⅰ	仏 教 伝 道 概 説	教 化 法
チベット仏教史	仏 教 史 特 講 Ⅱ	仏 教 伝 道 研 究	青 少 年 教 化 法

6. 他学部科目の履修方法

所属している学科以外の学科，他学部又は短期大学の授業科目の履修を希望する学生は，次の要領で履修することができる。

なお，履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とする。

イ. 履修科目

他学部・他学科又は短期大学に開設されている授業科目のうち，他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とする。（他学部履修科目一覧表P.25参照）

ロ. 履修年次

3・4年次生を対象とし，授業科目開設学科の定める年次とする。

ハ. 履修科目数

履修できる科目数は，卒業までに3科目12単位以内とする。

なお，その履修科目は所属学科の履修制限科目数に含める。

ニ. 履修方法

(1) 「履修要項」の講義内容を参考に，『他学部履修科目授業時間表』の中から履修科目を選択し，

『他学部履修願』用紙に必要事項を記入の上，最初の授業に出席し担当教員の受講許可を受ける。

なお，『他学部履修科目授業時間表』及び『他学部履修願』用紙は，教務部⑩番窓口で配布する。

(2) 『履修届』に記入し，『履修許可書』を添えて，所定の期日（履修届提出時）に提出すること。

ホ. 履修登録上の注意

(1) 所属学科の開設科目は，他学部科目として履修登録できない。

(2) 他学部科目は，『他学部履修科目授業時間表』に記載の専用コード（005…）で登録すること。

(3) 同一名称（開設学科が異なる）の授業科目は，1科目のみ履修することができる。

ヘ. 再履修

他学部科目が不合格となり再度履修を希望する場合は，改めて前項の手続きを経なければならない。

なお，再履修の取扱いについては『再履修科目の履修方法』（P.26）を参照のこと。

ト. 単位認定

修得した単位は，所属学科の専門教育科目の選択科目の単位として認定し，卒業所要単位に算入することができる。

他学部履修科目一覧表

開設学科	授業科目	単位	履修年次	備考	開設学科	授業科目	単位	履修年次	備考
国文学科	上代文学	4	3・4		商学 科	財務会計論	4	3・4	
	中世文学	4	3・4			管理会計論	4	3・4	
	近世文学	4	3・4			会計監査論	4	3・4	
	近代文学	4	3・4			商業政策	4	3・4	
	中国文学	4	3・4			貿易論	4	3・4	
英米文学科	英文学特講Ⅰ	4	3・4			マーケティング	4	3・4	
	英文学特講Ⅱ	4	3・4			原価計算論	4	3・4	休講
	英文学特講Ⅲ	4	3・4			労務管理論	4	3・4	
	英文学特講Ⅳ	4	3・4			経営管理論	4	3・4	
	英文学特講Ⅴ	4	3・4			法律学科	行政法Ⅱ	4	3・4
	英文学特講Ⅵ	4	3・4		民法Ⅳ(1)		4	3・4	
	英米演劇特講	4	3・4		民法Ⅳ(2)	4	4		
	米文学特講Ⅰ	4	3・4		政治学科	比較憲法	4	3・4	
	米文学特講Ⅲ	4	3・4			地方自治法	4	3・4	
時事英語	4	3・4		経済法		4	3・4		
地理学科	地質学	4	3・4			国際関係論	4	3・4	
	地形学Ⅰ	4	3・4			西洋政治史	4	3・4	
	人口地理学	4	3・4			宣伝広告論	4	3・4	
	応用地理学Ⅰ	4	3・4			比較社会構造論	4	3・4	休講
	文化地理学	4	3・4			政党論	4	3・4	
歴史学科	日本仏教史Ⅱ	4	3・4	休講	経営学 科	国際経営論	4	3・4	休講
	日本史特講Ⅶ(近代)	4	3・4			経営統計	4	3・4	休講
	東洋史特講Ⅹ(近・現代)	4	3・4			保険経営論	4	3・4	
	西洋文化史Ⅰ	4	3・4			財務会計論	4	3・4	
	考古学特講Ⅲ	4	3・4	隔年開講 休講		経営分析論	4	3・4	休講
	歴史哲学	4	3・4			税務会計論	4	3・4	
社会学科	日本民俗学	4	3・4			経営労務論	4	3・4	休講
	マスコミュニケーション	4	3・4			商業史	4	3・4	
	産業社会学	4	3・4			経営情報論	4	3・4	
	都市社会学	4	3・4			情報理論	4	3・4	
経済学科	社会福祉発達史	4	3・4		短大 国文科	国文講読Ⅰ(上代)	2	3・4	
	ロシア・東欧経済論	4	3・4	※イ		国文講読Ⅱ(中古)	2	3・4	
	社会政策	4	3・4			国文講読Ⅲ(中世)	2	3・4	
	国民所得論	4	3・4			国文講読Ⅳ(近世)	2	3・4	
	中国経済論	4	3・4			国文講読Ⅴ(近・現代)	2	3・4	
	アジア経済論	4	3・4		国文特講Ⅴ(近・現代)	4	3・4		
	日本経済史	4	3・4		短英 文	英文タイプライティングⅡ	2	3・4	※ロ
	中小企業論	4	3・4			時事英語	4	3・4	
教育経済論	4	3・4		大科	英語演習Ⅰ	4	3・4		
アメリカ経済論	4	3・4			計算機言語概論	2	3・4	半期科目 ※ロ	
					短放 射線 大科	臨床放射線特論Ⅰ	2	3・4	半期科目
						応用計測学	2	3・4	半期科目

※イ、「ロシア・東欧経済論」については、「ソビエト経済論」(旧名称)の単位を既に修得している学生は履修できない。

※ロ、「英文タイプライティングⅡ」、「計算機言語概論」については、機器数の関係上選抜により受講者を決定する。

7. 随意科目の履修方法

各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることはできない。

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
日本宗教文化史	4		スペイン語 F	2		中国語PLL(中級)	2	
民間信仰論	4		ロシア語 F	2		スペイン語PLL(初級)	2	
書道史	2	半期科目	英語 L L II	2	※ロ	スペイン語PLL(中級)	2	
編集実務	2	半期科目	ドイツ語PLL(初級)	2		ドイツ語PLL(初級)	2	
英会話 II	2	※ロ	ドイツ語PLL(中級)	2		ドイツ語PLL(中級)	2	
ドイツ語 F	2		フランス語PLL(初級)	2		英語(海外演習)	2	※イ
フランス語 F	2		フランス語PLL(中級)	2				
中国語 F	2		中国語PLL(初級)	2				

※イ。「英語(海外演習)」は、海外姉妹校で行なわれる短期留学セミナーで、1年次生より履修できる。なお、詳細については、講義内容(P.83)を参照のこと。

※ロ。「英会話II」・「英語LLII」の履修を希望する者は、最初の授業に『履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を受けること。

8. 再履修科目の履修方法

イ。再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目(受験しなかった科目を含む)を再度履修することをいう。

ロ。担当教員が違っていても授業科目名が同じであれば、同一科目の再履修となる。

○「英会話I」・「英語LLI」については当該科目の振替である「英語IA」を再履修科目とする。

ハ。外国語科目、体育実技I、保健体育理論及び宗教学Iを再度履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」で履修すること。(授業は本校で行う)

○原級者が同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。

○外国語科目を「再履修クラス」で履修する場合は、最初の授業で『外国語再履修票』を提出して担当教員の許可を受けなければならない。(『外国語再履修票』及び『外国語再履修科目授業時間表』は教務部@番窓口で配布)

○1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法

『外国人留学生』及び『海外帰国子女』の一部を対象とする科目で、原則として1・2年次において履修すること。

○日本語科目は、各所属学科の定めるところにより第1外国語又は第2外国語として履修すること。修得単位は、外国語科目の卒業所要単位に算入する。

○日本事情科目の修得単位は、8科目16単位を超えない範囲で一般教育科目の卒業所要単位に算入する。

○各所属学科の定める一般教育科目及び外国語科目の代替できる単位の範囲を超えて履修した場合は、これを随意科目として単位認定する。

(注) 詳細は、『日本語・日本事情科目の履修要項』を参照すること。

IV 履修科目の登録（履修届）と その作成順序

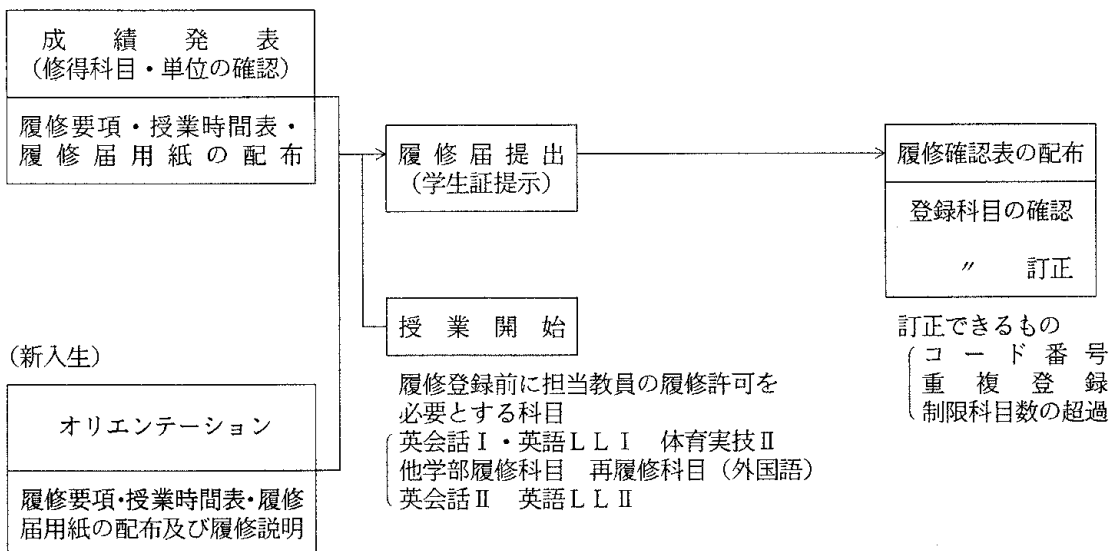
IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録

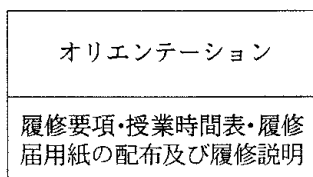
所属する学科、学年に開講されている授業科目のうち履修を希望する科目を授業時間表から選び、『履修届』用紙で届け出ることにより、通年（又は半期）の授業を受けることができる。

履修科目登録の流れ

（在校生）



（新入生）



I) 制限科目数

各年次において履修できる授業科目数は原則として次のとおりである。

年次	履修科目数	課程・講座登録者科目数
1年次	14科目以内	—
2・3年次	14科目以内	18科目以内
4年次	1科目以上	

イ. 再履修科目、体育実技Ⅱ及び随意科目は、上記表の制限外とする。

（注）再度履修する科目であっても、前年度において履修登録していない場合は、再履修科目にならない。

ロ. 4年次生の1科目以上とは、再履修科目、体育実技Ⅱ、課程・講座科目及び随意科目等全ての科目を含む。

ハ. 半期科目も1科目とする。

二. 課程・講座科目を履修する場合

認める …… 履修制限科目数 14科目以内+課程・講座科目数=18科目

認めず …… 履修制限科目数 15科目以上+課程・講座科目数=18科目

II) 登録上の注意

イ. 履修届は本人が記入捺印し、指定された日時に学生証提示の上提出すること。(提出しない場合は、学業の意志のないものとして処理する。なお、指定日時に提出できない者は事前に教務部⑨番窓口で相談すること。)

ロ. 履修届は、4月20日(木)9時30分から16時まで教務部臨時窓口で受け付ける。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし、他学部履修科目(P.24参照)は、履修登録できる。

また、教職課程・資格講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが、その場合は『課程・各種講座授業時間表』(教職係窓口で配布)から履修し、教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講、受験しても単位は与えない。

ホ. いったん提出(登録)した履修科目の変更は認めない。

ヘ. 『履修届』用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

III) 履修確認表の配布及び履修届の訂正期間

下記の日・時に教務部臨時窓口において履修確認表を配布する。

(記) 5月23日(火)・24日(水)…… 9:30~16:00 昼休み除く

なお、履修届(本人控)と照合の上、誤りのある場合は、この期間に教務部⑨番窓口で訂正すること。

2. 履修届記入上の注意

授業時間表（例）

曜日	時限	科目名	科目コード	担当者コード	担当者名	
月	1	ドイツ語ⅠA	112201	879	百済 勇	
		~~~~~				
月	2	保健体育理論（前期）	114201	A10	長濱 友雄	
		保健体育理論（後期）	114201	622		
		~~~~~				
月	3	宗 教 学 I	110101	157	岡部 和雄	
		~~~~~				
月	4	論 理 学	110203	306	国嶋 一則	
		~~~~~				
		~~~~~				
月	5	自然科学概論	110401	104	宇和川 正人	
		~~~~~				

正しい記入例

曜日	時限	再履	科目名	科目コード	担当	担当コード
(1)	1		ドイツ語ⅠA	1 1 2 2 0 1	百 済	8 7 9
			~~~~~			
	2		保健体育理論（前期）	1 1 4 2 0 1	長 濱	A 1 0
			~~~~~			
	3		宗 教 学 I	1 1 0 1 0 1	岡 部	1 5 7
4	○	論 理 学	1 1 0 2 0 3	国 嶋	3 0 6	
5		自然科学概論	1 1 0 4 0 1	宇和川	1 0 4	

イ. 楷書体で正確に記入すること。

ロ. 記入の際は、黒のボールペンを使用し、捺印の上提出すること。

ハ. 授業時間表のとおり記入すること。ただし、「担当」欄には、担当教員の姓のみを記入すること。

ニ. 半期終了の科目は「再履」から「担当コード」欄までの中央に点線（上記、正しい記入例参照のこと）を入れ、前期終了科目は上段に後期終了科目は下段に記入すること。

ホ. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。

ヘ. 履修届は電算機で処理しているため、下記の場合には、登録が無効となるので注意すること。

- (1) 科目名・科目コード、担当名（姓のみ）・担当コードが一致しない場合
- (2) 時限を誤って記入した場合
- (3) 判読できない数字で記入した場合（例として間違い易い数字0と6、1と7）
- (4) その他、不明瞭に記入した場合

ト. 体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担当名（姓のみ）・担当コードを記入すること。

チ. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目、外国語科目、保健体育科目及び基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、教職課程・資格講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次の順序で履修する科目を決定すると容易である。

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	（禅学科）禅学序説，（仏教学科）仏教学序説（必修）	1
5	一般教育科目	人文分野：開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野：開講科目の中から2科目を選択必修	2
		自然分野：開講科目の中から1科目を選択必修	1
6	専門教育科目	開講科目の中から1科目を選択	1
1年次履修制限科目数			14

4. 授業時間

授業時間は、次のとおりである。

時限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時間	9：00～10：30	10：40～12：10	12：50～14：20	14：30～16：00	16：10～17：40

V 試験及び成績評価

V 試験及び成績評価

1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月14日（金）～7月20日（木）に、後期及び通年の授業科目の定期試験は1月16日（火）～1月31日（水）に実施する。
- ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。
- ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとした上で提出すること。

なお、指定された日・時以外は一切受理しない。

- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の曜日・時限とし、時間及び教場等については掲示で発表する。

（注意）試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験（同一科目を一括して行う試験）は平常時間割と曜日・時限とも変わるので掲示に十分注意すること。

2. 中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験（レポート提出を含む）のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I) 追 試 験

- イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験（期間外実施・レポート提出を含む）を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。〔締切日は前期7月25日（火）、後期2月5日（月）〕
- ロ. 追試験料は徴収しない。

II) 再 試 験

1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。

卒業年次生に限り下記により実施する。

- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験（期間外実施・レポート提出を含む）を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目1,000円とする。

（注意）前期終了科目の追・再試験は9月26日（火）～10月2日（月）に、後期及び通年科目の追・再試験は卒業年次生・在校生とも2月22日（木）～2月28日（水）に実施する。

III) 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技、禅学実習、坐禅、その他実験実習を伴う科目は、追・再試験ともこれを行わない。
- ロ. 外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担当教員に申し出て指導を受けること。

4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペン又はボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
 - (1) 代人として受験したり、または代人受験を依頼すること。
 - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
 - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
 - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
 - (5) 私語及び動作・メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
 - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
 - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
 - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部⑨番窓口にて手続きをすること。

5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)及び不可(59点～0点)とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。
 - なお、素点に関する問い合わせは一切受け付けない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は良（70点）以下とする。

6. 試験時間

定期試験実施時間(前期)		定期試験実施時間(後期)	
1時限 9:20~10:20	4時限 14:40~15:40	1時限 9:30~10:30	4時限 14:30~15:30
2時限 10:50~11:50	5時限 16:10~17:10	2時限 11:00~12:00	5時限 15:50~16:50
3時限 13:10~14:10		3時限 13:00~14:00	

追・再試験実施時間(前期)
1時限 16:10~17:00
2時限 17:10~18:00

追・再試験実施時間(後期)
1時限 9:30~10:20
2時限 10:50~11:40
3時限 13:00~13:50
4時限 14:10~15:00
5時限 15:20~16:10

※レポート試験は、開始後30分で受付を終了するので、遅れないよう注意すること。

試験実施規程(抜粋)が掲載されている(P.71)ので参照のこと。

7. 成績発表

- イ. 前期終了科目・後期及び通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部⑨番窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担当教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を提示すること。

前期成績発表	9月18日(月), 19日(火)
後期成績発表(卒業年次生)	2月16日(金), 17日(土)
“ (在校生)	4月9日頃

VI 進級について

VI 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級及び注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

- 注意進級とは、進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。
これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。
- 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が1～12単位不足している場合。
原 級 留 置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。または90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が、13単位以上不足している場合。

- ※ 各科目区分・分野における卒業所要単位を超える単位を除いた修得単位数を計算する。
- ※ 随意科目・課程・講座の修得科目を除く。

- VII クラス制及びクラス主任
- VIII 教職課程・資格講座

Ⅶ クラス制及びクラス主任

イ. 1年次は学科毎にクラス制をとっている。

ロ. クラスにはクラス主任（教員）が1名ずつおり、学生の学習指導、生活相談等にあたっているから遠慮なく相談されたい。

Ⅷ 教職課程・資格講座

仏教学部で開講されている資格取得のための課程・講座は、次のとおりである。

課程・講座名	開講年次	備 考
教 職 課 程	2年次より	教員資格取得のためのもので教職課程の所定単位を修得した者は、中学校1種・高等学校1種の各普通免許が取得できる。
学校図書館司書教諭講座	”	学校教育を充実することを目的とする学校図書館の専門職としての資格。
博 物 館 学 講 座	”	社会教育の場としての博物館が十分に利用され、その目的、使命を達成するための学芸員の資格。
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	”	社会福祉を増進させるための機関等における専門職としての資格。（社会福祉士の基礎科目も修得可能）
社会教育主事講座	”	社会教育活動を行う者に対し、求めに応じて専門的・技術的な助言と指導を与える教育専門職としての資格。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋（11月中旬）に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」及び「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

（授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること。）

なお、ガイダンスの日時等については、実施1か月前から掲示板で、その旨指示する。

IX 事務取扱いについて

IX 事務取扱いについて

1. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務受付時間は、9時から16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表等各申込の受付は、9時30分から16時までとする。

2. 休 講

- イ. 休講は担当教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑩番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、JR東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）又は東急がストライキを行っている場合の授業は全面休講とする。

3. 掲示・連絡

学生に対する公示・告示及び学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示又は郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

4. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

X 学籍について



X 学籍について

1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことをいう。(本大学の修業年限は4年)
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有することができる期間のことで、本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

2. 休 学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは、理由を付し、保証人連署のうえ願い出て休学の許可を得なければならない。

I) 休学の手続き

イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。

- (1) 傷病の場合は、医師の診断書
- (2) 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類及び在留地届
- (3) その他の理由の場合は、事前に窓口で相談の上、保証人連署の休学を必要とする理由書

ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。

ハ. 休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

II) 休学の期間

イ. 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。

ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1年に限り休学することができる。

ハ. 休学期間は通算4年を超えることはできない。

ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

III) 休学する場合の学費

休学を願い出る者は当該期の学費を納入していること。

休 学 願 提 出 日	学 費
4月1日～9月20日	第1期(前期)分納入済のこと。(第2期分免除)
9月21日～11月30日	第1期(前期)分・第2期(後期)分共納入のこと。

IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

3. 復 学

イ. 休学した者が復学する場合は、第1期(前期)学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得ること。

ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

4. 退 学

傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し許可を得ること。

- イ. 退学願は、退学理由を付し保証人連署で願出ること。
- ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。
- ハ. 退学年月日は次のとおりとする。
 - (1) 当該期学費納入者 …… 退学願提出日
 - (2) 当該期学費未納者 …… 学費納入済学期の最終日

5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

- イ. 在学年数を越えた者
- ロ. 休学期間を越えた者
- ハ. 学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

6. 懲 戒

- イ. 本大学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。
- ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。
 - (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
 - (3) 正当の理由がなくて出席常でない者
 - (4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

7. 編 入 学

本大学卒業生（卒業見込者を含む）が編入学を希望するときは、選考の上入学を許可することがある。ただし、編入学の学年は、単位を修得した授業科目によっては、2年次となる場合がある。

8. 再 入 学

本大学を退学した者又は除籍された者で、再入学を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。

- イ. 入学後1年未満で退学した者又は除籍された者は対象としない。
- ロ. 退学又は除籍後3年以内の者とする。（出願時を基準とする）
- ハ. 再入学者の在学年数は、従前在学した年数と通算し7年以内とする。

9. 転部・転科

本大学の学生で、同一学部の他学科又は他の学部学科に転科もしくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。（学科により異なる）

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

10. 留 学

本大学の学生で、外国の大学又は短期大学の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経てこれを許可することがある。

イ. 履修した授業科目の修得単位については、本大学において修得したものとみなし、卒業所要単位に算入することができる。

ロ. 留学期間は在学年数に算入する。

11. 学生氏名・保証人

イ. 学生氏名は、住民票記載事項証明書又は外国人登録済証明書に基づきJ I S第1水準・第2水準文字で運用する。

ロ. 外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。

ハ. 通称名使用の許可を得た者は、本大学在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。

ニ. 保証人は原則として、父、母とし、やむを得ない場合は独立の生計を営む親族又は縁故者とする。

ホ. 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負うものとする。

ヘ. 学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

12. 学生番号

イ. 学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。

ロ. 学生番号は6桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

学生番号区分

--	--	--	--	--	--

: : :
 学 学 入 一
 部 科 学 (連
 年西 番
 度曆 号
)

(例) 1995年度入学・仏教学部
禅学科15番の場合

1	1	5	0	1	5
---	---	---	---	---	---

: : :
 仏 禅 一 15
 教 学 九 番
 学 科 五 年
 部 入 学

学部・学科の番号

学 部 ・ 学 科 名	学部番号	学科番号
仏 教 学 部	1	
禅 学 科		1
仏 教 学 科		2
文 学 部	2	
国 文 学 科		1
英 米 文 学 科		2
地 理 学 科		3
歴 史 学 科		4
社 会 学 科		5
経 済 学 部	3	
経 済 学 科		1
商 学 科		2
法 学 部	4	
法 律 学 科		1
政 治 学 科		2
経 営 学 部	5	
経 営 学 科		1

XI 既修得単位の認定について



XI 既修得単位の認定について

イ. 新たに第1年次に入学した者

- (1) 他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む）を卒業又は中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者は、従前在学した大学等において修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定を受けることができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願出しなければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

ロ. 編入学者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ハ. 再入学者

従前在学中に修得した全授業科目の単位を認定する。

ニ. 転部・転科者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ホ. 留学者

本学から外国の協定校・認定校へ派遣された学生が、留学先で修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書・履修要項等により当該教授会が認定する。認定した単位は、卒業所要単位に算入される。

XII 届書・願書について



XII 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類	要 領 (必 要 書 類)	本 人 印	保証人 印	取 扱 窓 口	
届 書	履 修 届	・所定用紙あり ・各年度に単位修得しようとする授業科目を指定 期日に必ず届け出ること	要	不要	掲示
	欠 試 届	・所定用紙あり ・本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること (締切日は掲示参照)	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届	・所定用紙あり ・掲示板にて指示	要	不要	⑥
	改 氏 名 届	・所定用紙あり ・戸籍抄本添付 ・変更後1週間以内	要	不要	⑤
	本籍地(都道府県 名)変更届	・所定用紙あり ・住民票記載事項証明書添付 ・変更後1週間以内	要	不要	
	保証人変更届	・所定用紙あり ・在学誓書(保証書)添付	要	要	
	保証人住所変更届	・所定用紙あり ・変更後1週間以内	不要	不要	
	死 亡 届	・所定用紙あり ・死亡が証明できる書類(写し可)添付	/	要	
願 書	休 学 願	・所定用紙あり ・傷病による場合は、医師の診断書添付 ・外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在 留期間を証明する書類及び在留地届 ・その他の場合は、保証人連署の理由書	要	要	⑤
	復 学 願	・所定用紙あり ・傷病による休学をした場合は、医師の通学可能 である証明書添付 ・4月10日までに提出すること	要	要	
	退 学 願	・所定用紙あり ・学生証添付	要	要	

※ 大学の定める諸届(願)の提出期限が、日曜・祭日の場合はその翌日までとする。

XIII 各種証明書取扱い窓口



ⅩⅢ 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教務部④番	在学者にかかわる 証明書 1通200円 （英文 500円） 卒業者にかかわる 証明書 1通300円 （英文 600円）
成 績 証 明 書		
卒 業 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
教職・講座単位修得（見込）証明書		
一般教養科目修了（見込）証明書		
そ の 他 の 諸 証 明 書		
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上、取扱い窓口で申し込むこと。発行は原則として2日後。

教務部取扱い証明書は、5月下旬から7月下旬まで及び3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

試驗實施規程（拔粹）



試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

（目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

（試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

（試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
 - (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
 - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
 - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担任者が中間考査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
 - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
 - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

（試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担任者の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

（試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

（受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試届及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき。
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき。
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき。

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

講 義 内 容

(講 義 内 容 目 次)

一 般 教 育 科 目	(77)
保 健 体 育 科 目	(79)
随 意 科 目	(80)
基 礎 教 育 科 目	(84)
専 門 教 育 科 目	(85)
他 学 部 履 修 科 目	(99)

[卷 末]

教 職 及 び 資 格 講 座

一般教育科目

人文分野

宗教学 I (洗 建)	77
宗教学 I (再クラス)(岡部 和雄)	77
宗教学 I (再クラス)(田中 良昭)	77
哲学 (坂本 清子)	77
論理学 (大石 紀一郎)	77
文学 (根岸 政子)	77

社会分野

法学憲法 (齋藤 洋)	78
経済学 (浅田 統一郎)	78
社会学 (角家 文雄)	78

自然分野

自然科学概論 (江上 生子)	78
人類学 (江藤 盛治)	78
心理学 (高橋 良博)	78

保健体育科目

保健体育理論 (村松 誠)	79
保健体育理論 (再クラス)(牧野 茂)	79
保健体育理論 (再クラス)(宮沢 栄作)	79

随意科目

日本宗教文化史 (松田 文雄)	80
民間信仰論 (谷口 貢)	80
書道史 (那須 隆吉)	80
編集実務 (長谷川 孝)	80
英会話 II (P. A. Bendinelli ・ W. Hubbard D. J. Nolan ・ J. K. Wells P. Zeigler ・ 西村 祐子)	80
英語 L L II (T. J. Cogan ・ 岩山 義春 大庭 直樹)	81
ドイツ語 F (松岡 晋)	81
ドイツ語 F L L (初級)(小林 ゲアリンデ)	82
ドイツ語 F L L (中級)(小林 ゲアリンデ)	82
フランス語 F (野沢 協)	82
フランス語 F L L (初級)(高橋 薫)	82
フランス語 F L L (初級)(ボツ, エマニュエル)	82
フランス語 F L L (中級)(ボツ, エマニュエル)	82
中国語 F (釜屋 修)	82
中国語 F L L (初級)(松本 丁俊)	82
中国語 F L L (中級)(小川 隆)	83
スペイン語 F (瓜谷 アウロラ)	83
スペイン語 F L L (初級)(ナロ, ホソ J.)	83
スペイン語 F L L (中級)(ナロ, ホソ J.)	83

ロシア語 F (杉山 秀子)	83
ロシア語 F L L (初級)(木村 英明)	83
ロシア語 F L L (中級)(佐野 朝子)	83
英語 (海外演習)	83

基礎教育科目

禅学序説 (佐藤 秀孝)	84
(平成2年度以前入学生:基礎仏教学)	
仏教学序説 (池田 練太郎)	84
(平成2年度以前入学生:基礎仏教学)	
仏教学序説 (岡部 和雄)	84
(平成2年度以前入学生:基礎仏教学)	
平成2年度以前入学生: 仏書解説 I (峰岸 孝哉)	(84)
平成2年度以前入学生: 仏書解説 II (吉津 宜英)	(84)
平成2年度以前入学生: 仏教語解説 (伊藤 隆壽)	(84)

専門教育科目

1年次以降履修科目

宗教史 (松本 皓一)	85
日用經典 (皆川 広義)	85
中国古典語初級 (中村 璋八)	85

2年次以降履修科目

仏書解説 I (峰岸 孝哉)	85
仏書解説 II (吉津 宜英)	85
仏教語解説 (伊藤 隆壽)	85
禅学概論 (石井 清純)	86
仏教概論 (平井 俊榮)	86
禅学研究 I (青竜 宗二) (平成2年度以前入学生:宗典講読 I)	86
禅学研究 II (小坂 機融)	86
禅学研究 III (大谷 哲夫) (平成2年度以前入学生:宗典講読 II)	86
禅学研究 IV (原田 弘道)	86
仏教研究 I (池田 練太郎)	86
仏教研究 II (池田 魯参)	86
仏教研究 III (石川 力山)	87
仏教研究 IV (伊藤 隆壽)	87
禅学特講 I (原田 弘道)	87
禅学特講 II (永井 政之)	87
禅学特講 III (石井 修道)	87
禅学特講 IV (鈴木 格禅)	87
禅学特講 V (椎名 宏雄)	88
仏教特講 I (伊藤 隆壽)	88
仏教特講 II (納富 常天)	88
仏教特講 III (鎌田 茂雄)	88
仏教特講 IV (太田 久紀)	88

仏教特講Ⅴ(石川 力山)	88	現代哲学概説(山口 祐弘)	95
仏教特講Ⅵ(田上 太秀)	88	哲学史(中村 友太郎)	96
インド仏教史(田上 太秀)	89	哲学演習(久保 陽一)	96
パリー仏教史(片山 一良)	89	哲学史特講(杖下 隆英)	96
チベット仏教史(松本 史朗)	89	中国文学概論(南雲 智)	96
中国仏教史(岡部 和雄)	89	中国文学演習(中村 璋八)	96
朝鮮仏教史(鎌田 茂雄)	89	東洋思想研究(館野 正美)	96
日本仏教史(石川 力山)	89	心理学概論(篠原 英壽)	97
禅学思想史(峰岸 孝哉)	90	禅心理学(茅原 正)	97
中国禅宗史(田中 良昭)	90	坐禅Ⅱ(鈴木 格禅・石井 清純)	97
(平成2年度以前入学生: 禅宗史Ⅰ)		(平成2年度以前入学生: 禅学実習Ⅱ)	
日本禅宗史(原田 弘道)	90	禅籍講読Ⅰ(佐藤 秀孝)	97
(平成2年度以前入学生: 禅宗史Ⅱ)		(平成2年度以前入学生: 禅学講義)	
坐禅Ⅰ(小坂 機融・伊藤 秀憲 永井 政之・石井 清純)	90	禅籍講読Ⅱ(大谷 哲夫)	97
(平成2年度以前入学生: 禅学実習Ⅰ)		(平成2年度以前入学生: 禅学演習Ⅰ)	
宗典(黒丸 寛之)	90	禅籍講読Ⅲ(青竜 宗二)	97
(平成2年度以前入学生: 宗典講義Ⅰ)		(平成2年度以前入学生: 宗典講義Ⅱ)	
宗典(伊藤 秀憲)	90	禅籍講読Ⅳ(峰岸 孝哉)	97
(平成2年度以前入学生: 宗典講義Ⅰ)		(平成2年度以前入学生: 禅学演習Ⅱ)	
詩偈(山口 晴通)	91	仏典講読Ⅰ(池田 練太郎)	98
書道(野村 宙弘)	91	(平成2年度以前入学生: 経典講読Ⅰ)	
禅美術(海老根 聰郎)	91	仏典講読Ⅱ(岡部 和雄)	98
インド仏教思想史(松本 史朗)	91	(平成2年度以前入学生: 経典講読Ⅱ)	
(平成2年度以前入学生: 仏教教理史Ⅰ(印度))		仏典講読Ⅲ(池田 魯参)	98
中国仏教思想史(伊藤 隆壽)	91	(平成2年度以前入学生: 仏典演習Ⅱ)	
(平成2年度以前入学生: 仏教教理史Ⅱ(中国))		仏典講読Ⅳ(吉津 宣英)	98
インド哲学史(金沢 篤)	91	(平成2年度以前入学生: 仏典演習Ⅰ)	
(平成2年度以前入学生: 印度哲学史)			
中国哲学史(前川 亨)	91		
仏典研究(木村 誠司)	92		
原始仏教(片山 一良)	92		
外国語仏書演習(石井 公成)	92		
パリー語初級(片山 一良)	92		
パリー語上級(福田 孝雄)	92		
サンスクリット語初級(金沢 篤)	92		
サンスクリット語上級(金沢 篤)	92		
チベット語初級(松本 史朗)	92		
チベット語上級(木村 誠司)	93		
中国古典語上級(小川 隆)	93		
ラテン語特講(佐藤 玖美子)	93		
青少年問題研究(皆川 広義)	93		
青少年指導演習(平野 学)	93		
宗教学概論(松本 皓一)	93		
キリスト教史(三小田 敏雄)	94		
キリスト教概論(鶴岡 賀雄)	94		
新宗教概説(井桁 碧)	94		
各宗綱要(浄土学)(阿川 文正)	94		
仏教民俗学(谷口 貢)	94		
仏教美術(中島 亮一)	94		
宗教教育(小山 一乘)	94		
仏教伝道概説(皆川 広義)	95		
仏教伝道研究(皆川 広義)	95		
哲学概説(杖下 隆英)	95		

一般教育科目

人文分野

宗教学 I

あらい けん
洗 建

宗教はあらゆる文化の基底をなしている。特定の信仰をもっていなくても、われわれはそのような宗教文化の中で生きている。宗教は文化において、社会において、人生において、どのように表われてくるのだろうか。身近な宗教現象を通じて、宗教の意義や役割を理解することを目指したい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』
(世界書院) ¥2,000

宗教学 I (再クラス)

おか べ かず お
岡 部 和 雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教的的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)

宗教学 I (再クラス)

た なか りょう しょう
田 中 良 昭

前期は「宗教とは何か」というテーマで、広い視野から宗教全体を考察し、後期は「仏教・禅の特色は何か」というテーマで、仏教や禅についてできるだけわかりやすく解説していきたい。

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)

哲学

さか もと きよ こ
坂 本 清 子

哲学は生きるための支え、拠り所を求めつつ、同時にそれが確かめられた学問的知識であることを求める。その意味で、哲学は諸学と経験の基礎づけをめざし、

それにより生きることを学ぶものである。授業では、最初、この哲学的思索がいかに行われ、いかなる問いが立てられねばならないか、について一般的な要点を説明する。それを、更に、具体的に過去の哲学の営みを通して検討し、現代的視点から過去の哲学—古代ギリシア哲学から現代哲学にいたるまで—の意味を学ぶことにする。

〔教科書〕開講時に指示する。
〔参考書〕その都度指示する。

論理学

おおいし きいちろう
大石 紀一郎

科学であれ哲学であれ、また日常的な行為においても、正しい論理的思考が求められるが、それを主題的に探究するのが論理学である。授業では、前期では主にアリストテレス以来の伝統的論理学(概念論、判断論、推理論等)を取り上げる。後期では、現代の記号論理学の基礎的内容(命題論理学と述語論理学)を学ぶ。

〔教科書〕開講時に指示する。
〔参考書〕その都度指示する。

文学

ね ぎし まさ こ
根 岸 政 子

日本人になじみ深く、平安時代や江戸時代の文化や文学に大きな影響をあたえた中国の古典文学のなかで、唐の詩を中心に中国人の自然観や人生観を考察していきたい。

〔教科書〕適宜プリントを配布する。
〔参考書〕前野直彬『中国文学序説』

(東京大学出版会)
鈴木修次他編『中国文化叢書：文学概論』
(大修館書店)

社会分野

法学憲法

さい とう ひろし
齋 藤 洋

前半は法学一般の諸ルールを中心に説明する。後半は日本国憲法について、特に重要な事項をとりあげて、その内容を概説する。その際、あまりこまかい点には触れず、又、国際法などとの関連にも言及したいと思う。

〔教科書〕藤井 勲著『憲法・法学への道』
(法律文化社) ¥1,854

経済学

あさ だ どういちろう
浅 田 統一郎

本講義では、現代経済学の基礎知識をわかり易く体系的に解説し、「経済学的な思考方法」に慣れるための材料を提供します。とりあげるテーマは、需要と供給の法則、国民所得の決定、財政・金融政策、景気循環、バブル、国際貿易、国際通貨体制など、多岐にわたりますが、これらの具体的な経済現象を解釈し、解決策を探るために経済学の理論がどのように役立つかが明らかにされます。

〔教科書〕幸村千佳良『経済学事始』第3版
(多賀出版) ¥2,781

社会学

かど や ふみ お
角 家 文 雄

社会学の基礎理論と、その応用として教育社会学、マスコミ社会学を講義する。

〔教科書〕角家文雄著『現代社会の諸相』
(学陽書房) ¥1,700

自然分野

自然科学概論

え がみ ぶし こ
江 上 生子

自然科学とは何かという問題について、科学の歴史を見ることによって把えていきたい。特に、人類にとって最も身近であった課題としての生命科学を中心に考えていく予定である(義務教育までの理科の知識を前提とする)。

〔教科書〕藤村 淳他『科学・その歩み』
(東京教学社) ¥1,800

〔参考書〕木村陽二郎『原典による生命科学入門』
(講談社学術文庫) ¥760

人類学

え どう もり はる
江 藤 盛 治

生物としての人類について、自然人類学の視点から考察を加え、文化をもつ唯一の動物といわれている人類を総合的に理解することを目的とする。人類は生物に違いないのか、動物だと言い切って間違いはないのか。常識とされているはずのことについて検証を加えてみることから始まり、過去から現在に至る道程のなかから、動物としての人類の本質を探り、また人類の将来をみつめてみたい。3本の柱をおく。「進化」「変異」「適応」である。「進化」は長いタイムスパンのなかでの形態的「変異」としてとらえられるが、本質的には「進化」も「変異」も「適応」の所産に他ならない。「文化」とは何かを含めて、人類という特殊な動物にせまってみよう。

教科書は使用しない。参考書は必要に応じてその都度紹介する。なるべく平易に講義するつもりである。できれば中学校程度の生物学の知識を思い出してくればありがたい。

心理学

たか はし よし ひろ
高 橋 良 博

心理学を初めて学ぶ者を対象として、なるべく日常的な問題に即しながら、心理学の主要な領域と、その研究方法についての知識を深め、人間の心理学的理解に興味を持ってもらう事を目的に講義を進めてゆく予定である。

また、講義の中で随時供覧実験などを折り込みながら心理学研究の雰囲気を変えたい。

〔教科書〕中村昭之監修『心理学概説』
(八千代出版) ¥1,500

保 健 体 育 科 目

保健体育理論

むら まつ まこと
村 松 誠

現代は健康の時代と言われる。健康に関する情報は世に溢れている。テレビを見れば、健康番組は毎日のようにあり、健康雑誌も数多く発売されている。健康が商品になる時代である。また、民間療法の様な健康法も数多くある。しかし、現代は健康の時代の不健康な時代とも言われる。このような状況の中で健康とは何であるのか、しっかりした健康観を持つことは大切なことである。このような問題意識のもとに、まず健康とは何かとすることを考えて行きたい。そして、学生時代は人生の中で最も健康な時期である。しかし、現代の健康問題とされる成人病はこの時期から始まると言われている。このようなことから将来にわたっての健康を考えて行きたい。

保健体育理論（再クラス）

みや ざわ えい さく
宮 沢 栄 作

大学保健体育の目的をふまえ、我が国体育の変遷にふれ、併わせてその時代時代の体育の特長を明確にとらえさせることを導入とし、身体運動の意義とスポーツの持つ価値の再認識を生理、解剖学的根拠をもって図る。

具体的には、栄養学を含めた体力トレーニング論と、価値あるべきスポーツが、方法を誤ると重大な障害を引き起すスポーツ障害の原因、予防、更に日常生活に於ける救急処置法等についてふれていきたい。また現在大きな問題となっているエイズについても、ビデオ等を教材として過ちのないよう指導をしたいと考えている。

保健体育理論（再クラス）

まき の しげろ
牧 野 茂

健康の正しい認識、健康を阻害する因子、健康・体づくりを中心テーマとし、具体的な事例又は話題をとりあげながら授業を展開する。

随 意 科 目

日本宗教文化史

まつ だ ぶん ゆう
松 田 文 雄

仏教文化に的をしぼり、近世における日本宗教文化について講義する。必要な資料はプリントして、受講生と共に講読する。

民間信仰論

たに ぐち かつぎ
谷 口 貢

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていききたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題について考察を加える。
〔参考書〕必要に応じて紹介する。

書 道 史

な す たか よし
那 須 隆 吉

現在見ることの出来る最古の文学である、殷代の甲骨文字を始めとし、その後時代と共に著しく変遷していく書体、書風、書法を通覧しながら、深遠な書道の歴史を講じたい。

〔教科書〕伏見冲敬著『書の歴史』（二玄社）

編 集 実 務

は せ がわ たかし
長谷川 孝

情報社会の今、多様な情報を主体的に選択し活用できる力が求められ、さらに自分から情報を発信できる能力も大事です。自分の中にある知識や体験、意見や批判、感動や思いなどを、さまざまな社会の出来事や状況との関係の中でしっかりと握みとり形を与えて、他者に伝わるように表現することです。この講義では、物書き・編集者としての私の体験を語りながら、文章と印刷による表現（メディア）の担い手に必要な知識・技能や心構えと、なぜ・なにを・どう「伝える」のか、を考えていきます。また、個人のミニ新聞（雑誌）

を作ってもらい、作り方とともに「ものごとを見る目」を育ててほしいと思っています。

〔参考書〕長谷川 孝編著『新聞をつくろう』（さ・え・ら書房、¥1,236）を随時、使用します。

英 会 話 II

P. A. Bendinelli · W. Hubbard

D. J. Nolan · J. K. Wells

P. Ziegler · 西村 祐子

全学で6クラスを設け、学部および短大の2年次生以上を対象とします。1年次で英会話Iを履修した学生を対象とするクラスとそれ以外の初修者も参加できるクラスがあります。各担当者の講義内容(syllabus)を参考にし、場合によっては受講希望クラスの担当教師に相談してください。

担当者、曜日、時限、クラスは時間割表で確認してください。

P. A. Bendinelli

A course for highly motivated students. (UPPER LEVEL II CLASS) Class will be student orientated, not teacher orientated. Details in first meeting.

W. Hubbard

This course presents the basic as well as more advanced language skills that one needs for everyday communication in English. The emphasis is on class interaction, comprehension, and application. A variety of dialogs, situations, topics and EIKEN oriented material will be used.

〔教科書〕The text material will be decided depending on the ability of the students assessed at class time.

D. J. Nolan

At the core of this course is

- 1) a series of dialogues that are topical and should prove interesting to Japanese students, and
- 2) language activities that are meaningful and intellectually rewarding.

The material is advanced in the sense that it takes for granted the considerable familiarity Japanese students already have with English but recognizes a need to provide further opportunities to internalize what students have learned at lower levels.

The course specifically intends to help students prepare for the STEP tests (Biken), either second level or higher, the targeted level depending upon the qualifications of those who apply.

Grades are determined on the basis of attendance, participation, and occasional short tests.

[教科書] Dale Fuller/Clyde W. Grimm,
Milestones, Macmillan Language
House ¥1,800

J.K. Wells

Dear students,

I'd like to welcome you to my free conversation class. My class will be designed around you, but you must be willing to come to class and to try to speak English openly. Conversational English pair work, skits and talking about current events will comprise my class. If you are shy, this class is not for you! Most importantly, can you attend every week?

Regards.

P. Ziegler

The course will consist of exercises designed to expand student vocabulary and improve oral communication skills. A wide variety of materials will be used.

[教科書] 未定

西村 祐子

テーマ: 英語による英国文化と社会探訪

実際によく使われるBritish Englishの会話表現を、英国で撮影されたビデオで学習しながら学ぶ。更にテキストとの併用により、イギリスの文化と社会について英語で学ぶ。授業はすべて英語で、参加者同志によるrole play, 英語による発表, ディスカッションなどが盛り込まれる。英語による表現力を上げたい学生、留学希望者向けで、本年度と次年度の2年間で終了するコース。

[教科書] Britain Explored by Paul Harvey &
Rhodri Jones (Longman Eichosha books
英潮社刊)

[参考書] (使用Video) Focus in English

英語 L L II

T. J. Cogan ・ 岩山 義春
大庭 直樹

英語 L L I のアドバンスト・コースとして全学で3クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語 L L I を履修しなかった学生も参加できるようにしてあります。最後までやり通す意欲ある学生を歓迎します。

担当者及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

T. J. Cogan

In this intermediate-advanced course we will study American English through video. The text this year will probably be either a popular movie or a video series. Since the class will be small, there should be ample opportunity for students to discuss in English what they see on the screen. The purpose of the course is to improve each student's ability to comprehend and speak English at a fairly high level. The course will be conducted entirely in English. I will announce the text on the first day of class.

岩山 義春

聞き取りと表現力の向上をめざします。毎週話題となっているニュースを選び、それを繰り返し聞き、英文でアウトラインを書いてもらい、毎回提出してもらいます。書くことなくして英会話上達はありませぬ。毎回の熱心なクラス参加を強く望みます。

テキストはプリントを使用します。

大庭 直樹

前期と後期にビデオ映画(英語の字幕付き)をそれぞれ1本ずつ観る。前期は、会話表現、語法等を検討しながら、各場面を英語で要約することに重点をおく。後期は、映画の各場面について、フリーにディスカッションする形式をとりながら、発話力を身につけていく。授業は英語でおこなう。

ドイツ語 F

まつ 松 めか 岡 すむ 晋

ドイツ、オーストリアの文化にかかわるテキストを原文で読みながら、ドイツ語圏に関するさまざまな情報、知識を得ることがこの講義の目的です。参加者はあまり多くはないと予測されますので、演習形式で行

う予定です。教材はあらかじめこちらで数種類用意して、受講者の希望も加味して決定するつもりであります。定期的に出席して、積極的に取り組んでくださる方々の受講をのぞんでおります。

〔教科書〕コピーにて配布

〔参考書〕その都度、指示します。

ドイツ語 F L L (初級)

こ ばやし
小林 ゲアリンデ

生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や句型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話が出来るようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

ドイツ語 F L L (中級)

こ ばやし
小林 ゲアリンデ

ドイツ語 F L L (初級)を履習したすべての学生を対象とします。また、L L以外のドイツ語の授業ですでに文法と会話を学び、さらにドイツ語の日常会話を学びたいという学生も歓迎します。L L (中級)では、ドイツ語を読み、書き、聞く能力を養うほか、文法を学びます。また時には遊びも入ります。しかし何よりもドイツ語を話すことに重点をおきます。

テキストは“Themen neu 1”を使用し、今年度は第4課からはじめます。

フランス語 F

の ざわ きょう
野 沢 協

フランス語 I, IIをすでに履修した上で、一層の語学力を身につけたいと思う学生諸君のための語学授業です。したがって、フランス語 I, IIの修了者か、独習または学外での学習によってそれと同等の語学力のある諸君だけを対象とします。使用する教材の分野について、担当者としての願望はもちろんあります(できれば、17~19世紀の何か古典的なテキスト、それも多少抽象度の高いものを一緒に読めたらと思います)が、最終的には、学年はじめに受講者の希望や好みを聞いた上で決定するつもりです。

〔教科書〕未定

フランス語 F L L (初級)

たか はし かおる
高 橋 薫

ビデオ教材を利用して、ごく初歩の聞きとり・表現の練習をします。フランス語を母語とする人々と、ひとりの外国人として、簡単なコミュニケーションをはかれるようになればよい、と思います。簡単な言葉のやりとりから相互理解が始まるのです。時間が許せば映画・ニュース・ドキュメンタリーなどを見て、映像や音声を通じて、フランス人の暮らしぶりを知ることができればよい、と考えています。

〔教科書〕教室で指示します。

フランス語 F L L (初級)

ボダン, エマニュエル

基礎的な文法に基づいたフランス語会話のパターンを獲得することを目的とする。使用する教科書は講義の時間に指示する。

フランス語 F L L (中級)

ボダン, エマニュエル

これまで学習した内容の復習と応用を行なう。使用する教科書は講義の時間に指示する。

中国語 F

かま や おさむ
釜 屋 修

中国の民衆の生活の実態を微型小説(ショート・ショート)、新聞記事などを通してさぐりつつ、中国語読解能力の向上をめざします。中国語学習歴二年以上またはそれと同等の力を有し、中国と中国語に関心をもつ諸君を“熱烈歓迎”。

毎時間簡単な中国語会話の練習もとりいれます。独自プリントを開講時に配布します。

〔参考書〕開講時に紹介します。

中国語 F L L (初級)

まつ もと あつ とし
松 本 丁 俊

ビデオ教材を使って、会話と聴き取りの練習をします。中国語 I 既習でいどの基礎力が必要です。ビデオの内容は、ごく日常的な場面での会話ばかりで、楽し

く学んでいけると思います。

発音の復習から始めますので、イチからやり直したい人、中国語 I A・B の成績が芳しくなかった人でも大丈夫。

中国語 F L L (中級)

お 小 川 たかし 隆

中国語を1年以上履修したか、またはそれと同程度の学習歴のある人を対象に、映画・テープ等を使った会話と聴き取りの訓練を行います。新たな知識の獲得よりも、既習の知識の耳と口への定着を主な目標とします。予習は必要ありませんが、その日に学んだ内容は、必ず翌週までに暗譜してきて下さい。

〔教科書〕榎本英雄『やさしい中国語会話』

(白水社) ¥1,300

スペイン語 F

うり たに 瓜谷 アウロラ

1・2年でおぼえた基本のスペイン語を身につけよう！最新のビデオを見てかんたんな会話をどういうコンテキストの中で使うかをたしかめてから実際に声を出して自分のものにします。必要に応じてカセットテープも使う予定です。

〔教科書〕VIAJE AL ESPAÑOL『SELF-ACCESS COURSE BOOK 2』SANTILLANA発行

発売元：伸興通商株式会社 ¥2,000

Tel. (03)3353-1751

スペイン語 F L L (初級)

ナバロ, ホワン J.

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履修している学生の受講を望みます。

スペイン語 F L L (中級)

ナバロ, ホワン J.

前年度 L L 初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語 F

すぎ やま ひで こ
杉 山 秀 子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の表現力を身につけるための平易な読みものを取りあげ、ロシア語らしい言いまわしや、語いを広げて様々なスタイルのロシア語文に馴れてもらうことを主眼とし、第二には最新版のセミナーやリテラトゥールナヤ・ガゼータの記事を取りあげ、現代ロシア社会のひずみや歪んだ部分に光をあててみたい。

〔教科書〕教場にてプリントを配布。

〔参考書〕露語辞書

ロシア語 F L L (初級)

き むら ひで あき
木 村 英 明

日常会話に役立つ簡単な表現をやさしい文章を用いて練習します。発音、イントネーションに重点をおいた反復練習により初等ロシア語の知識を耳と口から身につけることを目的とします。特に、最初の段階では受講者一人一人の発音上の欠点を分かりやすく指摘し、正しいロシア語の発音に慣れるようにします。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

ロシア語 F L L (中級)

さ の あさ こ
佐 野 朝 子

ロシア語の正規授業を履修した人または同程度の学習体験を有する人を対象とします。ロシア語独特の言いまわし、イントネーションを小説等の短文を用いながら受講者の能力に応じて修得することを目的とします。またロシア語を通じユーラシア大陸におけるロシア連邦、各共和国、諸民族の生活や文化にもふれます。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

英 語 (海外演習)

この授業科目は、クインズランド大学・プリティッシュコロンビア大学・エクセター大学・カリフォルニア大学アーバイン校における短期留学セミナーでの四週間に及ぶ現地演習を中心として行なわれる英語随意科目である。受講対象学生は、全学部の1年次生から卒業年次生までとする。

現地演習後に4大学より受講生の成績・評価等が出される。受講生には単位認定がなされる。

基礎教育科目

禅学序説

(平成2年度以前入学生：基礎仏教学)

さ　とう　しゅう　こう
佐　藤　秀　孝

この講義は禅学科の一年生を対象としたものであり、仏教・禅を学ぶ上での基礎的な知識と研究方法を身につけることを目的としている。仏教の開祖である釈尊、曹洞宗の両祖である道元禪師・瑩山禪師のいわゆる一仏両祖の伝記を通して、広く仏教・禅を体系的に理解できるよう努め、さらにインド仏教における禅定、中国・日本の禅宗の歴史と思想などを概観したい。できれば、二年生以降の専門の選択コースについても必要に応じて指導したい。

〔教科書〕特になし

〔参考書〕駒澤大学仏教学研究室編

『宗教学Ⅰ』（更生社）

同『宗教学Ⅱ』¥2,370

仏教学序説

(平成2年度以前入学生：基礎仏教学)

いけ　だ　れんた　ろう
池　田　練太郎

つねに“仏教とは何か”という問題意識をもちながら、他の宗教との相違を考え、さらに仏教の興起の様相や、その思想的・歴史的・文化的展開などをみていきたい。その過程で、仏教を学ぶにあたって必要な基礎的知識を修得することを目指す。また仏教研究における諸問題や、研究方法についても説明していく予定である。

〔教科書〕必要に応じてプリントを配布する予定。

仏教学序説

(平成2年度以前入学生：基礎仏教学)

おか　べ　かず　お
岡　部　和　雄

仏教を学ぶ人々への入門講座である。初心者向けの講義であることを前提にして、わかりやすく、しかも今後の研究に一定の見直しをつけられるよう配慮していくつもりである。参考文献はそのつど紹介していく。

平成2年度以前入学生：仏書解説Ⅰ

みね　ぎし　こう　さい
峰　岸　孝　哉

(P. 85) 参照

平成2年度以前入学生：仏書解説Ⅱ

よし　す　よし　ひで
吉　津　宜　英

(P. 85) 参照

平成2年度以前入学生：仏教語解説

い　とう　たか　とし
伊　藤　隆　壽

(P. 85) 参照

専 門 教 育 科 目

1 年次以降履修科目

宗 教 史

まつ まつ ほん こう いち
松 本 皓 一

人間の営みとしての宗教を、世界主要宗教につき歴史的に述べる。宗教史の講義名ではあるが、教理史中心ではなく「生」の欲求の社会・文化現象として宗教を捉え、その歴史的展開を主要諸宗教の比較を通して考えてみる。

〔教科書〕岸本英夫編『世界の宗教』（大明堂）

日 用 経 典

みな がわ ひろ よし
皆 川 広 義

わが国における日用の經典について、解説し、その平易な解釈をする。

この講義でとりあげる經典は、般若心経、法華經（寿量品、普門品）、修証義、大悲心陀羅尼などである。また、偈文・回向文などについても解釈したい。

これらの經典は、日本人の精神形成に大きな影響をあたえたものであり、その仏教經典としての正しい理解に心がけたい。

〔教科書〕テキスト プリント配布。

中国古典語初級

なか むら しょう へち
中 村 璋 八

中国の古典は、経・史・子・集、すなわち、儒家の經典、歴史書、經典以外の思想家の書、文学作品の四つに分類され、その書の成立年代も先秦から明・清まで二千五百年余りの長期に及んでいるが、それらの若干異なる思想、歴史、文学の書を歴史的背景をも考慮しながら日本の伝統的な訓読法で読み、漢訳仏典、中国仏典、日本仏典の解説にも役立つような基礎的学力を付けるようにしていきたい。また、中国思想史、中国文学史の一助ともしたい。

〔教科書〕『中国文学思想通史』（明治書院）

¥1,800

2 年次以降履修科目

仏書解説 I

みね ぎし こう さい
峰 岸 孝 哉

仏書解説 I は禪籍の解説である。中国で成立し大いに発展々開した禪仏教は、中国および日本で実に多くの禪文献を残した。ここでは代表的なものを順次とりあげ、その歴史的な性格や思想的特色について考えてみたい。

〔参考書〕『禪家語録』（筑摩書房）所収
「禪籍解題」

仏書解説 II

よし す よし ひで
吉 津 宜 英

この「仏書解説 II」は「同 I」が禪籍を中心として解説するのに対して、仏典を広く概説することを目的とする。したがって、私はまず現在最もよく用いられている『大正大藏經』に拠って、主要な仏典を取り上げて説明してゆきたい。ただ、この大藏經に拠るだけでは現在の仏教学の典籍概論としては不十分である。パーリ語、サンスクリット語、チベット語、さらにこれらの欧米語訳や日本語訳などにも言及したい。さらにまた仏書と禪籍との関連についての考慮も必要である。ある仏典については単にポイントのみを述べるにとどめたり、またある仏書については少し長めの文章を実際に読んでみるなどアクセントをつけて進めてゆきたい。

〔教科書〕プリント配布

〔参考書〕教場で指示する。

仏教語解説

い どう たか とし
伊 藤 隆 壽

經典や論書、さらには注釈書や中国・日本の仏教者の著書を読み、より深く仏教を学ぶ上で、仏教語の基礎知識を修得しておくことは不可欠である。仏教の歴史的、思想的展開を考慮して、基本的仏教語を解説する。

〔教科書〕水野弘元『仏教要語の基礎知識』
(春秋社) ¥1,600

禅学概論

いし い せい じゅん
石 井 清 純

ひとくちに「禅学」といっても、その対象となる「禅」が、インドから、チベット・中国・日本と広汎に展開したものであるため、各地域、分野に応じた様々な研究方法が存在する。

本講義は、禅の展開した様相を概観しつつ、それぞれの分野における具体的なアプローチの仕方について解説してゆく。

〔教科書〕プリント配布

〔参考書〕田中良昭編『禅学研究入門』

(大東出版) ¥6,000

仏教概論

ひら い しゅん せい
平 井 俊 榮

仏教の基本的要素である仏(教祖)法(教義)僧(教団)の三宝の体系にしたがって、仏教の基本的教理を概説する。原始仏教・インド仏教が中心となるが、併せて中国仏教・日本仏教への歴史的展開についても概観することとする。

〔教科書〕高崎直道著『仏教入門』

(東京大学出版会) ¥1,600

禅学研究 I

(平成2年度以前入学生：宗典講読 I)

せい りゅう ね づ
青 竜 宗 二

禅学研究 I は禅の教義が課せられているので、禅の根本教理である修証論を中心に講義を行ない、宗典講読 I の受講生のために、『学道用心集』『修証義』を順次講読しながら、本証妙修の教義面の把握に力点を置く。教科書、参考書は開講のとき指示する。

禅学研究 II

こ さか き ゆう
小 坂 機 融

禅学における実践の問題として戒法を取り上げる。特に日本近世における禅戒思想の展開について考察し、その主張の問題点を道元禅師の戒法観に照らして、その真偽について検尋することにした。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕鏡島元隆著『道元禅師とその門流』

禅学研究 III

(平成2年度以前入学生：宗典講読 II)

おお たに てつ お
大 谷 哲 夫

近世江戸時代、強固な宗教統制の下で展開された洞門の宗統復古運動を記録した『宗統復古志』(二巻)を主とし、他の関連書を併読しながら、その運動が醸し出した卍山派と天桂派の宗義論争の比較検討を通して、近世日本仏教の中の曹洞禅の宗教的本質を探り、“宗統”の現代的意義について参究する。

宗義論争などについての重要な文献資料は適宜プリントして配布する。

〔教科書〕詳細については開講時に指示する。

〔参考書〕適宜プリント等を配布する。

禅学研究 IV

はら た ひろ みち
原 田 弘 道

本講座においては、初期日本禅宗史の側面をとりあげる。

心地覚心が道元禅師より菩薩戒を受けてから始まる、曹洞宗と法灯派との交渉について、その歴史、思想の変遷をめぐり、歴史的意義を明らかにしてゆく。

仏教研究 I

いけ た れん た ろう
池 田 練 太郎

部派仏教の時代に教理研究に最大の足跡を残した説一切有部の思想について、正統的立場を自認するカシュミール有部の論書によってでなく、むしろ批判の対象とされたガンダーラ有部の所産である『阿毘曇心論』を中心として考察していく。また同時に有部の展開史にも目を向けたい。

テキスト等については授業の折に説明する。

仏教研究 II

いけ た ろ さん
池 田 魯 参

『法華三昧懺儀』(「法華懺法」)を講読し、仏教儀礼の成立意義について考えたい。

本書は、天台智顛(天台宗祖)が、『妙法蓮華経』の教説に基づいて、懺悔の方法として編成したものである。中国で成立する仏教儀礼の典型ともいえるもので、後世に与えた影響は大きい。禅宗の清規の成立との関係でも興味深い資料である。

〔教科書〕担当者の方でテキストのコピーを用意する。

仏教研究Ⅲ

いし かわ りき ざん
石 川 力 山

本講義は、仏教の歴史的展開の諸相の中で、仏教サンガの組織としての「教団」の内容や、その組織体がある歴史的社会的な機能・意義を検討することを中心課題とする。1993・4年度は、釈尊の時代のマハー・パジャーパティの願いによる比丘尼の出現と比丘尼サンガの成立、及びその後における性差に基づくさまざまな歴史的・文化史的諸条件の中で、比丘尼達がどのような道を辿ることになったかについて、インド・中国・日本の話題を中心に話を進めた。

今年度は、梁の天監16年(517)成立の宝唱撰『比丘尼伝』4巻を精読しながら、中国仏教初期の比丘尼史の実態解明を課題とした。

〔教科書〕 随時、プリント配布。

〔参考書〕 田上太秀『仏教と性差別』

(東京書籍刊) ¥1,200

佐藤達玄「中国初期仏教における比丘尼教団」(『飯田利行博士古稀記念東洋学論叢』所収名著出版刊)

笠沙雅章「中国における尼僧教団の成立と発展」(『シリーズ女性と仏教1. 尼と尼寺』所収, 平凡社刊)

曹洞宗尼僧史編集会編『曹洞宗尼僧史』(尼僧団本部刊)

仏教研究Ⅳ

い とう たか とし
伊 藤 隆 壽

本講座は、中国仏教の歴史について扱う。前半は中国仏教の歴史的展開を概観する。次いで、思想上の問題、特に中国においてインドの業報輪廻説がどのように伝えられ、どのように受容されていったかを、各時代の代表的仏教者の著述を通して研究したいと思う。特に教科書は使用せずコピー資料を配布する。また参考書は授業において紹介する。

禅学特講Ⅰ

はら だ ひろ みち
原 田 弘 道

禅宗と公案

公案は禅宗における經典観と深いかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。

- (1) 公案の起源と歴史、看話禅の成立
- (2) 曹洞宗と公案
- (3) 公案の諸相、公案の意義と機能

以上の順序で講義を進める。

禅学特講Ⅱ

なが い まさ し
永 井 政 之

8～9世紀、中国の禅宗は歴史的にも思想的にも一つの頂点を迎える。このことを一般には「仏教が中国に広まった」と評する。しかし中国人の誰もが「仏教」を十全に理解しえたわけではない。この授業では、中国禅の思想を原資料によって確認しつつ、中国の民衆が「仏教」をどのように理解していったかを考えることとする。

〔教科書〕 必要に応じてコピーを配布する。

〔参考書〕 随時指示する。

禅学特講Ⅲ

いし い しゅう どう
石 井 修 道

平成6年度につづいて『大慧書』を読む。大慧宗杲は看話禅の大成者である。その後の禅思想に大きな影響を与えた大慧の看話禅の性格は、『大慧書』に最もよくあらわれている。書とは、手紙のことであり、大慧が居士に与えた手紙を中心としているので、主張は明瞭である。宋代禅の性格を知る入門書と言えるであろう。荒木見悟博士の訳注本もあるが、まず禅録になれる意味もふくめて和刻本をテキストにしたい。その折に和刻本の誤読についても言及したい。

〔参考書〕 荒木見悟著『大慧書』

(筑摩書房) ¥3,500

石井修道著『禅語録』

(中央公論社) ¥5,200

禅学特講Ⅳ

すず き かく ぜん
鈴 木 格 禅

『見聞宝永記』講読

本書は通常『損翁老人見聞宝永記』と呼ばれる。損翁老人とは、仙台の泰心院に住した損翁宗益(1649～1708)のことであり、面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが、その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は、損翁における面山の「随聞記」といってよく、内容は多岐にわたるが、その根底には、現状にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が、一貫して流れている。

本学年度は、前年度にひきつづき本書を講読し、学道の資助としたい。

〔教科書〕 教員より配布する。

禅学特講 V

い な こう ゆう
椎 名 宏 雄

良寛詩集の講読

“良寛さん”として、宗教・文学・芸術など多くの分野で高い評価と名声を博している大愚良寛（1758～1831）は、生涯寺をもたず清貧に甘んじながら、あらゆる階層の人びとから愛され親しまれつつ民衆の中に生きた稀有の曹洞禅者であった。

本講座は昨年に続いて良寛の遺した漢詩を読み、その汲めども尽きぬ深く奥ゆかしいところ、漢文学の持つ妙味を味わいたい。ただしこの作品類は、多彩な題材、博引の故事、豊富な意趣、自在な語法などに満ちあふれているから、漢文の嫌いな者、辞書を小まめに引かぬ者は到底ついてゆけないから注意されたい。

〔教科書〕『良寛詩集』（ワイド版岩波文庫本）

¥1,100 を必ず各自購入のこと。

仏教特講 I

い どう たか とし
伊 藤 隆 壽

中国仏教の本質とは何かを考えるためには、様々な見方が可能であるが、本講義では次のような観点から話を進めたい。

仏教は言うまでもなく釈尊によって創唱された。したがって仏教を考える際には、釈尊の思想の核心は何であったかを明確にしておくことが大切である。そして、中国に仏教が伝えられるが、中国において仏教がいかなる状況のもとに受容されたのか、その際中国の伝統思想との関係はどうであったのか、というような観点から講義したいと思う。

〔教科書〕伊藤隆壽『中国仏教の批判的研究』

（大蔵出版）¥6,400

仏教特講 II

のう どう じょう てん
納 富 常 天

鎌倉仏教の成立とその展開を考察する。

〔参考書〕納富常天著『鎌倉の仏教』

（かまくら春秋社）¥1,800

仏教特講 III

かま た しげ お
鎌 田 茂 雄

華嚴教学の諸問題を講義する。

〔参考書〕鎌田茂雄著『華嚴五教章』

（大蔵出版）¥3,000

鎌田茂雄著『華嚴の思想』

（講談社学術文庫）¥680

仏教特講 IV

お た きゅう き
太 田 久 紀

成唯識論 卷一、二、三巻 講読。

阿頼耶識論

〔教科書〕『選註成唯識論』を使用するが、その他何でも可。

仏教特講 V

いし がわ りき ざん
石 川 力 山

この講義は、「仏教と現代」という課題のもとに、「部落差別」をはじめとするさまざまな差別問題を、人権という視座を中心にして検討確認し、この問題に対する基本的認識を確立して、仏教が現代及び未来社会に向かって果たさなければならない責務を探ることを意図して設けられた。

今年度は、「仏教と人権問題」という課題で、仏教が果してきた歴史的・社会的機能について考えたい。特に日本の仏教史上の種々の問題を、社会史的・文化史的立場から検討したい。

〔教科書〕プリント配布。

〔参考書〕野間 宏・沖浦和光『アジアの聖と賤』

『日本の聖と賤〈中世篇〉〈近世篇〉〈近代篇〉』（人文書院刊）

¥1,400～¥1,957

横井 清『中世民衆の生活文化』

（東京大出版会刊）¥2,800

佐竹昭広『下剋上の文学』

（ちくま学芸文庫）¥900

小林大二『差別戒名の歴史』

（雄山閣刊）¥4,800

仏教特講 VI

た かみ たい しゅう
田 上 太 秀

『大乘造像功德経』を読み、仏像発生の因縁、仏像の特徴などについて検討する。

読み下したものを読むので、漢文が読めない人も楽しく受講できる。

〔教科書〕プリントを配布する。

インド仏教史

た かみ ない しゅう
田 上 太 秀

インド哲学・宗教の歴史における仏教の位置づけ、インドにおける仏教の発生と展開、仏教思想の特徴、仏像の起源を展開・伝播などについて、幅広く講義する。

各時限ごとにプリントを配布し、さらに適時に参考書を紹介する。

パーリ仏教史

かた やま いち ろう
片 山 一 良

仏教2500年の歴史は、原始仏教の流れを直接に汲む、今日の上座部仏教の中に見ることができる。この伝統仏教をパーリ仏教と呼ぶが、それは、インドから、スリランカ、ミャンマー（ビルマ）、タイ、カンボジア、ラオスなどにいたる仏教が、すべてパーリ語という聖典語を通して伝えられたからである。それゆえにまた、ここには完全な経・律・論の三蔵が整っている。本講義では、前期はインドの仏教（すなわち釈尊からアソーカ王までの流れ）を、後期はインドから伝播したスリランカの仏教（マヒンガ長老から現代までの流れ）を中心に、その歴史と伝統について紹介し、あわせて社会と文化の変化についても触れたいと思う。

〔参考書〕Richard Gombrich: Theravada-Buddhism
— A Social History from Ancient
Benares to Modern Colombo (Routledge
& Kegan Paul) 1988

チベット仏教史

まつ もと し ろう
松 本 史 朗

チベット仏教は、教団史的にも思想的にも、インド大乘仏教の正系を受け継ぐ最も正統的な仏教であると評価されている。従来の我が国における仏教研究は、中国仏教においてなされた様々な仏教理解に大きく影響されてきたが、現在では、大乘仏教を研究するためには、中国仏教だけではなくチベット仏教をも学ぶ必要があると考えられるようになった。この講義では、この様な観点から、チベット仏教の歴史と思想を概説してみたい。

〔参考書〕山口瑞鳳著『チベット 下』
(東京大学出版会) ¥2,800

中国仏教史

おか べ かず お
岡 部 和 雄

中国仏教の歴史を概観したい。漢字に翻訳されて展開した仏教の特異性を種々の観点から分析しようと思う。

〔参考書〕鎌田茂雄『中国仏教史』(岩波全書)
任継愈『定本中国仏教史』(柏書房)

朝鮮仏教史

かま た しげ お
鎌 田 茂 雄

われわれ日本人は、あまりに近い国、朝鮮の文化や宗教についての知識がほとんどないといってよい。日本の古代仏教の実相を把握するためには、朝鮮仏教史の知識は不可欠である。同じ漢訳大蔵経にもとづきながら、中国、朝鮮、日本の仏教には、それぞれ相違がある。本講義では朝鮮における仏教の展開過程を、中国や日本の仏教と対比しつつ、その特色を明らかにすることに主眼をおきたい。

〔教科書〕鎌田茂雄著『朝鮮仏教史』
(東京大学出版会) ¥2,400
〔参考書〕鎌田茂雄著『朝鮮仏教の寺と歴史』
(大法輪閣) ¥1,900

日本仏教史

いし かわ りき ざん
石 川 力 山

日本における「仏教伝来の意義」といった課題を軸にして、日本に仏教が伝来した当初からの歴史を辿りつつ、日本思想史・宗教史上において果たしてきた仏教の役割を明らかにしたい。特に、中世における鎌倉新仏教の成立は、急速に仏教が社会のすみずみにまで浸透する契機となり、それにともない、さまざまな社会問題にも関与することになって、正・負の両面に機能を果たすことになった。この授業では、仏教思想の流れとともに、こうした社会的機能の側面についても、あわせて検討していきたい。

〔参考書〕辻善之助著『日本仏教史』
(全10巻、岩波書店刊)
家永三郎・圭室諦成・赤松俊秀監修
『日本仏教史〈古代篇〉〈中世篇〉〈近世・近代篇〉』(全3巻、法蔵館刊)
川岸宏教・速水侑等篇『論集・日本仏教史』
(全11巻、雄山閣出版刊)

禅学思想史

みね ざし こう さい
峰 岸 孝 哉

禅学思想史の範囲はもとより広く考えられるが、本年は日本禅、とりわけ永平道元（1200～53）の流れを汲む曹洞教団の展開に注目し、そこにみられる教学・思想の歴史的な性格を跡付けてみたい。

〔教科書〕『道元禅の歴史』〔講座道元Ⅱ〕

（春秋社）

〔参考書〕鈴木泰山著『禅宗の地方発展』

（吉川弘文館）

廣瀬良弘著『禅宗地方展開史の研究』

（吉川弘文館）

中国禅宗史

（平成2年度以前入学生：禅宗史Ⅰ）

た なか りょう しょう
田 中 良 昭

中国における禅宗の成立と発展の歴史をその内容とする。釈尊以来仏教の実践道とされた禅が中国へ伝来し、菩提達摩を初祖とする系統が、中国固有の思想や他の仏教諸宗と交渉しつつ、独自の中国禅宗を形成し、後には中国仏教の主流を占めるまでに発展した。そこで授業では、達摩渡来以前を導入とし、以下達摩の渡来から禅宗の成立までの成立の歴史を中心とし、更に禅宗が五家七宗に分かれて各々その特色を発揮する発展の歴史とを考察する。

〔参考書〕『禅の歴史—中国—』〔講座禅第三巻〕

（筑摩書房）

日本禅宗史

（平成2年度以前入学生：禅宗史Ⅱ）

はら た ひろ みち
原 田 弘 道

禅宗史Ⅱの内容は日本禅宗史である。

我国に伝来した禅は、その主流となって類型を異にするものが五つあったと考えられる。これらを中心にして禅宗の発展の歴史を考察する。内容は伝来、受容、発展の実態とその思想的意義の両面からとりあげてゆく。

〔参考書〕『禅の歴史—日本—』〔講座禅第四巻〕

（筑摩書房）

鈴木泰山著『禅宗の地方発展』

（吉川弘文館）

坐禅Ⅰ

（平成2年度以前入学生：禅学実習Ⅰ）

こ さか き ゆう い どう しゅう けん
小 坂 機 融 ・ 伊 藤 秀 憲

なが い まさ し い い せい じゅん
永 井 政 之 ・ 石 井 清 純

禅学は坐禅を根本とする宗教の学問的作業である。しかし学究のみではあくまでも万全ではない。究極はむしろ禅学の根本を実修する坐禅にこそ求められなければならない。禅学する者に坐禅が常に厳しく実修されないなら真の禅学とは言えない。従って本講座は坐禅堂における入堂・坐禅・経行・提唱・出堂の一切が厳粛に遂行されるが、このためには次の基本的心構えが必要である。

1. 時間厳守

（始鈴十分前に全員入堂坐禅、遅刻は認めない）

2. 威儀服装の整備

（規定の作法に従い厳粛かつ清楚であること）

3. 懈怠厳禁

（自ら怠惰を戒め毎時間真摯に精励する）

なお、(1)追再試等による救済措置は全くない。(2)特に新学期最初の授業は、坐禅堂における進退作法並びに席次等重要事項を指示するので必ず出席すること。

〔教科書〕『坐禅講本』（更生社）

宗 典

（平成2年度以前入学生：宗典講義Ⅰ）

くろ まる かん じ
黒 丸 寛 之

道元禅師著述の『正法眼蔵』と、瑩山禅師講述の『伝光録』について概説し、宗義上の基本となる諸巻・諸章を選んで講読する。

宗 典

（平成2年度以前入学生：宗典講義Ⅰ）

い どう しゅう けん
伊 藤 秀 憲

道元禅師並びに瑩山禅師の生涯と著作について概説し、その後、『正法眼蔵』（弁道話）・『伝光録』を講読する。

〔教科書〕『弁道話』は「道元禅師全集」第2巻（春秋社¥6,900）・『正法眼蔵（一）』（岩波文庫¥770）等に収められているから、各自で用意すること。

『伝光録』はコピーして配布する。

詩 偈

やま ぐち せい つう
山 口 晴 通

中国および日本の漢詩は、我々の精神生活において、はかり知れないほどの大きな影響を与えている。

ことに禅門にあっては、参禅者の修行における、心情吐露の表現方法として、また、禅門の教義宣揚法として活用されているのである。

したがって、作詩の基礎を知ることが、各自が生涯にわたって、重要な意義を持つことであろう。

本講座では、具体的に漢詩を鑑賞しながら、初歩的な作詩法を学習せんとするものである。

漢和辞典の種類については、授業中に指示説明をする。

〔教科書〕山口晴通著『詩偈入門（上）』

（曹洞宗宗務庁）¥1,000

〔参考書〕『漢和辞典』

書 道

の むら ちゅう こう
野 村 宙 弘

王羲之の蘭亭序をはじめ、各種古典の臨書による、実技の指導を行う。

書道実技の為、墨、硯、筆、文鎮、下敷、半紙等の文房四宝の用意が必要。

（正しい用筆法、正しい墨のすり方等、初歩的な基礎勉強の指導と、かんたんな書道史の説明を行う）

〔教科書〕王 羲之『蘭亭序』（清雅堂）¥360

禅 美 術

え び ね とし お
海 老 根 聰 郎

日本の中世絵画には、伝統的な大和絵と、この時代に中国から新たに流入した絵画を学んだ漢画がある。後者を作りだした環境は禅宗社会であり、画家も禅宗画僧である。講義は、この流れを黙庵、鉄舟、明兆、周文、雪舟などの画家を中心としてたどりながら、合わせて大和絵についても述べる。

（毎回スライドを使用する。）

インド仏教思想史

（平成2年度以前入学生：
仏教教理史Ⅰ（印度））

まつ もと し ろう
松 本 史 朗

インド仏教の展開を思想史の観点から解説する。従

ってこの講義は仏教思想家たちの高度に抽象的で難解な議論の解明を目指すものである。さらに仏教思想を正確に把握するために、仏教以前のインド思想、及び仏教以外のインド思想についても、解説を試みたい。

この講義の主な内容は、以下の通りである。1. ウパニシャッドの一元論、2. ジャイナ教の苦行主義と二元論、3. 原始仏教の縁起説、4. 部派仏教のアビダルマ哲学、5. 大乘經典の思想（空と有）、6. 中観派の空思想、7. 瑜伽行派の唯識思想、8. 仏教論理学派の認識論と論理学

〔教科書〕早島鏡正他等『インド思想史』

（東京大学出版会）¥3,000

中国仏教思想史

（平成2年度以前入学生：
仏教教理史Ⅱ（中国））

い とう たか とし
伊 藤 隆 壽

中国仏教の歴史的展開に従い、出家及び在家の仏教者が書いた主要な文献を具体的に取り上げて、仏教の中国的展開を思想的に跡付けたいと思う。文献や参考書は授業において適宜指示する。

インド哲学史

（平成2年度以前入学生：印度哲学史）

かな さわ あつし
金 沢 篤

ヴェーダ時代から現代にいたるまでのインド思想の流れを、個々の事例に即して、概観する。

〔教科書〕早島鏡正他著『インド思想史』

（東京大学出版会）¥3,000

〔参考書〕前田専学著『インド的思考』

（春秋社）¥2,000

中国哲学史

まえ かわ とおる
前 川 亨

中国の思想史の特色、その展開の過程を跡づけることを目的とする。まず中国思想の全体像を概観した後、古代から現代に至るまでの思想を具体的に考察していく。その際、東アジア世界の中での中国思想という視点を失わないように心がけるつもりである。中心になるのは儒教・仏教・道教の三教であり、これにイスラム教、キリスト教、（近代以降の）西洋思想もかかわってくるが、これらをできるだけ広い視点から俯瞰できればと思う。なお、漢文資料を用いることが多いので、漢文（古典中国語）もしくは現代中国語について一応の知識を持っている人の受講が望ましい。

〔教科書〕特に必要としない。
〔参考書〕授業の中で適宜紹介する。

仏典研究

きむら せいじ
木村 誠司

シャーンタラクシタ Sāntaraksita 著『撰真実論』の最終章「超感覚的事物を知る人の考察」Atīndriyārthadarsiparīksā を注釈と合わせて読む。

〔教科書〕Tattvasaṅgraha of Sāntaraksita with Commentary of Kamalasila (Gaekwad's Oriental Series No.30, 31)

原始仏教

かた やま いち ろう
片山 一良

仏教の源泉を原始仏教という。大乘であれ小乗であれ、そのすべては後代の呼び名に過ぎず、いずれの教えも原始仏教から出発している。釈尊が示されたものは、縁起、四諦の教え、あるいは無常・苦・無我という三相の見方であった。戒律を保ちまもることに始まり、少欲知足の生活をつねに教え導かれた。そこには智慧と慈悲の教えがあるので、何も飾りは見られない。本講義では、前期は原始仏教の基本的思想について、後期は基本的実践について考えたいと思う。

〔参考書〕『原始仏教・7』（大警諭経・大因縁経）
（中山書房仏書林）

外国語仏書演習

いし い こう せい
石井 公成

インド・中国・日本の仏教文献や研究論文を、英訳によって読む。テキスト（コピー使用）は、開講初日に指示する。

パーリ語初級

かた やま いち ろう
片山 一良

パーリ語は、原始仏教を学ぶ者にとって不可欠な「聖典語」である。本講は、その文法の確実な習得につとめ、原始仏典の正しい読解をめざすものである。前半は文法全体について講義し、後半は『法句』（Dhammapada）、『六方礼経』（Singālovada-sutta）を直接読みたいと思う。

テキストは、コピーにて配布する。

〔参考書〕水野弘元『パーリ語辞典』（春秋社）

パーリ語上級

ふく だ たか お
福田 孝雄

我々はブッダの言葉や原始仏教の精神に謙虚に耳を傾けながら、パーリのテキストを読んで行きたい。パーリテキストの中から、必要に応じて適当な箇所を選んでコピーし、講読する。

パーリ語文法を一応学んだ人であることが望ましいが、その基礎的事項を確認しつつ読んで行くので、初めてパーリ語を学ぶ場合であっても受講は可能である。

サンスクリット語初級

かな さわ あつし
金沢 篤

インド思想・文化などを学ぶ際の重要な拠所となるサンスクリット語の初級文法。

〔教科書〕J. ゴンダ著『サンスクリット語初等文法』（春秋社）

〔参考書〕辻直四郎著『サンスクリット文法』（岩波書店）

サンスクリット語上級

かな さわ あつし
金沢 篤

サンスクリット語（初級）文法に一通り親しんだ者を対象とする。比較的平明なサンスクリット文献を実地に読むことを通じて、文法の基本的事項を確認し、デーヴァ・ナーガリー文字に馴れると共に、実際の読解力を養う。テキストには以下のC. R. Lanmanの『サンスクリット読本』を予定しているが、場合によっては変更もありうる。

〔教科書〕C. R. Lanman, A Sanskrit Reader
（廉価なインド版もある。）

〔参考書〕辻直四郎著『サンスクリット文法』（岩波書店）

チベット語初級

まつ ほん し ろう
松本 史朗

チベット語は、インド仏教・チベット仏教の研究を志す者にとって必須の語学である。本科目は、チベット語（文語）の文法を下記の教科書を用いて教授するが、教科書は未公刊につき、コピーを使用するので、受講希望者は開講初日に必ず出席すること。

〔教科書〕山口瑞鳳著『チベット語文法』

チベット語上級

きむら せい じ
木村 誠 司

前年度に引き続き、サキャパンディタ Saskya Pandita(1182~1251) 著『学者入門』mkhas' jug 第三章を読む。受講者はチベット語(文法)を修得した者が、本年それを並修する者であることが望ましい。

〔教科書〕Jakson, D. P. : The Entrance Gate for the Wise (2 vols) (Wiener Studienzus Tibelologie und Buddhismuskunde Heft 17-1, 2)

青少年問題研究

みな がわ ひろ よし
皆川 広 義

現代における青少年問題を総合的に考察する。青少年の意識と行動、青少年の教育(人格形成)、青少年の非行問題などを主な課題として研究する。将来、僧侶になる者、教師をめざす者、青少年の指導を志す者などに資する講義としたい。
〔教科書〕和田謙寿著『少年補導の研究』
駒沢大学青少年問題研究室 ¥2,500

中国古典語上級

お がわ たかし
小川 隆

「初級」が伝統的な訓読法の訓練であるのに対し、「上級」は、中国古典を中国語そのものとして、あくまで文法的に読みとろうとするものです。双方ともに履修することが望ましいものですが、必ずしも初級→上級という順序である必要はありません。むしろ、この科目をとる為には、現代中国語の基礎をある程度身につけていること(中国語I A・B既習でいど)が前提となります。また、漢和字典(手もちのものでよい)のほかに、『新華字典』(東方書店)か『支那文を読む為の漢字典』(研文出版)のうち、少なくとも一方を用意して下さい。

〔教科書〕『中国古典読法』(朋友書店) ¥1,500
〔参考書〕教場で指示。

青少年指導演習

ひら の まなが
平 野 学

青年期を生きる学生諸君が“青少年指導”について学ぶには微妙な難しさが伴う。まずかかわる側自身、自らをよく見つめていることが何よりも重要になってこよう。ここではこうした認識を土台に、青年心理学や臨床心理学、カウンセリング学等の立場から、現代の青少年の状況等論じつつ、その援助や指導のあり方について互いに学び合いたい。特に「演習」科目でもあることから、受講者各々の様々な体験(ボランティア等)の発表や小グループでの討議、更には話を聴く練習(ロールプレイ)や自己理解を深めるためのエクササイズ等、色々取り入れる形で進めていきたい。そしてそうした中、受講者自らの成長にも役立つような授業になればと思っている。

〔教科書〕特に使用しないが、プリント等適宜配布しつつ、色々紹介していきたい。
〔参考書〕河合隼雄『大人になることのむずかしさ』(岩波書店)
同『カウンセリングを語る(上・下)』(創元社)

ラテン語特講

さ とう くみ こ
佐藤 玖美子

この講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の習得、とくに文法規則を学び、動詞、名詞の変化に慣れることを目的としています。また平行して、やさしいラテン語で書かれた読物の講読をも行いたいと思います。

〔教科書〕松本悦治著「ラテン語入門」
(駿河台出版社)

〔参考書〕田中秀央編『羅和辞典』(研究社)

宗教学概論

まつ もと こう いち
松 本 皓 一

人間生活の中で、宗教は如何なる意味と働きをもっているか、人間行動の学と称せられる心理学、社会学、人類学、精神分析学などの視座から概括的に考察してみたい。

〔教科書〕山口偉一編『宗教学』(弘文堂) ¥1,200
〔参考書〕必要により随時、指示する。

キリスト教史

みこだ とし お
三小田 敏 雄

今年度は地域と文化の関係に焦点を合わせながら、ヨーロッパの文化を歴史的に展望したい。幸いジョーダンの名著が邦訳で入手できるので教科書として使用する。同書中の統計や表・図版は将来西洋史研究にたずさわるものには有用である。ヨーロッパ各地域の地域類型を学習しながら、世界の諸文化の中でヨーロッパ文化がどのような地域性を示しているかという問題意識を持って、日本文化との比較も忘れて進めて行きたい。

〔教科書〕T.G. ジョーダン著・山本・石井訳
『ヨーロッパ文化』（大明堂）¥5,300

キリスト教概論

つる かつ よし お
鶴 岡 賀 雄

キリスト教は、信徒数で見ると、現在世界最大の宗教である。また、現代世界を支配している欧米の文化、思想には、キリスト教的伝統が深くしみこんでおり、西洋文化の摂取にある程度成功した現代の日本人にも、無自覚のうちにその影響は及んでいる。

本講義は、このキリスト教について、その教えの核心と、歴史および現状に関する基本的知識を与えることを目標とする。その過程でまた、仏教など東洋で生まれた諸宗教との類似点や相違点も明らかとなろう。

〔教科書〕用いない。
〔参考書〕聖書（旧約、新約とも。どの訳でもよい。）

新宗教概説

い けん みどり
井 桁 碧

一般的には「新宗教」とは相対的に成立の新しい宗教を意味するが、本講では、とくに日本の新宗教、幕末維新期以降成立した成立展開した諸宗教について概説する。社会の大変動期における庶民の不安や願望を反映していると考えられる教義や救済観、また国家による宗教統制に注目し、宗教の社会的機能について考察したいと考えている。

〔参考書〕授業のなかで紹介する。

各宗綱要（浄土学）

あ がわ ぶん しょう
阿 川 文 正

本講義は、浄土宗を開いた法然上人の浄土思想を、

体系的に論じようとするものである。凡夫救済を目的として説かれた専修念仏の教えは、何を根拠として説き出され、どのような修行によって救済されるのか、ということについて講述する。

〔教科書〕阿川貫達著『浄土宗義概説』
（浄土宗宗務庁東京事務所発行）¥500
〔参考書〕大野法道著『浄土宗読本』
（山喜房仏書林）
石井教道著『浄土の教理と其教団』
（三密堂）

仏教民俗学

はに ぐち みつぎ
谷 口 貢

仏教が日本社会に受容され、地域社会に定着するには、民間の習俗や信仰と接触し習合する過程があった。したがって、仏教と民俗信仰とのかかわりを追究することは、日本仏教の諸特徴を明らかにすることになるといえよう。

講義では、各地の具体的な調査事例を紹介しながら、地域社会における寺院の機能に焦点をあて、仏教年中行事、葬送儀礼、先祖祭祀などについて考察を行うことにしたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

仏教美術

なか しま りょう いち
中 島 亮 一

前期では仏教美術のルーツをインドに求め、その誕生の経緯と東漸のあとをたどり、その図像学的な解釈と信仰思想との関係、仏陀の伝記などを考察する。

後期は中国・朝鮮を経た仏教美術が、日本伝来後変容していく姿を、信仰思想の変遷とあわせて観察する。（スライド併用）

〔教科書〕佐和隆研編『仏像案内』
（吉川弘文館）¥1,900
〔参考書〕その都度指示する。

宗教教育

こ やま かつ のり
小 山 一 乗

種々様々な考察を試みる。用語・訳語としての宗教教育、宗教、religion、畏敬、注意深く観察する、（再）結合、宗、教、育、education、誓願、アニミズム、アニメーション等の字源・語源をさぐる。更に、何～何事、what～whatness、児童生徒の疑問態（の調査研究）、節分、饗祭り、節句、七夕、盆祭り、七五三、合格祈願、お守り、羽田空港長の朝、クリスマス、

ターミナル・ケア等を狙上に載せ教育的思考と法的思考で考える。受講生各自に、各自が余命僅か（六ヵ月以内）ということをも具体的に想定してもらい①一番大切な人を一人選び、その人に②「別れの手紙」を書き、③書いた後の感想を書くことを体験・経験してもらう。憲法20条・教育基本法9条・初期社会科学習指導要領との絡みの中に、対日米国占領教育改革政策が胚胎していた異文化理解問題の史実を見る。宗教を文化現象の一形態として考えるか否かについて諸説を見ておきたい。道徳教育の内容項目上の宗教的用語が「宗教の定義集」・「現代日本の諸家の宗教観」の二典中では、どう規定されているか、その脈絡を意味論的に概観する。tellとteachとの差異、〈religious education〉と〈education about religion〉の教授概念を検討する。多民族多文化多宗教共生社会のうねり、隣人は異邦人等がいわれ日常生活化しつつある国際化社会時代の問題・課題解決に与する宗教教育の目的論・目標論・内容論・方法論を具体的に考えたい。シラバスの詳細は開講時に示す。

- 〔教科書〕 小山一乗『社会科における宗教の教育と寛容―「告げる」と「教える」をめぐる』
 (宣協社) ¥2,700
 小中高各『学習指導要領』
 各¥230, ¥250, ¥370
 『仏教・キリスト教・イスラーム・神道
 どこが違うか』(大法輪閣) ¥1,600
 『教職教養ランナー』
 (一ツ橋書店) ¥1,020
 『教育小六法』(学陽書房) ¥2,200
 〔参考書〕 『宗教教育の理論と実際』
 (鈴木出版, 1985年)

仏教伝道概説

みな かわ ひろ よし
 皆 川 広 義

仏教における伝道法について、理論と実践との二面より概説したい。この場合、伝道とは教えを宣布する布教活動と、その教えにより対機を育成する教化活動を意味する。

理論面からは、教義、対機、伝道者及び伝道法の三点より、現代における老・病・死の苦悩をふまえて仏教伝道のあり方をさぐる。実践面からは、教えの宣布を中心とした布教活動と、教えにより教化育成する教化活動に分けて現場における実践として具体的に考察する。

希望するものには実習を行う。

- 〔参考書〕 増谷文雄著『仏教の根本聖典』
 (大蔵出版) ¥2,500

仏教伝道研究―対機研究と死の教育―

みな かわ ひろ よし
 皆 川 広 義

この仏教伝道研究では、伝道上とくに重要な課題をとりあげて、詳細に考察する。このたびは、「対機研究」と「死の教育」をとりあげる。

「対機研究」では、仏教の人間観、生命観をふまえ、新しい人間科学、生命科学の研究成果を参照して、現代における伝道対機を考察する。

「死の教育」では、生死の苦悩からの解説道としての仏教の立場より、現代の死の教育について、その歴史、内容、これからの課題などを考察する。

- 〔参考書〕 キューブラー・ロス著『死の瞬間』

(読賣新聞社)

近藤 裕著『自分の死にそなえる』

(春秋社)

高木きよ子著『文学にみられた生と死』

(大門堂)

哲学概説

つえ した りゅう えい
 杖 下 隆 英

西洋哲学の歴史において、古代、中世、近代から現代にわたって、不断に問い直され、重要と考えられてきた概念―たとえば、因果、実体、普遍等―とそれらをめぐる理論的、実践的課題のいくつかをとりあげ、歴史的、問題的に検討したいと思う。

- 〔教科書〕 杖下隆英著『認識と価値』

(東京大学出版会) ¥5,047

- 〔参考書〕 講義の過程で必要に応じて示す。

現代哲学概説

やま ぐち まさ ひろ
 山 口 祐 弘

科学技術を柱とする文明の進展は様々な問題を提起している。これらは、人間とは何か、生きることの意味は何かという根本的な疑問に発展することがある。現代の哲学はこれらの問題を回避するわけにはゆかない。本講はまず、20世紀に起きた現実的な出来事を取り上げ、そこに示された人間の苦悩と行動、更には人間性の変貌を具体的に描出しつつ、人間の実相に迫り、その中にある思想的課題を抽出する。次に、これらを西洋哲学に限定することなく広く思想史に照らして捉え返し、現代に生きるための哲学的態度を追求する。

- 〔教科書〕 山口祐弘『近代知の返照』

(学陽書房) ¥3,800

- 〔参考書〕 M. ホルクハイマー『理性の腐蝕』

(せりか書房) ¥2,000

哲学史

なか むら ともた ろう
中 村 友太郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書の信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼としたい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。なお前期にはその背景となるギリシア哲学史を簡単に展望することから始めたい。

〔教科書〕開講時まで決定する。

〔参考書〕その都度指示する。

哲学演習

く ぼ よう いち
久 保 陽 一

現代の実存主義や解釈学に決定的な影響を及ぼした、ハイデッガーの『存在と時間』を学ぶことにしたい。

〔教科書〕ハイデッガー（桑木 務訳）『存在と時間』（岩波文庫）でも可。

〔Heidegger, "Sein und Zeit". Max Niemeyer〕

〔参考書〕渡辺二郎他『ハイデッガー「存在と時間」入門』（有斐閣）

茅野良男『人類の知的遺産75、ハイデッガー一』（講談社）

大橋良介編『ハイデッガーを学ぶ人のために』（世界思想社）

哲学史特講

つえ した りゅう せい
杖 下 隆 英

西欧思想の流れにおいて、一方では中世思想と批判的に対決し、他方ではそれを継承して、近世後期や現代の思想に重要な影響を与えた17・8世紀の哲学、とくにロック、バークリ、ヒュームらのイギリス古典経験論者を中心に、とりわけその掉尾を飾るヒュームの提起した問題を検討する。それと同時に関連する現代哲学の諸問題も同時に論ずる。

〔教科書〕杖下隆英著『ヒューム』

（勁草書房）¥2,575

〔参考書〕講義の過程で必要に応じて示す。

中国文学概論

な ぐも さとる
南 雲 智

中国文学の主流とされる詩と文だけでなく、文字に書き表わされた作品（資料）を時間の流れとともに可能な限り通覧することで、この授業が中国人の文学観、美意識、思考様式といったものがどのようなものなのかを考えるきっかけとなればよいと思っている。

〔教科書〕基本的には使用せず、必要があればプリントを配布する。

中国文学演習

なか むら しょう ぱち
中 村 璋 八

中国の風土の中から自然に発生した漢民族の知恵の結晶でもある易の書は、その後、儒家の根本経典、五経の第一に位置付けられ、「易経」として重要視され、長い時代、多くの人々に読まれた。この易は、占卜の書であると共に中国人の世界観、人生観をも記したものであり、中国の思想、宗教、文学にも大きな影響を及ぼしている。それだけでなく、日本の文学、宗教、習俗、建築など広い範囲に、その影響が見られる。この「易経」を読んで行き、中国人の考え方を究めると共に中国古典、日本の漢詩文の読解力をも養って行きたい。

〔教科書〕中村璋八・古藤友子『周易本義』（明德出版社）¥2,900

東洋思想研究

たて の まさ み
舘 野 正 美

中国古代における様々な思想家たち—いわゆる“諸子百家”—の哲学思想を概観する。その際、たとえば、孟子は性善説・荀子は性悪説といった、単なる知識の羅列ではなく、むしろ、彼らが人間存在の深層に“何”を見出し（あるいは見出すことに失敗し）て、それをどのように表現しているのか、といった点にこそ意を注ぎ、詳細に論じてゆきたい。

かくして、孔子や孟子・荀子らの儒家思想、老子や荘子らの道家思想を経て、後期には『呂氏春秋』の諸思想、今年度は特にその医学思想について論及してゆきたい。

〔教科書〕舘野正美著『中国古代思想管見』（汲古書院）¥1,200

〔参考書〕授業中に適宜紹介します。

心理学概論

しの はら えい じゅ
篠 原 英 壽

この講座は基礎教育科目に組入れられているが、専門科目であるので、心理学の関与している問題を全般的に取上げたい。そこで、心理学とはどのような学問か。その研究方法・研究対象、及び意義について講義し、さらにこれまでの研究成果をもとに具体的事例に即して、上述したこととの関連を紹介したい。

〔教科書〕『心理学概説』（八千代出版）

禅心理学

ち はら ただし
茅 原 正

複雑で、ストレスに満ちた現代、瞑想に関する科学的研究がさかに行われ、心身に及ぼす良好なる効果が数多く発表されている。本講では、坐禅を主とする禅の心理生理学的研究の歴史、および研究の成果について概観するとともに、実験的課題と展望、禅の心理論理学などについても考察する。

参考書、参考文献については、講義の際に指示する。

坐禅Ⅱ

（平成2年度以前入学生：禅学実習Ⅱ）

すず き かく ぜん いし い せい じゅん
鈴木 格 禅 ・ 石井 清 純

実習時間の前半は只管打坐、経行を挿んで後半は『坐禅用心記』の提唱。授業の実施要領および基本的心構え等については、「禅学実習Ⅰ」に全く同じ。科目の性格上、遅刻を認めず、追再試やレポート提出等による救済措置は、一切講じられない。また、坐禅堂内およびその周辺における、服装・態度・言語・動作等の厳粛・整齊なるを、きびしく要求するから、これらのことを予めよく承知しておくこと。

なお、学年度最初の授業には、席次の決定や必要な諸注意をするから、全員かならず出席受講すること。

〔教科書〕『坐禅講本』（更生社）¥3,000

禅籍講読Ⅰ

（平成2年度以前入学生：禅学講義）

さ とう しゅう こう
佐 藤 秀 孝

この授業では中国禅宗でも初期の禅籍（禅宗文献）を講読するものである。はじめに初期禅宗の思想的展開を禅籍を通して概観し、その成立流伝の歴史的な背景を考察したい。その後、当該の禅籍について講じ、

各祖師の示した教えが如何なるものであるのかを明らかにしていく。対象となる禅籍としては『二入四行論』『無心論』『絶観論』『六祖壇経』『証道歌』『参同契』『宝鏡三昧』などである。

〔教科書〕コピーにて配布。

〔参考書〕『禅の語録』（筑摩書房）のシリーズ『禅語録』（中央公論社、世界の名著）

禅籍講読Ⅱ

（平成2年度以前入学生：禅学演習Ⅰ）

おほ ば ちつ お
大 谷 哲 夫

『従容録』・『碧巖録』・『無門関』を順次に講読し、日本禅者のそれぞれの註釈を通して、中国禅者の体認した悟道の世界を把握しながら、公案のもつ意義とその特異性を追求してゆく。本年は『従容録』の講読。

〔教科書〕講義の際に指示する。

〔参考書〕『曹洞禅講義』など。

禅籍講読Ⅲ

（平成2年度以前入学生：宗典講義Ⅱ）

せい りゅう むね つく
青 竜 宗 二

この講座は曹洞宗の二大宗典の一つである太祖・瑩山禅師の主著『伝光録』の講義が課せられている。テキストによって講義を進めるが、特に宗義の把握に力点をおく。

〔教科書〕光地英学著『冠註 瑩山禅師 伝光録』

〔参考書〕石川素童著『伝光録 白字弁』

禅籍講読Ⅳ

（平成2年度以前入学生：禅学演習Ⅱ）

みね かし こう さい
峰 岸 孝 哉

『永平元禅師語録』を読む。

本書は延文三年（1358）、永平寺六世曇希によって刊行されて以来、江戸時代までに数回の版を重ねて、広く読まれてきた「永平道元」（1200～53）の語録である。しかし道元の語録としては『永平和尚広録』（通称『永平広録』）十巻がすでに存在するわけで、これに対し、本書は『永平元禅師語録』（通称『永平略録』）として流布してきたわけである。この本書の成立については後述することとして、いわば『永平広録』の抄録としての『永平略録』の講読を通じて、道元の世界を考えてみたい。テキストは教場で指示する。

〔参考書〕鏡島元隆『道元禅師語録』（講談社学術文庫）、大谷哲夫他『永平広録』上巻、下巻、大本山永平寺（一穂社）

仏典講読Ⅰ

(平成2年度以前入学生：經典講読Ⅰ)

いけ だ れん た ろう
池 田 練 太郎

大乘仏教の代表的經典の1つである『勝鬘經』を講読する。この經典は、在家の勝鬘夫人を主人公として如来蔵思想を説くものである。本經の検討を通して、『法華經』の流れを受けているとされる一乗思想や、在家と出家の問題など、種々の問題を考察していく。テキスト等については、最初の授業のときに説明する。

仏典講読Ⅱ

(平成2年度以前入学生：經典講読Ⅱ)

おか べ かず お
岡 部 和 雄

大乘經典とくに初期に成立した般若、維摩、法華などの諸經には大乘思想が横溢している。この仏典講読Ⅱではそれらの大乘諸經から思想的に重要なパッセージをとりだし、講読する。大乘仏教がそれ以前の仏教とどのように相違するか、何をどう受けついで発展させたかを考える。

漢訳を中心とするが、梵文・パーリ文やチベット訳についても必要があれば言及する。

〔教科書〕テキストはその都度、配布する。

仏典講読Ⅲ

(平成2年度以前入学生：仏典演習Ⅱ)

いけ だ ろ さん
池 田 魯 参

『天台四教儀』を講読する。

伝統的に本書は仏教の概論書として宗派を超えて学ばれた歴史があり、長い間に仏教漢文の読み方も確定しているから、仏教典籍の読み方を習熟するには最適であろう。現代の新しい仏教学の研究方法からみて問題となる諸点はその都度指摘していくので、合せて仏教教理の研究分野の全体を眺望して頂きたい。

〔教科書〕関口真大校訂『天台四教儀』（山喜房刊）

仏典講読Ⅳ

(平成2年度以前入学生：仏典演習Ⅰ)

よし ず よし ひで
吉 津 宜 英

鎌倉時代の明恵上人高弁（1173-1232）の著わした『摧邪輪』（さいじやりん）を講読する。高弁は梅尾に高山寺を開創して、華嚴宗の復興を志した。また自分の夢を詳しく記した『夢記』（ゆめのき）でも有名である。本書は詳しくは『於一向専修宗選択集中摧邪輪』とあるように、南無阿弥陀仏の信仰をひたすら勧めた法然（1133-1212）の『選択本願念仏集』を破釈したものである。特に法然が菩提心を撥無することと、浄土門を称揚して、聖道門をあたかも群賊のように誹謗することを取り上げて反論する。日本仏教史の中で一行専修と諸行兼修の対論の一つとして注目される。〔教科書〕プリント配布

他学部履修科目

(全学部・短大共通)

※他学部科目の講義内容が掲載されているが，受講できる科目は各学部・短大によって異なっている。（履修についての詳細は，「他学部科目の履修方法」を参照すること。）

目 次

禅学特講 I (原田 弘道)	1	アメリカ経済論 (瀬戸岡 紘)	12
禅学特講 II (永井 政之)	1	財務会計論 (遠藤 孝)	13
禅学特講 III (石井 修道)	1	管理会計論 (中原 章吉)	14
禅学特講 IV (鈴木 格禅)	1	会計監査論 (飯岡 透)	15
禅学思想史 (峰岸 孝哉)	1	商業政策 (岩下 弘)	15
哲学史 (中村 友太郎)	1	貿易論 (古沢 紘造)	16
インド仏教史 (田上 太秀)	2	マーケティング (曾我 信孝)	16
中国仏教史 (岡部 和雄)	2	労務管理論 (石井 脩二)	17
日本仏教史 (石川 力山)	2	経営管理論 (百田 義治)	18
日用經典 (皆川 広義)	2	行政法 II (齊藤 寿)	19
仏教美術 (中島 亮一)	2	民法IV (1) (叶 和夫)	19
現代哲学概説 (山口 祐弘)	2	民法IV (2) (叶 和夫)	19
上代文学 (小野 寛)	3	比較憲法 (竹花 光範)	20
中世文学 (水原 一)	3	経済法 (川井 克倭)	20
近世文学 (富士 昭雄)	3	地方自治法 (梅木 崇)	20
近代文学 (高田 知波)	3	国際関係論 (首藤 素子)	20
中国文学 (中村 璋八)	3	西洋政治史 (浦田 早苗)	20
英文学特講 I (石原 孝哉)	3	宣伝広告論 (上條 末夫)	21
英文学特講 II (高野 正夫)	3	政党論 (早川 純貴)	21
英文学特講 III (岡崎 寿一郎)	3	保険経営論 (石名坂 邦昭)	21
英文学特講 IV (中岡 洋)	4	財務会計論 (渡邊 惠一郎)	21
英文学特講 V (高松 雄一)	4	税務会計論 (高木 克己)	22
英文学特講 VI (丸小 哲雄)	4	商業史 (山田 勝)	22
英米演劇特講 (落合 和昭)	4	経営情報論 (高井 徹雄)	22
米文学特講 I (東 雄一郎)	4	情報理論 (西村 和夫)	23
米文学特講 III (原川 恭一)	4	国文講読 I (上代) (佐原 作美)	23
時事英語 (坂本 武)	4	国文講読 II (中古) (鈴木 裕子)	23
地形学 I (小池 一之)	5	国文講読 III (中世) (藺部 幹生)	23
地質学 (貝塚 爽平)	5	国文講読 IV (近世) (清田 啓子)	23
人口地理学 (土谷 敏治)	5	国文講読 V (近・現代) (大室 英爾)	24
応用地理学 I (高木 正博)	5	国文講読 V (近・現代) (笹瀬 王子)	24
文化地理学 (交口 善美)	5	国文特講 V (近・現代) (笹瀬 王子)	24
日本史特講 VII (近代) (佐藤 元英)	5	英文タイプライティング II (湯浅 陽子)	24
東洋史特講 X (近・現代) (安藤 正士)	5	時事英語 (岡本 誠)	24
西洋文化史 I (佐々木 真)	6	英語演習 I (岡本 誠)	24
歴史哲学 (麻生 建)	6	計算機言語概論 (杉田 徹)	24
哲学史 (丸山 豊樹)	6	臨床放射線特論 I (本間 襄)	25
日本民俗学 (谷口 貢)	6	応用計測学 (櫃尾 英次)	25
マスコミュニケーション (川本 勝)	6		
産業社会学 (安藤 喜久雄)	6		
都市社会学 (江上 渉)	6		
社会福祉発達史 (林 千代)	7		
ロシア・東欧経済論 (山縣 弘志)	7		
社会政策 (光岡 博美)	8		
国民所得論 (吉野 紀)	8		
中国経済論 (小杉 修二)	9		
アジア経済論 (小林 英夫)	10		
日本経済史 (古庄 正)	10		
中小企業論 (三井 逸友)	11		
教育経済論 (谷敷 正光)	12		

他 学 部 履 修 科 目

禅学特講 I

はら だ ひろ みち
原 田 弘 道

禅宗と公案

公案は禅宗における經典観と深いかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史、看話禅の成立 (2)曹洞宗と公案 (3)公案の諸相、公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

禅学特講 II

なが い まさ し
永 井 政 之

8～9世紀、中国の禅宗は歴史的にも思想的にも一つの頂点を迎える。このことを一般には「仏教が中国に広まった」と評する。しかし中国人の誰もが「仏教」を十全に理解しえたわけではない。この授業では、中国禅の思想を原資料によって確認しつつ、中国の民衆が「仏教」をどのように理解していったかを考えることとする。

〔教科書〕必要に応じてコピーを配布する。

〔参考書〕随時指示する。

禅学特講 III

いし い しゅう どう
石 井 修 道

平成6年度につづいて『大慧書』を読む。大慧宗杲は看話禅の大成者である。その後の禅思想に大きな影響を与えた大慧の看話禅の性格は、『大慧書』に最もよくあらわれている。書とは、手紙のことであり、大慧が居士に与えた手紙を中心としているので、主張は明瞭である。宋代禅の性格を知る入門書と言えるであろう。荒木見悟博士の訳注本もあるが、まず禅録になれる意味もふくめて和刻本をテキストにしたい。その折に和刻本の誤読についても言及したい。

〔参考書〕荒木見悟著『大慧書』

(筑摩書房) ¥3,500

石井修道著『禅語録』

(中央公論社) ¥5,200

禅学特講 IV

すず き かく ぜん
鈴 木 格 禅

『見聞宝永記』講読

本書は通常『損翁老人見聞宝永記』と呼ばれる。損翁老人とは、仙台の泰心院に住した損翁宗益(1649～1708)のことである。損翁は面山瑞方(1683～1769)の師であり、面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが、その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は、損翁における面山の「随聞記」といってよく、内容は多岐にわたるが、その根底には、現状にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が、一貫して流れている。

本学年度は、前年度にひきつづき本書を講読し、学道の資助としたい。

〔教科書〕教員より配布する。

禅学思想史

みね ぎし こう さい
峰 岸 孝 哉

禅学思想史の範囲はもとより広く考えられるが、本年は日本禅、とりわけ永平道元(1200～53)の流れを汲む曹洞教団の展開に注目し、そこにみられる教学・思想の歴史的性格を跡付けてみたい。

〔教科書〕『道元禅の歴史』〔講座道元II〕(春秋社)

〔参考書〕鈴木泰山著『禅宗の地方発展』

(吉川弘文館)

廣瀬良弘著『禅宗地方展開史の研究』

(吉川弘文館)

哲学史

なか むら ともた ろう
中 村 友 太 郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書の信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼としたい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。なお前期にはその背景となるギリシア哲学史を簡

単に展望することから始めたい。
〔教科書〕開講時まで決定する。
〔参考書〕その都度指示する。

インド仏教史

た がみ たい しゅう
田 上 太 秀

インド哲学・宗教の歴史における仏教の位置づけ、インドにおける仏教の発生と展開、仏教思想の特徴、仏像の起源と展開・伝播などについて、幅広く講義する。

各時限ごとにプリントを配布し、さらに適時に参考書を紹介する。

中国仏教史

おか べ かず お
岡 部 和 雄

中国仏教の歴史を概観したい。漢字に翻訳されて展開した仏教の特異性を種々の観点から分析しようと思う。

〔参考書〕鎌田茂雄『中国仏教史』（岩波全書）
任継愈『定本中国仏教史』（柏書房）

日本仏教史

いし かわ りき ざん
石 川 力 山

日本における「仏教伝来の意義」といった課題を軸にして、日本に仏教が伝来した当初からの歴史を辿りつつ、日本思想史・宗教史上において果たしてきた仏教の役割を明らかにしたい。特に、中世における鎌倉新仏教の成立は、急速に仏教が社会のすみずみにまで浸透する契機となり、それにともない、さまざまな社会問題にも関与することになって、正・負の両面に機能を果たすことになった。この授業では、仏教思想の流れとともに、こうした社会的機能の側面についても、あわせて検討していきたい。

〔参考文献〕辻 善之助『日本仏教史』
（全10巻、岩波新書刊）

家永三郎・圭室諦成・赤松俊秀監修

『日本仏教史〈古代篇〉〈中世篇〉〈近世・近代篇〉』（全3巻、法蔵館刊）

川岸宏教・速見侑等篇『論集・日本仏教史』（全11巻、雄山閣出版刊）

日用経典

みな がみ ひろ よし
皆 川 広 義

わが国における日用の経典について、解説し、その平易な解釈をする。

この講義でとりあげる経典は、般若心経、法華経（寿量品、普門品）、修証義、大悲心陀羅尼などである。また、偈文・回向文などについても解釈したい。

これらの経典は、日本人の精神形成に大きな影響をあたえたものであり、その仏教経典としての正しい理解に心がけたい。

〔教科書〕テキスト プリント配布。

仏教美術

なか じま りょう いち
中 島 亮 一

前期では仏教美術のルーツをインドに求め、その誕生の経緯と東漸のあとをたどり、その図像学的な解釈と信仰思想との関係、仏陀の伝記などを考察する。

後期は中国・朝鮮を経た仏教美術が、日本伝来後変容していく姿を、信仰思想の変遷とあわせて観察する。（スライド併用）

〔教科書〕佐和隆研編『仏像案内』
（吉川弘文館）¥1,900

〔参考書〕その都度指示する。

現代哲学概説

やま ぐち まさ ひろ
山 口 祐 弘

科学技術を柱とする文明の進展は様々な問題を提起している。これらは、人間とは何か、生きることの意味は何かという根本的な疑問に発展することがある。現代の哲学はこれらの問題を回避するわけにはゆかない。本講はまず、20世紀に起きた現実的な出来事を取り上げ、そこに示された人間の苦悩と行動、更には人間性の変貌を具体的に抽出しつつ、人間の実相に迫り、その中にある思想的課題を抽出する。次に、これらを西洋哲学に限定することなく広く思想史に照らして捉え返し、現代に生きるための哲学的態度を追求する。

〔教科書〕山口祐弘『近代知の返照』
（学陽書房）¥3,800

〔参考書〕M. ホルクハイマー『理性の腐蝕』
（せりか書房）¥2,000

上代文学

おのひろし
小野寛

『万葉集』をよむ。これは古代の日本人の心をよむことであり、古代の歴史をよむことである。『万葉集』をよむにあたって、一首一首、諸本の本文の異同をたずね、その訓みを明らかにし、上代語およびその独自の語法をしらべ、作者の心をさぐり、その作品の背景となる歴史・風土・民俗などについても詳細にしらべながらよんでいく。毎年新しいテーマでよむ。

〔教科書〕小野 寛著『新選万葉集抄』（笠間書院）

中世文学

みずはらはじめ
水原一

『とはずがたり』（後深草院二条の日記）を読み、題材となった作者の生涯・運命・人間関係について考察し、日記文学としての特色について考えてみたい。

〔教科書〕富倉徳次郎『とはずがたり』（筑摩書房）

近世文学

ふじあきお
富士昭雄

『去来抄』の講読を通して、芭蕉の俳論を考察する。

〔教科書〕プリント（実費）

近代文学

たかだちなみ
高田知波

樋口一葉の代表的な作品を取りあげて精読する。幸田弘子氏による朗読テープも活用する。

〔教科書〕樋口一葉『にごりえ・たけくらべ』（新潮文庫）

中国文学

なかむらしょうはち
中村璋八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの

方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』（明德出版）¥2,300

英文学特講Ⅰ

いしはらこうさい
石原孝哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。とりあげる作家はThomas More, Edmund Spenser, Christopher Marlowe, William Shakespeare, John Miltonを予定している。殊に Shakespeareは代表的な10作品を選んで詳しく講じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔教科書〕『ノースロップ・フライのシェイクスピア講義』（三修社）¥3,800

英文学特講Ⅱ

たかのまさお
高野正夫

イギリス・ロマン派の詩人、ワーズワス、キーツ、ブレイクなどの詩を中心に読んでいく予定です。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講Ⅲ

おかざきとしいちろう
岡崎寿一郎

おそらく、過去のいかなる瞬間もまた現在であったことの認識をもつことなく現代という言葉を理解することはむつかしい。この認識の方法によって、十九・二十世紀の英詩について、その現代的意味を確認したい。具体的には、十九世紀ロマン派の詩人たち、テニスン、M.アーノルドの詩の検証を経て、ハーディ、イェイツ、D.H.ロレンス、さらに、エズラ・パウンド、T.S.エリオット以後の現代詩（モダニズム）について論究する。

〔教科書〕教場にて指示。

〔参考書〕教場にて指示。

英文学特講Ⅳ

なか ぶん ひろし
中 岡 洋

イギリス小説の代表的傑作 *Jane Eyre* や *Wuthering Heights* を残した Brontë sisters について、彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講Ⅴ

たか まつ ゆう いち
高 松 雄 一

20世紀イギリスのモダニズム文学の種々相を考察する。世紀末の唯美主義批評、イェイツ、イマジズム、エリオット、ジョイスらの作品や批評を取りあげて、モダニズム文学運動の意味を考えたい。

〔教科書〕必要があれば開講時に指示する。

英文学特講Ⅵ

まる こ てつ お
丸 小 哲 雄

文学批評は個人の嗜好ではなく、集団的な判断の問題へ発展させながら、向側に作家・作品を位置づけ、こちら側に読者の経験を豊かに高めることとなります。前期ではそのための有効な方法として伝統批評、ロシア・フォルマリズム；ニュー・クリチシズム、精神分析批評、受容理論（読者の立場）、構造主義、記号論、ポスト構造主義などの批評的考え方を講義します。後期では、作品の読み方と研究の仕方を修得するためにテキストを利用して、レポートを作成してゆきます。従って、テキスト理論とテキスト実践を平行的に作業することになります。

〔教科書〕The 20th Literary Criticism (Longman)

読書のためのプリント・リスト、および適宜必要に応じてプリントを配布します。

英米演劇特講

おち せい かず おき
落 合 和 昭

19世紀から現代までの演劇史に見られる主義（～ism）をその劇場史とともに、追いながら、重要な出来事、用語などの説明をする。

また、講義用のテキストとしては、図や写真が多く載っているアメリカの大学生用テキストを用いる。さらに、必要とあらば、英文の研究書などにも目を通し、多様な見方にも慣れる。

課題としては、講義の内容をまとめたレポートや他の英文（数冊のアメリカ大学生用テキストや研究書からのプリント）の要旨をまとめたレポートを十数回（一回につき四百字の原稿用紙2～3枚程度）ほど提出してもらう。

米文学特講Ⅰ

あがま ゆういちろう
東 雄一郎

19世紀のアメリカン・ルネッサンスから、20世紀初頭のモダニズム、そして現在のポストモダニズムに到るまで、アメリカの詩に関し、具体的な作品を味読しながら、考えていく。

〔教科書〕新倉俊一『アメリカ詩入門』

（研究社）¥2,200

米文学特講Ⅲ

はら かわ きょう いち
原 川 恭 一

20世紀アメリカ文学の巨星William Faulknerの作品世界を、代表的長篇小説 *The Sound and the Fury*, *Light in August*, *Absalom, Absalom!* の解説、および、短篇小説 "A Rose for Emily", "Dry September" の精読を通じて覗いてみたい。なお、作品の背景となっているアメリカ南部の特異な歴史的状況の説明をも加えていく予定。教科書、参考書以外の講義資料はコピーして配布する。

〔教科書〕大橋健三郎編・注 *A Rose for Emily & Other Stories* (英宝社) ¥1,380

〔参考書〕大橋健三郎著『フォークナー — アメリカ文学、現代の神話』

（中央公論社〔中公新書〕）¥720

時事英語

さか もと たくし
坂 本 武

放送英語、新聞英語その他時事面に関する英語について、テープ等も随時併用して講義する。また、時事文を多用しての英作文の作法についても採りあげ、「読み書き聴く」の三点を重視していきたい。別名、Living Englishと呼ばれる程「生き役立つ」英語の筈である。積極的に受講してほしい。

〔教科書〕教場にて指示する。

地形学 I

こ いけ かず ゆき
小 池 一 之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心にする。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント、スライド、ビデオを使ったわかりやすいものにした。 (内容は最先端の知見を含む)

〔教科書〕 貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』
(東大出版会) ¥4,532

地質学

かい つか そう へい
貝 塚 爽 平

前期には関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象 (たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁の形成) についても講ずる。後期には主として外国の地形・地質を一般論と交えて解説する。

人口地理学

つち たに とし はる
土 谷 敏 治

人口の分布とその変化・人口移動などの諸現象と都市構造・都市システムの関係について、研究方法やこれまでの研究成果を紹介する。

1. 人口統計と地域概念
2. 地域の人口構造とその記述法
3. 人口の分布と都市構造
4. 中心地論
5. 都市システムと人口移動

応用地理学 I

たか ぎ まさ ひろ
高 木 正 博

河川と地域の間を、利水・災害・自然環境などの視点から捉える。また、近年水環境に対する関心が高まっているが、その問題点について、地理学と他の研究分野を関連させてのべる。

〔参考書〕 高橋 裕著『河川工学』(東大出版会)
中西準子著『水の環境戦略』(岩波新書)

文化地理学

こも ぐち よし み
菱 口 善 美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち(1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(詩)、(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

日本史特講Ⅶ(近代)

さ とう ひと えい
佐 藤 元 英

明治初年より太平洋戦争までの外交史時期区分論を講ずる。

前期は幕末維新时期における列国の対日政策と日本の対応、明治初年の領土問題、条約改正、日清戦争、日露戦争、第一次対戦とパリ講和会議などについて論じ、外交主体の確立と近代主権国家系への参加から大陸膨張政策という対外路線を検討する。

後期は1920年代の国際関係と極東新秩序の模索、ワシントン体制と幣原外交及び田中外交、満州事変と国際的孤立化、国際体制の現状打破、日中戦争、太平洋戦争などについて論じ、国際協調から離脱していく世界新秩序の形成という対外路線を検討する。

〔参考書〕 入江 昭『日本の外交』(中公新書)

池井 優『日本外交史概説』(慶応通信)

東洋史特講Ⅹ(近・現代)

あん どう まさ し
安 藤 正 士

前期に「西安事変研究」、後期に「文化大革命研究」をおこなう。

1. 西安事変研究

はじめに—問題の提起、①西安事変にかんするこれまでの研究、②1930年代の中国政治外交政策、③西安事変、④「三位一体」体制の崩壊、⑤国民党3中全会、おわりに

2. 文化大革命研究

はじめに—問題の提起、①毛沢東の神格化、文革の綱領、②奪権闘争の展開、③新しい社会のヴィジョンと現実、④対外関係、⑤林彪事件、⑥近代化論争、おわりに

〔参考書〕 安藤正士・太田勝洪・辻康吾『文化大革命と現代中国』(岩波新書) 1986

西洋文化史 I

さ さ き まこと
佐々木 真

今日、私たちがイメージする西洋文化とは、主に19世紀から20世紀にかけて、知識人たちの影響下で形成された、近代文化のことであろう。しかし、最近のヨーロッパ史研究では、前近代社会や民衆世界においては、今日と異なった文化が存在したことが指摘されている。本講義では、西洋の民衆文化を題材として、中世末から近代にかけての文化変容の問題を考えてみたい。具体的には、民衆の生活様式（人口動態、家族・労働形態、女性や子供の地位）や知の世界（読書行為、識字）、民衆の心性（価値規範、死生観）などを手がかりとして民衆の文化世界を考察する。教科書は特に指定せず、参考文献については必要に応じて授業時に紹介する。

歴史哲学

あ そ う けん
麻 生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生 建『解釈学』（世界書院）¥2,500

哲学史

まる やま とよ き
丸 山 豊 樹

この講義「哲学史」の内容は「近世哲学史」である。しかし、近世哲学も古代および中世の哲学の発展・展開であるから、まず始めに古代・中世の哲学を概観した後で、近世哲学を論ずることにする。

「イギリス経験論」と「大陸合理論」によって、近世哲学の歴史は開始されるが、それはカントの「批判哲学」によって総合され、後さらに幾多の曲折を経て、現代の哲学に結実する。それらの哲学の特色を捕らえて、現代の哲学と科学との関連を考慮しながら講義を進めたい。

〔教科書〕国嶋一則編『西洋哲学の展開』（公論社発行）

日本民俗学

たに ぐち まつぎ
谷 口 貢

民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・習慣の考察を通して、日本社会に展開する生活文化を究明する学問である。民俗はよく「民族」と混同されるので注意を要する。本年度は「日本人の一生」をめぐる民俗文化に焦点をあてながら、生活文化のなかにおいて何が変化し、何が持続しているかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考することにした。本講義は、民俗学をはじめて学ぶ人のための入門編として、基礎的視点をしっかりと把握できるように配慮がなされる予定である。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

マスコミュニケーション

かわ もと まさる
川 本 勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようなかわりをもっているか、社会学的に分析する。

〔参考書〕その都度指示する。

産業社会学

あん どう きく お
安 藤 喜久雄

産業社会学の主要領域 — 組織、企業経営と労働者生活および労働者意識、労使関係、労働組合、職業・産業と社会、などについて概観し、そこでの社会学的諸問題が現代人にとってどのような意味をもっているか検討する予定である。

〔教科書〕安藤喜久雄『産業社会学』

（学文社）¥2,500

都市社会学

え がみ わたる
江 上 渉

次の様な内容で講義を進める予定である。

1. 都市社会学の誕生

シカゴ学派の人間生態学から、都市社会学の誕生

へ（パーク、バージェス、ワースの所論を中心に）

2. 都市社会学の興隆

わが国における都市社会学の受容と発展（都市化論、都市類型論、都市分類研究、町内会論、生活構造論など）

3. 都市社会学の展開

70年代以降のコミュニティ研究を中心に、都市化社会から都市型社会への変動を分析する。

〔教科書〕特に使用しない

〔参考書〕その都度指示する

社会福祉発達史

はやし ちよ
林 千代

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』

（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介

ロシア・東欧経済論

やま がた ひろ し
山 縣 弘 志

〈授業内容と目標〉

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、いかなる方向かとはかくとして移行過程にあるが、この地域が従来の歴史的経緯を背負って今後も多少とも他と区別される経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてそれはまぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義になりえたか否か自体が問われなければならないという認識が、同時代史によって求められている。社会主義であれ資本主義であれ、個別の体制は独特のあり方として捉えなければならない。その意味からも、ロシア革命による歴史の断絶か連続かの問題は、今日においては、後者に重点を置いた捉え方が妥当であるというこ

とが明らかになったのであるから、しからばロシア・東欧圏の歴史的連続性と独自性を何に求めるか、という問題も併せて探究していく必要がある。

社会主義論の原理的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制への認識が深まり、我々の時代の当面している課題が明らかになれば、自らの姿を鏡に映すという外国研究の基本的役割をいささかでも果たすことになるであろう。

〈授業予定〉

トピックスにコメントする機会が多いと思われるので、以下はあくまで予定と考えて頂きたい。

1. 社会主義とロシア革命

- (1) 社会主義論の歴史
- (2) マルクスの社会主義論
- (3) ロシア革命のめざしたもの－レーニン時代－

2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代

- (1) 1920年代から30年代への根本的転換
- (2) 工業化と農業集団化
- (3) ソ連型「社会主義」の特質
- (4) ソ連・東欧経済圏の形成

3. 「計画経済」と经济管理システム

- (1) 「計画経済」の成立
- (2) 「計画化」と「計画経済」の実態
- (3) ソ連型经济管理システム

4. ソ連経済の到達水準

- (1) 経済構造の特質
- (2) 軍事生産と工業生産力
- (3) 工業技術の諸問題
- (4) 農業政策と農業制度
- (5) 農業生産力

5. 停滞からベレストロイカへ

- (1) 経済改革の時代
- (2) ブレジネフと停滞の時代
- (3) ベレストロイカとその挫折

6. ロシア・東欧経済の現状と課題

- (1) ロシア・東欧社会の特質
- (2) 市場経済化の諸問題－何から何への移行か－

〈成績評価〉

本講義に限らず、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを求めたい。そのような観点で、成績評価はレポート（9月提出、40点配点）と定期試験（自筆ノート持込み可、60点配点）によって行なう。

〔教科書・参考書〕

教科書はない。授業中にノートを取るの当然である。参考書は適宜指示する。

社会政策

みつ かつ ひろ み
光 岡 博 美

〈社会政策の内容〉

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する社会改良思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の中葉に、当時ヨーロッパの後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から、社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけではなく、国民の権利を前提として、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は、政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対処していくという方向に向かった。労働基準法、労働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題研究へのアプローチの方法として、労使関係論の学問的発達を促すこととなった。戦後の日本においても、欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、日本の労働問題や労使関係の実態を分析し、労使関係をその実態に即して理解しようとする研究が大きな影響を及ぼしている。

〈本年度の講義内容〉

そこで、このような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うことにしたい。

- (1) 社会政策学の思想と理論
- (2) 労使関係論の思想と理論
- (3) 日本における社会政策の歴史
- (4) 日本における労使関係の歴史
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 現代日本の社会政策と労働問題
- (7) 日本的労使関係の現実とその未来

上に述べた(1)~(7)の項目について、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の紹介や解説、最近注目されている外国人労働者問題や女性労働問題などの時論、私が専門的に研究してきた問題なども、できるだけ分かりやすく解説してみたいと考えている。

また、授業とは直接関連はないが、労働問題を考えるうえでも有益と思われるような名作(映画)を鑑賞する機会も準備してみたい。

なお、全体の講義を通じて、その時々々の社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。そして、

われわれにとっての“より良い”社会とはどのような社会であるのかといった事柄にも思いをめぐらしてみたい。

〈履修条件と成績評価〉

履修条件は特にないが、教場では私語を慎むこと。また必要に応じて、出欠の点検を行う場合もある。成績の評価基準や答案作成の注意は、年度末試験の2週間ほど前の授業で説明する。

〔教科書〕なし

〔参考書〕必要に応じて講義のなかで紹介する。

国民所得論

よし の おさむ
吉 野 紀

220万の法人企業、6,700万人の就業者、そして4,200万の世帯、これらの中でさまざまな生産活動や取引が営まれている。これに政府や海外取引を含めると、日本経済では正に無数といってよいほどの取引関係が日々結ばれていることになる。

これらの取引関係は複雑に入りこんでおり、その1つ1つを追跡すると、経済という森に歩み入って、森全体の状況についての認識に到達することが難しくなる。そこで、森の上に飛び上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。こうして、上空から眺めると複雑に入りこんだ諸取引はいくつかの類似した性質を共有するグループに分けられることに気付くであろう。このような諸活動の1年間の成果が、たとえば、日本経済の場合、国民総生産(GNP)460兆円に結実してゆくのである。

「国民所得論」はこのような視点に立脚した経済分析方法である。しばしば、マクロ(巨視的)分析とよばれる所以である。モデル・アナリシスと、現実に観察される日本経済との対応が常に心懸けられるであろう。

〈授業計画〉

「国民経済計算」……………5回

GNP, GDPなど、国民経済全体をとらえるための経済指標の理解と、さまざまな諸取引間の相互関係をとらえることが主題となる。

「平成5年日本経済の循環図」(配布資料)

西嶋・藤岡『国民経済計算の知識』(日経文庫)

「総需要、均衡産出量、均衡所得」……………4回

いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に即して説明される。このテーマの終了後、練習問題が宿題として課される。解答と解説は授業中に示される。

中谷『入門マクロ経済学』(日本評論社)第3章「貨幣・利子率および同時均衡」……………8回

この段階で貨幣のはたす役割が導入され、前回までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の置かれている現況

との関わりが登場する機会も徐々に増えてゆくであろう。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題が宿題として課される。正解と解説は授業中に示す。

「金融政策、財政政策」…………… 4回

前回までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。ただし、金融政策、財政政策ともに、その効果という点では一律ではなく、機動的なポリシー・ミックスが望まれる、といった点にも触れなければならない。

『マクロ経済学(上)』ドーンブッシュ・フィッシャー(マグロウヒル)第4章

「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」…………… 4回

これまでに扱われてきたのは、財やサービスの取引と貨幣市場であったが、これに労働力市場が明示的に組み合わせられる。

「最終講義」…………… 1回

平成7年日本経済の予想。

海外経済との関わりは、主に為替レートを中心にここで触れられる。

〈成績評価〉

期末試験…………… 85%

2回の練習問題の提出(2回とも提出することが条件)…………… 15%

なお、練習問題を教場で黒板に解答して見せてくれる学生諸君(年間15名前後)には、学生諸君全体の意見を反映しつつ別途配点することもありうる。

〔教科書〕開講時に指示する。

中国経済論

こ すぎ しゅう じ
小 杉 修 二

1. 現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6・4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。

本講義ではこのような目前的変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

2. 前期授業のはじめに、キー・ワードを3週間分かけて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。

3. 2につづいて、中国経済の解明に取り組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立(1949年)から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて(1)ソ連モデル(1949~57年)、(2)毛沢東モデル(1958~78年)、(3)鄧小平モデル(1978~)として、それぞれの時期の特質とその変化の動因を説明する。

このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまりに近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というのは、過去の何らかの延長であるからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれないであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。

4. 上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性もっている中で、また、中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中での、このような志向性のもつ問題点をも相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

5. 授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ(1-201または1-301教室)上映による説明の二本立てで行っている。

教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。

また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

6. 受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事(中国経済)を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正確な理解である(学説の受け入れとは異なる)。テストは基準となる一つの学説(とりあえず、私の説)の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

7. 学習が正解当てクイズに終るかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や

同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

〔教科書〕小杉修二著『増補現代中国の国家目的と経済建設—超大国志向・低開発経済・社会主義』（龍溪書舎）¥4,120(消費税込み)

〔参考書〕小林英夫『戦後日本資本主義と「東アジア経済圏」』（御茶の水書房）¥3,200
小林英夫『東南アジアの日系企業』（日本評論社）¥3,200

アジア経済論

こ ばやし ひで お
小 林 英 夫

今日ほどアジアが注目されるようになった時期もめずらしい。とりわけ、その目ざましい経済成長が注目されたのである。1970年代は韓国、台湾、香港そしてシンガポールが、そして80年代後半になるとタイやマレーシアといったアセアン諸国が、その高成長のゆえに注目された。韓国をはじめとする4ヵ国は、一つの高成長グループとしてくられ、その名をニックス(NICS)と称された。

では、なぜ、この時期、アジアで経済成長が生じたのであろうか。それは、どのような歴史を背景に生まれたのか。そして、こうした成長地域の出現は、世界政治と経済にどのような影響を与えたのであろうか。アジア経済論は、こうしたアジアの経済成長の歴史的背景と現状そして将来を展望し、それが日本と世界の政治、経済に与えたインパクトを考察することにある。

授業は、講義形式でおこなう。ただし、原則として年間2回外部講師をまねいて、実際のアジアの実情を紹介してもらっている。これまでに野村証券の調査員にシンガポールの金融事情を、ジェトロの調査員にマレーシアの実情を、三菱柏会の事務局長に自動車部品産業の実情を紹介してもらった。今年も同様の“アジア・ガイド”を計画している。

今年度の授業項目と授業スケジュールは以下の通りである。

4月

アジアの実情

5月～7月

日本とアジアの経済関係（戦後日本とアジアの関係を、I. 賠償過程、II. 借款過程、III. 直接企業進出の3期に分けその過程を追うと同時に、それが日本の産業構造に与えた影響について検討する。

7月の夏休み前に、外部講師をよび、企業進出に的をしぼった、実態報告を行う。

9月～12月

東南アジアの日本企業の活動（1972年以降開始された日本企業の東南アジアでの活動実態について、主に輸出加工区でのそれをめぐってその活動実態を検討する）

1月

まとめ（1年間の講義について、まとめを行なう）

授業の受講にあたっては、あらかじめ指示した教科書を講読しておくこと。テストは、夏休み直前と期末のテストの2回を実施し、両者の総合成績で決定する。

日本経済史

こ しょう たけし
古 庄 正

開港前の日本は、極東の一封建国家にすぎませんでした。1853年（嘉永3）のペリー(M. C. Perry)来航に始まる鎖国体制の解体と欧米列強による領事裁判権・協定関税率・最惠国条項を内容とする安政条約の強制は、政治的にも経済的にも軍事的にも、幕末日本を植民地化の危機に陥れました。それにもかかわらず、日本は開港後わずか数十年の間に工業化を達成し、アジアにおける唯一の工業国家になりました。インド・中国・朝鮮その他のアジア諸国が工業化に失敗する中で、日本だけがなぜ工業化に成功したのでしょうか。この講義の第1の課題は、この点を歴史的・具体的に明らかにすることです。第2の課題は、日本の工業化は内外の民衆にとって何であったかを明らかにすることです。工業化は民衆の犠牲なしにはあり得ませんでした。苛酷な租税収奪による農民の没落、「インド以下の低賃金」の強制による労働者の貧困、公害の放置による地域住民の生活破壊等は工業化のもう一つの側面でありました。資源確保のためのアジア諸国への侵略はアジア諸国の民衆に塗炭の苦しみを強要することになりました。日本の工業化の問題はこれらのこととセットで考えなければなりません。第3の課題は、天皇制国家によって強行された日本の工業化と、戦後補償問題に端的に示されているような、自己反省に欠ける日本国家・日本企業の傲慢で醜い体質との間に、どういう因果関係があるのかを突き止めることです。日本経済史の対象はすこぶる広く、古代社会から現在までということになります。しかし、時間的・能力的制約から今年度は主に明治期（いわゆる産業革命期）の問題に話を限定したいと考えています。話の具体的中身としては、今のところ次のテーマを予定しています。なお、年度内に生起する諸事件の中で、日本経済史との関連で特に重要なものについては、適宜これを取り上げてお話しするよう心掛けたいと思っています。生きた具体的な現実との緊張関係を抜きにした講義は、社会科学の講義としては適切なものではないかと思うからである。

1. 幕藩体制の構造とその矛盾
2. 開港と植民地化の危機
3. 幕藩制の崩壊と明治維新
4. 明治国家の工業化政策
5. 政商と天皇・華族の資本蓄積
6. 農民の分解と士族の没落
7. 自由民権運動と天皇制国家
8. 産業革命と工業化

9. 紡績と製糸業
10. 工業化と在来産業
11. 重工業と鉱山業
12. 工業化と公害
13. 財閥の形成と発展
14. 工業化と地主制
15. 鉄道業と海運業
16. 外国貿易の発展と構造
17. 工業化と財政・金融
18. 植民地の領有とその矛盾
19. 工業化は民衆にとって何であったか。

経済史を含めて、いま、なぜ、歴史を学ぶ必要があるのだろうか。講義要綱を書くたびに、いつも気になるのはこの点です。大学の先生のような研究と教育を商売にしている人間は一応別として、一般の学生や市民にとって、果たして歴史を学ぶ必要などあるのでしょうか。多少我田引水のように少し気がひけるのですが、私はやはりその必要があると思っています。歴史学は何が真実なのかを問い直す一つの有効な武器となるからです。現在と過去とが密接にリンクしている戦後補償問題に例をとって、この点を説明しましょう。

第2次大戦中、日本の政府と企業は100万を超える朝鮮人を労務要員として、あるいは軍人軍属や従軍慰安婦として動員し、その果てに多くの人々を死傷させ、または心身に癒し難い傷を負わせました。しかし、加害者である日本国と日本企業はこれらの戦争犠牲者に対して何の補償もせず、戦後処理に決着をつけました。従軍慰安婦を別とすれば、日本政府も関係企業もこれらの戦争犠牲者に謝罪すらしていません。こうした理不尽な戦争処理の再検討を求めて、いま戦争犠牲者たちは東京地裁等で裁判を始めています。しかし、国も企業も強制連行、強制労働・差別待遇の事実を一切認めず、日韓協定ですべて解決済として、原告の要求を突っぱねています。国と企業が過去の蛮行を何ら反省することなく、こうした傲慢な態度をとり続けているのはどうしてでしょうか。その理由の一つは、事実の解明が十分でなく、原告側が国や企業の強弁に有効な反論ができないためです。中央大学の吉見義明教授が防衛庁防衛研究所所蔵の軍の機密資料を発見、従軍慰安婦問題については軍の直接的関与を認めさせ、政府の政策を大きく転換させましたが、その他の問題については、国と企業の徹底した資料隠しも加わって、被害の実態が十分つかめていません。原告側の最大の弱みはこの点にあります。もう一つの理由は、韓国併合以来の朝鮮および朝鮮人に対する蛮行が、学校教育では殆ど知らされていないことであって、多くの人々が戦後補償問題について無知・無関心であるということです。被害国家の民に対する国と企業の理不尽な対応を日本国民が許す一因はここにあります。文部省が教科書検定に執念をもやしたわけがよくわかります。戦後補償裁判を傍聴してしみじみ感じたことは、歴史研究と歴史教育が何としても必要だということでした。国民が真実を知らなければ、どんなに理不尽なことでも、それが正論として公法廷の場でも罷り通る

ことになりかねないからです。

経済史を含めた歴史学の課題は、何が真実であるかを明らかにすることにあります。そういう意味では、本質的には批判の学であります。しかし、経済史を含めた歴史学の勉強をこういう側面のみ限定して考えるのは一面的にすぎます。人が自分の過去を懐かしく思うように、自己の所属する国家や民族や地域について、あるいは自らがその中で生きている社会や経済や文化について、その過去を知りたいと思うのは、いわば人間の本性のようなものです。そういう知的欲求を満たしてくれるのもやはり歴史学なのです。

中小企業論

三井逸友

「中小企業」を論じるというのは実は存外に容易ではない。世界的な「中小企業フィーバー」の続いた80年代をへて、深刻化する不況と「構造転換」のすすむ今日こそ、さまざまな俗論や安直な先入観念を排し、きちんとした学問的方法と総合的でグローバルな現状認識をはかり、さらに21世紀を展望した「政策観」をつくり上げていく必要がある。

日本の中小企業は約600万、企業の99%、従業員の80%を占め、製造業中小企業に限っても80万をこえ、付加価値の50%以上を生み出している。つまり、日本の経済社会にとって中小企業はきわめて重要な「メジャー」な存在であるとともに、諸外国からうやましがられる「日本産業の競争力」を支えているのである。しかしこのことは、中小企業の地位が安定し、そこに働く人々が恵まれていることを示すものではない。中小企業をめぐる格差、不利、経営不安などの「問題状況」も依然広くみられ、今日また深刻となっている。しかもこうした「期待」と「困難」の交錯する事態は先進国に共通して確認されているのである。

この講義ではこうした中小企業の存在状況と役割、当面する問題を概観し、次にこうした中小企業の存立と問題性をめぐる理論・研究を検討し、「中小企業問題」の二面性と、現代経済における中小企業の「構造論」的位置づけを明らかにする。講義の後半では、「下請制」、「地場産業産地」などの中小企業群の形成する分業と協働・集団の諸形態の特徴と最近の動向を追い、結合生産力の「効率性」と、これに対する競争と統制・管理の貫徹がもたらす「経済的關係」のうえで問題状況を示す。事態は独占大企業の「支配・利用」と「過剰・淘汰」の間で現われるのである。さらにこうした「中小企業問題」に対応して展開されてきた「中小企業政策」の国際比較研究を行い、「生産力的に成功を収めてきた日本の「中小企業近代化政策」の特徴と限界、これに対する欧米の政策の相違点と近年の「収斂傾向」を解明する。加えて補論として、最近の政策課題として注目される、「構造転換」(リストラ)対応策、分業にもとづく結合生産力の目的意

識的な組織としての、企業間連携・共同促進策、新規開業促進策、そして「基本法30年」での中小企業政策の見直しの動きについてもふれてみたい。

授業は主に講義の形で進めるが、企業経営のナマの現場を理解してもらうため、ビデオ、スライドの上映、企業経営者の方の話などもとり入れたい。その中で産業分析の基礎知識も伝え、さらに担当者の世界各地や全国での見聞も活用する。

〈構成予定〉

- I. 中小企業論の課題と対象、規定と構成、問題状況
- II. 「中小企業論」研究の方法と「存立」論・「問題」論
- III. 中小企業の現代的存在形態
- IV. 「中小企業政策」の展開と国際比較

なお、毎年夏休みには、補足的資料として、『中小企業白書』を読んでもらい、希望者にはレポートを書いてもらっている。成績評価は、他の専門科目同様、学年末定期試験を中心とする。

〔教科書〕三井逸友『現代経済と中小企業』
(青木書店) ¥2,800 (税抜)、
三井逸友『EU欧州連合と中小企業政策』
(白桃書房) (予定)

〔参考書〕中小企業庁編『中小企業白書』〔各年次〕

教育経済論

や し た み
谷 敷 正 光

〈授業内容〉

経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について考察する。

日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの観点から日本の産業教育政策を解明するとともに、2,000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2,000年のアメリカ」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランス「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。

そこで本年度は、こうした各国の経済再建と教育改革の動向、日本の現状をまず考察する。

次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した復興期から平成景気までを中心にそれぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の教育要求と国の教育政策、産業教育政策を考察する。

〈授業形態〉

毎時間、講義のはじめに、現実的理解のために視聴覚教室でビデオを使用する。

〈授業項目と授業スケジュール〉

(1) 欧米先進国の経済の現状と教育

- ① アメリカ
- ② イギリス
- ③ フランス
- ④ ドイツ
- ⑤ 日本

(2) 戦前の経済発展と実業教育の振興

- ① 学制時代(明治10年前)
- ② 教育令時代(明治20年代)
- ③ 学校令時代(明治30年代)
- ④ 実業学校令時代(明治30年代)

(3) 戦後の経済発展と産業教育の振興

- ① 復興期
- ② 高度成長期
- ③ 1970年代
- ④ 1980年代
- ⑤ 1990年代

(1)(2)は前期に、(3)は後期に講義する予定。

〈履修条件〉

- ① 欠席しないこと。
- ② 視聴覚教室を使用することが多いので教室には注意すること。
- ③ 年間数十枚のプリントを配布の予定ですが、一度配布したプリントは、後の時間では配布しないので、必ずその時間中に受けること。

〈評価方法〉

定期試験の成績

〔教科書〕年間25~30枚のプリントを講義資料として配布するので特に使用しない。

〔参考書〕豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』

(東大出版)

文部省『産業教育百年史』(ぎょうせい)

アメリカ経済論

せ と お か ひろし
瀬戸岡 紘

☆ 現代のアメリカ経済事情を幅ひろくわかりやすく解説します。

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅ひろく、トータルな解説をするのが、この講義です。それとともに、アメリカでのできごとと関係のふかい世界の情勢を、ひろく検討します。

☆ 特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です。

この講義を受講するためには、特別な経済学の予備知識などは必要ありません。経済学部以外の学生でも

十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済について関心をもつ学生諸君には、さらにふかめた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発を試みようかとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探求をこころみるものではなく、奥深く興味をつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものなのです。

☆ 1回の講義でひとつのテーマをとりあげます。

1回ごとに独立したひとつのテーマをとりあげ、完結させるように話します。年間をとおしてきくと現代のアメリカ経済の全体の輪郭がわかるように講義を組んでいます。とりあげるテーマには、おおむねつぎのようなものを予定しています。

前期

[導入の話題]

◇大統領の今年の経済政策とアメリカ経済の近況

[総論]

◇アメリカ的特質
◇アメリカ経済の歴史的背景

[アメリカ経済各論]

◇アメリカの農業
◇アメリカの工業
◇アメリカの企業家
◇アメリカの労働者
◇アメリカの商業とサービス
◇アメリカの金融
◇アメリカの科学技術
◇アメリカの先端産業

後期

[世界とアメリカ]

◇国際通貨ドルの地位とIMF
◇アメリカと貿易(GATTとWTO)
◇アメリカ軍の世界的ネットワークと経済的意義
◇アメリカの海外援助
◇アメリカの多国籍企業
◇多国籍企業とアメリカ経済

[アメリカと世界の諸地域]

◇アメリカとEU
◇アメリカとカナダ・メキシコ
◇アメリカと日本
◇アメリカとアジア・太平洋

[むすびの話題]

◇アメリカの経済学(あたらしい学派の見解)

毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくりには、受講者諸君との対話を大切にしながらテーマの本質について考えてみます。

☆ あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します。

年間予定とは別に、あたらしいニュースや情報は、随時、解説をつけて、お話します。ただし、ただあたらしいことを追うばかりにおちいらぬで、ことの真相や本質的なことがらを、ちょっとたちどまって考えることができるような、多少とも理論的な視角をもちこみます。

☆ アメリカの諸大学にみられる長所をとりいれた授業です。

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして、たのしくすすめるつもりです。とくに、この講義には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるようにこころがけています。たとえば、ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をおとさないように、講義の途中で小休止をおくようにしています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点、改善提案などは、もちろん今年も実施します。

☆ 最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定のテキストは使用しません。

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって、しかもどの一冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では、その都度よい文献などを紹介していきます。日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体が、この講義の教科書ですが、今、どうしてもといわれれば、グリーンバーグ著『資本主義とアメリカの政治理念』(瀬戸岡訳、青木書店、1994年)をおすすめします。

☆ 熱心な受講者には楽勝の、単位だけがほしい学生には恐怖の科目です。

この講義は、3年生、4年生いずれもが受講できることはいうまでもありませんが、以上にのべたこの講義の性格からして、3年生のうちに受講することをすすめます。また、この講義については、いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には、退屈させない楽しい講義をするつもりですし、また、そういう受講者がよい成績をおさめられるように評価のしかたを工夫しています。たとえば、この講義では、一発の年度末試験よりも平常点や時間をかけて書きあげたレポートを重視する予定です。

財務会計論

えん どう なかし
遠 藤 孝

<授業の主たる内容>

会計学、とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計(FINANCIAL ACCOUNTING)について、その伝達、開示の手段である貸借対照表

(BALANCE SHEET), 損益計算書 (INCOME STATEMENT) を中心に、その性質、内容、役割などについて講義する。

財務会計論は会計学原理ともいえるもので、企業会計とは何か、企業が作成する貸借対照表などの決算書は、どのようにして作成されるか、それはどのような性質、内容をもつものであるか、それはどのような役割を果たすものであるか、また決算書はどのように読んだら良いのか、など実例をもって説明する。

〈授業形態、講義〉

できるだけ多くプリントを配る予定。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期

- ① 4月第1週
企業会計、財務会計とは何か。
会計学、財務会計論とは何か。その企業会計、財務会計の何を学ぶのか。
- ② 4月第2週
先週に引続き、企業会計、財務会計とは何か。
企業会計、財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。
- ③ 5月第1週
財務会計の制度性について。
企業会計制度とは何か。日本の企業会計制度、各国企業会計制度のタイプ。
- ④ 5月第2週
貸借対照表論、貸借対照表とは何か。実際に企業が作成した貸借対照表で説明。貸借対照表の役割、貸借対照表学説。
- ⑤ 5月第3週
資産評価について。流動資産 — 棚卸資産の評価、有価証券の評価、現行評価制度の問題点。
- ⑥ 6月第1週
資産評価について。固定資産の評価、土地評価、減価償却について。
- ⑦ 6月第2週
繰延資産について。繰延資産の特殊性、繰延資産項目とその償却。
- ⑧ 6月第3週
引当金について、引当金とは何か。引当金の設定基準 — 商法、「企業会計原則」の引当金、引当金会計の問題点。
- ⑨ 6月第4週
同上
- ⑩ 7月第1週
資本会計について。

後期

- ⑪ 9月第1週
損益計算書とは何か。費用収益の認識。
- ⑫ 9月第2週
連結財務諸表とは何か。
- ⑬ 9月第3週
同上

- ⑭ 10月第1週
セグメント会計について
リース会計について
- ⑮ 10月第2週
企業内容、会計内容の開示について。
法記 財務諸表附属明細表(書)
- ⑯ 10月第3週
同上
- ⑰ 10月第4週
財務諸表の監査、商法上の監査。
- ⑱ 11月第1週
財務諸表の監査、証券取引法上の監査。
「企業会計原則」について
- ⑲ 11月第2週
会計の国際化、会計基準の国際的調整。
- ⑳ 11月第3週
同上
- ㉑ 11月第4週
日本、世界企業会計の最新動向。
- ㉒ 12月第1週
同上
- ㉓ 12月第2週
会計学を学ぶについて考えるべきこと。
— 総括
- ㉔ 最終週
予備

以上のスケジュールは学会出張、大学祭など大学の行事によって変更することがある。

〈成績評価の方法〉

試験による。(前期、後期2回実施の予定)
〔教科書〕講義の際指示。

管理会計論

なか はら しょう きち
中 原 章 吉

〈授業の主たる内容〉

「管理会計」という分野は、多くの人にとって、大学に入って初めてお目にかかるものです。どの分野でも、ある段階に達するまでには、何段もの階段を一段一段昇ってゆかねばなりません。この「管理会計論」は、その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。

「管理会計論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちのひとつであるということができると思います。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して、「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期は、管理会計の本質、体系その中での意思決定会計と業績管理会計をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連につ

いても講義していきたいと思えます。

後期は、管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。

「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

<予め読むべき文献など>

1年生で「会计学総論」を選択しなかった経済学科の学生は会计学の入門書を読んでおく講義が理解しやすいと思えます。例えば、『企業会計の基礎知識』（創成社）
〔教科書〕講義の際、指示します。

会計監査論

いい おか とおる
飯 岡 透

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化および企業活動の複雑化に伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。

本講座では、次の内容につき順次講義する。

1. 会計監査の目的と種類
 - (1) 会計監査の目的
 - (2) 会計監査の種類
 - (3) 監査基準の必要性和その構造
2. わが国における監査制度の発展
 - (1) 第2次大戦前におけるわが国監査制度の展開
 - (2) 第2次大戦後におけるわが国監査制度の展開
3. 証券取引法による監査制度
 - (1) 証券取引法による企業内容開示制度
 - (2) 公認会計士監査制度
4. 商法による監査制度
 - (1) 商法による計算と公開制度
 - (2) 監査役監査制度
 - (3) 会計監査人監査制度
5. 監査人の要件と責任
 - (1) 監査人の要件
 - (2) 監査役および会計監査人の選任と解任
 - (3) 監査役および会計監査人の職務権限と責任
6. 監査要点と監査手続の選択適用
 - (1) 監査要点の意義と種類
 - (2) 監査手続の意義と分類
7. 監査証拠の種類と内容
 - (1) 監査証拠の意義と分類
 - (2) 十分な証拠とその決定要因

8. 内部統制と監査リスク

- (1) 内部統制の構成要素とその評価
- (2) 監査リスクと重要性

9. 監査計画の設定要件と組織的監査

- (1) 監査契約と予備調査
- (2) 監査計画の目的とその設定
- (3) 組織的監査の必要性和審査機能の整備
- (4) 他の監査人の監査結果の利用

10. 監査調書の目的と種類

- (1) 監査調書の目的と作成要件
- (2) 監査調書の種類と保存

11. 経営者による確認書の意義と記載内容

- (1) 経営者による確認書の役割
- (2) 経営者による確認書の記載内容

12. 監査報告書と監査概要書

- (1) 監査報告書の意義と機能
- (2) 監査報告書の種類
- (3) 短文式監査報告書の記載内容
- (4) 特記事項の記載内容
- (5) 監査概要書の目的と記載内容

会計監査は、財務諸表の適否についての意見表明を目的とするものであるから、会计学総論、簿記論および財務会計論などの講義を履修し、財務諸表について十分に理解していることが望まれる。なお、成績は、レポートおよびテストの結果によって評価する。また、教材・参考書については、最初の授業時に指示する。

商業政策

いっ した ひろし
岩 下 弘

<授業項目>

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
 - 1 80年代の小売商業構造
 - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
 - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
 - 1 中小小売商保護政策論
 - 2 流通近代化政策論
 - 3 流通システム化計画論
 - 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
 - 1 70年代の流通
 - 2 80年代流通産業ビジョン
 - 3 90年代流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
 - 1 百貨店法
 - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
 - 2 中小小売商業振興法
 - 3 小売商業調整特別措置法
 - 4 大店法
 - 1) 1973年法 2) 1979年改正法
 - 3) 1991年改正法

- 5 凍結宣言、要綱及び条例
- 6 通産省による行政指導＝抑制措置
- 7 規制緩和
 - 1) 規制緩和の流れ－前川レポート、行革審報告
 - 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
- 8 特定商業集積法
- 9 街づくりと都市計画
- 五 海外の流通政策
 - 1 イギリス
 - 1) 出店調整政策－都市・農村計画法
 - 2) 日曜営業問題－商店法
 - 2 フランス－ロワイエ法
 - 3 ドイツ－土地利用計画
 - 4 アメリカ－ゾーニング規制
- 六 流通問題と消費者保護政策
 - 1 消費者問題論
 - 2 消費者保護基本法
 - 3 消費者行政
 - 4 生協
- 七 流通問題と独禁政策
 - 1 独占禁止法
 - 2 不正取引
 - 3 取引慣行

〈成績評価〉

試験、レポート、出席により評価する。

〔教科書等〕

教科書は特に指定しない。必要な文献は指示する。

貿易論

ふる さわ こう ぞう
古 沢 紘 造

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまできています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って日本の対外経済関係（貿易、投資、援助）を批判的に考察したいと思います。その際、構造的に、また、人々の生活の実態に触れながら検討をすすめたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

〈授業内容〉

- I. 農産物と貿易
- II. 水産物と貿易
- III. 林産物と貿易
- IV. 資源と貿易
- V. 工業製品と貿易

- VI. 援助と貿易
- VII. 企業進出と貿易
- VIII. 総括

I～VIIIの具体的な内容については、最初の講義のときに話したいと思います。

〈評価方法〉

基本的にはペーパー・テストにより評価しますが、自主的にレポートを提出してもらい、それを含めて評価をすることも考えています。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたいと思います。思考の跡がうかがえないものは評価の対象にはならないでしょう。

〈教材〉

とくにこれといった教科書はありません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえば内容は充分理解できると思います。講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいということがありましたら、遠慮なく話に来て下さい。いろいろな文献や訪れたらよい機関を紹介いたします。講義の内容と卒業論文のテーマが関連しているということで研究室（第2研究館4階34号室）を訪ねる人もいます。

マーケティング

そ が のが たか
曾 我 信 孝

1. 前期はマーケティングの基本政策を収奪構造の観点から解明する。

(1) 製品政策

- ① 概念と差別化政策
- ② 多様化・細分化政策
- ③ ライサイクルと計画的陳腐化政策

(2) 価格政策

- ① 概念と価格設定の方法(1)
- ② 価格設定の方法(2)と消費者支配
- ③ 差別価格と収奪

(3) チャネル政策

- ① 概念と流通機構
- ② 商業の排除と系列化政策
- ③ 流通支配の形態

(4) 販売促進政策

- ① 概念と人的販売政策
- ② 広告政策と広告業界

(5) マーケティング・ミックス

※前期の講義のねらいは、マーケティングの基本理論を理解してもらうことにある。しかし、講義中は理論の説明に固執するわけではなく、とりわけ消費財のマーケティング事例を豊富に取り入れるつもりである。それは学生諸君が今後マーケティングを応用できる能力をつけることを期待しているためである。

2. 後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングの分析を課題にする。とりわけ、総合商社を軸として、日本企業が激変する国際市場にどのように対応しているかを、マーケティングの観点から分析する。

- (1) 激変する市場環境
 - ① 国内市場の変化
 - ② ブロック経済化
 - ③ 経済規制の緩和
- (2) 総合商社の新事業
 - ① 川下戦略
 - ② 消費財生産部門への参入
 - ③ 新事業への対応政策
- (3) 総合商社の国際マーケティング戦略
 - ① 消費財マーケティングの展開
 - ② 総合商社の需要創造活動
 - ③ ネットワークと支配
- (4) 総合商社と子会社
 - ① 子会社戦略
 - ② マーケティング管理と子会社
- (5) 情報化戦略
 - ① 国際化と情報の対応
 - ② 通信事業と支配
 - ③ 情報関連事業と支配

※地球規模での市場の変化は、日本企業だけではなく、世界の企業がマーケティングを限定した地域で展開することはできなくなっている。また、日本市場だけを考えても、生産から消費までを考えなければならぬマーケティングでは、国際マーケティングを抜きには論じられなくなっている。そのなかで、日本企業の国際マーケティングに総合商社は深く関与している。したがって、総合商社の行動を分析することで、総合商社の国際マーケティングはもとより、日本企業の国際マーケティングの実態を解明することにねらいがある。

〈評価の方法〉

- ① 年一回の定期試験……70%
夏休中の課題 ……20%
出席状況 ……10%
- ② 評価基準
講義内容の理解 ……60%
問題意識 ……30%
分析力・応用力 ……10%

〔教科書〕曾我信孝『総合商社とマーケティング』
(白桃書房) ¥4,000

〔参考書〕三浦 信・来往元郎・市川 貢『マーケティング』(ミネルヴァ書房) ¥2,200
曾我信孝編著『マツダ マーケティング戦略』(白桃書房) ¥2,700

労務管理論

いし い しゅう じ
石 井 脩 二

〈講義目的〉

日本経済の繁栄を支えてきた日本企業の存在意義が問われはじめている。国際的には依然としてくすぶり続ける経済摩擦や経済ブロック化への動き、国内的には政財界ゆ着による倫理性のない企業犯罪の頻発、過労死や長時間労働に示される労働生活の貧しさ、いわゆるバブル崩壊に伴う企業業績の悪化といった情勢のなかで、あらためて日本企業のあり方が問われている。日本企業をとり巻くこれらの環境変動は、日本企業が今後どのような方向へ進んでいくのかという「将来予測」を難しくしている。この変化の激しい時代に必要なことは、現実には生起している事実を可能な限り把握し、そのなかで次なる時代の方向を自分なりに見定めることである。この講義の目的は、日本企業の現実には焦点を合わせ、これから到来するであろう社会がいかなる様相をもつことになるかを考えるための情報を提供することにある。

〈講義内容〉

企業は、一般にヒト・モノ・カネ・さらに情報といったさまざまな経営資源を調達・購入し、その効果的な組み合わせによって目的とするものを実現していく。日本企業が国際的に強い競争力を発揮しえたのは、これら諸資源のうちヒト資源つまり人的資源の活用の卓越性によるといわれている。企業活動のうちで人事・労務管理といわれてきたものが専らこのヒト資源の有効利用に関係している。

ところが現在、日本企業がつくりあげてきた強い競争力そのものが問われはじめている。このことは、競争力の源であった日本企業での人的資源管理つまり人事・労務管理そのものがその妥当性を問われているということにほかならない。この講義では、日本企業が直面している企業環境の変化のなかで、どのような人的資源管理が展開されようとしているかを極力最新の情報によりつつ明らかにし、新しい制度・方式の展開の先にどのような日本企業の将来が浮上してくるかを考える。

前期は、人的資源管理に関わるもののうち、一般に「雇用管理」といわれている領域の問題を扱う。雇用管理とは、企業が必要とする量と質の人的資源を調達・育成する一連の計画的・組織的活動である。この雇用管理を貫いていた原理・原則は、周知の終身雇用慣行であり、年功制度であった。しかし、今日は、日本企業を取りまく環境変動は、従来の雇用管理の原理・原則をゆり動かし、解体の様相さえみせはじめている。この講義では、その変動に関する事実情報を可能な限り把握し伝えようというわけである。講義は、以下の順序で進めていく。

序 章

労務管理ないし人的資源管理とは

第1章

日本企業が直面している諸問題

第1節 企業環境の変化と日本企業の戦略転換

第2節 事例研究

第2章

雇用管理の内容と新しい動き

第1節 募集・選考

第2節 教育訓練・配置

第3節 昇進・昇格

第4節 給料・報酬

第5節 労働時間

第6節 定年退職

第3章

人事制度の新しい展開

第1節 変化を促進した要因

第2節 具体的制度とその有する意味

〈授業方式〉

授業は、講義方式、板書。出欠にはこだわらない。但し前期・後期それぞれに試験を行う。

〈成績評価〉

前期（50点）、後期（50点）を総合して判定する。試験内容の評価は、答案の論理性と説得性にもとづく。勿論、講義内容をふまえていることを条件とする。優・良・可・不可の配分は行わない。全員の答案がすぐれていれば全員が優と判定されることもありうる。また、その逆も極端な場合には生じうる。

〔教科書・参考書〕

テキストは使用しない。しかし、以下の文献は必読。講義時間にプリント配布。

- ①日本経済新聞社編『ゼミナール現代企業入門』（日本経済新聞社）¥2,800
- ②日本経済新聞社編『会社解体新書』（日本経済新聞社）¥1,300
- ③日本経済新聞社編『テラスで読む当世労働事情』（日本経済新聞社）¥1,300
- ④佐野陽子『企業内労働市場』（有斐閣）¥1,700

経営管理論

ひゃく た よし はる
百 田 義 治

〈講義の要旨〉

企業とは何か。それはどのような目的・理念のもとに経営されているのか。また、そこで人々はどのように働き、生活しているのか。一年間の講義を通して、こうした問題をさまざまな視角から取り上げて検討します。

今日、日本企業の経営システムには、「トヨタイズム」という言葉に象徴されるように国際的に大きな関心が寄せられています。その関心には、労働生産性の高さという「効率性」に注目した「肯定的」な評価もあれば、「過労死」や「長時間労働」という「非人間性」に注目した「否定的」な評価もあります。日本企

業の活動のグローバリゼーションが進展する中で、また外国企業が日本の経営システムを導入する（ジャパナイゼーション化）中で、日本の経営システムの「普遍性」・「特殊性」をトータルに把握し、国際化時代と共生する日本企業の今後を考えることが私達に今日ほど求められている時期はありません。

しかし同時に、現代社会における私達の生活そのものが、企業の活動を媒介して実現されています。私達は、労働者としてだけでなく、消費者としても、地域社会（コミュニティ）で生活する市民としても、企業の活動と無関係に生活することができない存在です。私達は、物質的にも精神的にも豊かな生活を実現し、働きがいのある労働生活と生きがいのある家庭生活を「回復」するためにも、現代企業の経営管理に関心ではいられないのです。

このような現代企業の経営管理活動を研究の対象とする経営管理論は、20世紀の初頭に経営管理活動を近代化・合理化する技法・制度・理念の提供を課題として誕生したものです。現代においても、その基本的性格が企業経営のための実践的な指針・政策の提供すること（実践性）にあることは否定できません。すなわち、現代の経営管理論も、FAやOAなどめざましい技術革新の進展や著しい国際化の展開、あるいは急速に進行する高齢化社会の到来や地球規模で深刻化する環境問題、さらには自覚し多様な価値観を持った消費者の行動など、企業を取り巻く諸条件の変化に起因する問題に対応するための指針・政策の提供というプラグマティックな方策論的な性格を一面において持っています。フィランソフィー、経営（企業）倫理、コーポレート・ガバナンスといった最近の議論もその例外ではありません。

講義では、このような方策論的経営管理論が提起するさまざまな経営管理の技法・制度・組織あるいは経営理念・経営思想の歴史的展開と現状を事実にもとじて具体的に検討します。しかし、経営管理の諸問題は批判的に検討することも必要です。すなわち、経営管理の諸問題は、経営学や社会科学の対象として位置づけられて考察することも必要です。

その理由として、二つのことが考えられます。一つには、現代企業の諸活動は、方策論的経営管理論が実践的な指針・政策の提供の対象とする経営者や管理者だけではなく、圧倒的多数を占める一般の労働者をも含めた、あらゆる人々の「総労働」として実現されているからです。そのような総体としての企業構成員すべての労働と生活の豊かな未来を展望した問題の検討が経営管理論の課題でもあります。二つには、圧倒的多数の現代の企業は私企業ですが、その社会的影響力という点から見れば、市民社会あるいは国際社会と共生すべき「社会的存在」であり、「社会的公器」であるとも言えます。その意味では、国民全体の豊かな未来、国際社会との共生という立場から、現代企業の経営管理問題の多様な諸相を歴史的、客観的、科学的に認識し、その問題点を解明し、現代的諸問題へのアプローチの方途を検討することが経営管理論の重要な課

題であると言えます。

現代企業の諸活動は企業構成員全体の労働に支えられたものであり、またその諸活動は一般の大衆株主や消費者あるいは取引業者や地域住民などとの、さらにはグローバリゼーションの現状を考えれば進出国との関係をも含めて、数多くの利害関係者との多面的で密接なネットワークの中で展開されています。したがって、現代企業の経営管理の諸問題は、一般従業員、下請け・関連企業、市民・地域住民、消費者、大衆株主などとの関係、さらには国際関係をも視野に入れて検討されなければなりません。授業では、このような視点から経営管理の諸問題にアプローチすることになります。

〈授業の方法〉

- (1) 前期：テキスト（教科書、参考書）を利用して、経営管理の技法・制度や理論・思想の歴史的な展開を学びます。しかし、随時、新聞記事や雑誌論文などを使用して、経営管理の現代的諸問題との関連をできるかぎり重視し、歴史的な展開を学ぶことの意義を考えて行きます。
- (2) 後期：日本の経営システム、グローバリゼーション、技術革新と経営管理の変化、などに関する授業では、可能なかぎりビデオも利用し、できるかぎり具体的に現代の経営管理問題を把握できるようにします。

〈授業スケジュール〉

【前期】

- ① 4月：(1) 現代の企業と経営管理の基本的性格について
- (2) 現代経営管理の諸領域について
- ② 5月：(1) 経営管理の生成について：
体系的な管理と科学的な管理
- (2) 経営管理の展開について：
人間関係管理と人的資源管理
- ③ 6月：(1) 経営管理の理論について：
管理過程論と管理組織論
- (2) 経営管理の理論について：
企業環境と経営戦略論
- ④ 7月：(1) 経営管理の理論について：
経営倫理と企業の社会的責任論
- (2) 前期試験（前期最終講義）

【後期】

- ① 9月：(1) 技術革新と経営管理：
FA・OA化と管理問題
- ② 10月：(1) 日本の経営について：
日本の労使関係の特質
- (2) 日本の経営について：
日本の生産システム
- (3) 日本の経営について：
企業集団と経営管理
- ③ 11月：(1) 日本企業の経営比較：
経営組織構造、経営理念、労働観
- (2) 国際化と経営管理：
日米企業の国際化の現状と課題

④ 12月：(1) 現代経営管理の課題と労働の未来

⑤ 1月：(1) 後期・学年末試験

（以上のスケジュールは、授業の進め方の基本的な方向です。若干変更せざるをえない場合があります）

〈成績評価〉

前期試験および後期試験に、数回のレポートと出席状況を加えて総合的に評価します。

〔教科書〕 笹川・稲村・井上編著『現代経営の基本問題』（税務経理協会）1994年

〔参考書〕 新書・文庫などを中心に随時紹介します。

行政法Ⅱ

さいとう ひさし
斉藤 寿

行政法の各論として、各種の行政法領域ごとに、関係法令を類型化し、解釈学的にとらえるとともに、判例や事例研究を通して、行政法令の現実的機能にふれつつ、興味深い講義を続け、楽しく研究します。

主な内容としては、(1)行政組織法、(2)公務員法、(3)公物法・営造物法、(4)警察法、(5)統制法、(6)公企業法、(7)公用負担法、(8)財政法、などについて学んでいきます。

そして、時間的に可能であれば、生活空間（環境）形成行政法などにも、およぶ予定です。これらの講義は、一年間・全体を通じて、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕『現代行政法論』（勁草書房）、

『行政法Ⅰ・Ⅱ』（評論社）など、拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

民法Ⅳ（1）

かのう かず お
叶 和 夫

婚姻制度等に関する民法改正要綱試案の中の重要な問題点や内縁、養子制度等のほか、高齢者の扶養や財産管理をめぐる成年後見制度等を文明諸国家の法制度を視野に置いた上、現代の視点に立って論説する。判例及び実務の経験をおりまぜて、面白く楽しい講義にしたい。

〔教科書〕 遠藤 浩他 5名編集『民法(8)親族 第3版増訂版』（有斐閣双書）

〔参考書〕 島津一郎編『基本法コンメンタール第3版親族』別冊法学セミナー（日本評論社）

民法Ⅳ（2）

かのう かず お
叶 和 夫

相続制度全般にわたって講義するが、遺言及び遺産

分割を詳説したい。判例及び実務の経験をおりまぜて面白く楽しい講義にしたい。

〔教科書〕遠藤 浩他 5名編集『民法(9)相続 第3版』
(有斐閣双書)

〔参考書〕島津一郎編『基本法コンメンタール相続』
別冊法学セミナー(日本評論社)

比較憲法

たけ はな みつ のり
竹 花 光 範

本年度も、昨年度と同様、次の順序で講義を行う予定である。

1. 比較憲法学とは
2. 憲法概念と分類
3. 国体と元首(共和制と君主制, 元首, 国のシンボル等)
4. 統治の原理と構造(民主政治の基本原則, 議院内閣制と大統領制, 一院制と二院制, 社会主義国における議会制度等)

〔教科書・参考書〕講義の中で述べる。

経済法

かわ い よし かつ
川 井 克 俊

経済法—独占禁止法を中心として—

- 第1部 経済法概説。経済法とは何か。経済法と競争政策。経済法における独占禁止法の位置づけ。
- 第2部 独占禁止法。独占禁止法の目的。その他私的独占, カルテル, 企業結合, 独占的状态, 不公正な取引方法等について, なるべく条文に即して講義する。

このほか、最近でいえば経済の国際化を迎えて、国の内外で競争政策に対する関心が高まっている。日米構造問題協議しかり、臨行審の公的規制の見直ししかりである。このようなアップデートの問題に対して講義し、学生の社会的問題に対する学問的素養を高める。

〔教科書〕川井克俊『競争政策法概説』(高文堂)
¥3,600

〔参考書〕講義の中で紹介する。

川井克俊著『カルテルと課徴金』
(日本経済新聞社)

川井克俊著『いやでもわかる公取委』
(日本経済新聞社)

地方自治法

うめ き かつし
梅 木 崇

行政法の原理・原則の応用としての地方自治法を考えてみたい。必要に応じて、行政法総論における基本概念を説明するつもりである。

〔教科書〕開講にあたって指示する。

国際関係論

しゅ とう ほと こ
首 藤 素 子

冷戦後の国際関係の特徴と問題について考える。講義を構成するテーマは次の3つに大別できる。第1に、欧州地域の安全保障協力や政治、経済協力の進展と制度化について、第2に、アジア太平洋地域の経済的相互依存の深化や安全保障協議を目的とするフォーラムの形成と問題について、第3に、冷戦後の国際組織の役割の拡充とその機能の実態について。なお、第2のテーマでは戦後の日本の外交政策や日米関係の推移等も講義でとりあげる。また第3のテーマでは、国際機関による開発援助や融資の問題、貧困と開発と人権の問題、現代文明とグローバルな環境問題の関連等を講義でとりあげたいと思っている。

〔教科書〕細谷千博・臼井久和編『新版 国際政治の世界』(有信堂高文社)1993年

〔参考書〕講義で指示する。

西洋政治史

うら た き なえ
浦 田 早 苗

現代西ヨーロッパの政治は、そこから多くのことを学んできた我々の先達が描いたほど理想的な状態で機能しているわけではなく、数々の矛盾にみちている。自由、平等の精神なり、『華やかかなりし議会政治』の概念は、激動の現代政治のなかには時として空虚な響きを投げかけてくることは否定できない。しかし、国家や政党、国民や民族といった西洋で生まれた近代政治の概念に再検討が迫られている今ほど、そうした概念の本質を成立した歴史過程のなかで考察することの重要性が問われたときはなかった。今年度はフランス革命以降の18、19世紀のフランス政治史を通じ、『近代』の意味するところを考えてみたい。

宣伝広告論

かみ じょう すえ お
上 條 末 夫

政治宣伝と政治的コミュニケーションの問題を主として取り上げる。政治宣伝の理論、歴史、そして実際について、具体例によって説明する。現代は宣伝の時代ともいわれ、政治も宣伝やコミュニケーションがきわめて重要な役割をもっている。主権者としての国民は、これにどう対応していくべきか、あるいは社会人として、社会および個人の間をどう調整していくべきか、という問題を解明していきたい。

〔参考書〕その都度指示する。

政党論

はや かわ よし き
早 川 純 貴

本年度の「政党論」のテーマは政党の包括化過程である。一つの政党が包括政党（キャッチ・オール）化していく過程をいくつかの側面から論じていく。すなわち 1) 支持層拡大戦略（新しい政策と固有の政策・イデオロギーとの葛藤） 2) 組織拡大に伴う諸問題 3) 歴史的背景・政治文化との関係 4) 福祉国家形成との相互作用 5) 政党システム（一党優位制・二大政党制・多党制）との関連 6) 包括政党の限界、などである。そして最後に、日本における包括政党の可能性について言及したい。なお本講義は他学科にも開講するが、最低限、一般教養の「政治学」を履修、ないしそれと同程度の政治学の知識を有する学生でなければ内容の理解は困難である。

〔教科書〕使用せず

〔参考書〕随時紹介

保険経営論

いし な ざか くに あき
石名坂 邦 昭

〈講義のねらい〉

本講義においては、保険学のアプローチとして近年一般化しつつあるリスク・マネジメントの基本的事柄につき理解した後に、保険理論の基本的知識を正確にし、わが国の保険事業並びに一般企業がかかっているリスクに関する諸問題にどのように対処したらよいかの応用能力が持てるようになることを目標とする。

〈講義の内容と授業スケジュール〉

保険学の研究は、保険法学的アプローチ、保険経済学のアプローチ、保険経営学のアプローチとそれぞれの時代を背景に論じられてきた。今日、保険学研究については保険経営学的研究をより発展させた「危険管理論」（リスク・マネジメント）研究が主流となって

いる。本講義においては、最初にリスク・マネジメントの基本的体系について論じ、リスク・マネジメントの理論、歴史的発展について見た後に、リスク・マネジメントの中心となる保険の機能、保険本質、保険技術について詳しく見ていきたい。

前期はリスク・マネジメントを中心とした講義を行い、後期は保険論を中心とした講義を行う。講義はOHP等を使用し、理解しやすいように工夫をこらしていく。教科書は使用するが、それは本講義を理解するための基本的共通知識として使用し、講義は教科書に書かれている事柄が理解されていることを前提として進めていく。

〈履修上の留意点〉

保険およびリスク・マネジメントを理解するためには使用される専門用語を理解されていなければならず、学ぶことも広範囲にわたるため、講義を受ける前に必ず教科書を読み講義後の復習も忘れないようにしてほしい。学生諸君の積極的な授業への参加を望む。

〈成績評価の方法〉

講義への出席状況及び授業時の質疑応答と定期試験の結果を総合して成績評価を行う。

〔教科書〕石名坂著『リスク・マネジメントの理論』

（白桃書房）¥3,500

財務会計論

わた なべ えいちろう
渡 邊 恵一郎

1. 講義のねらい

財務会計論は会計学の一分野である。この講義では、財務会計の基本的問題を多角的に考察したうえで、会計処理と表示方法及び財務開示制度について、理論と実務の両面から講述する。

財務会計は、企業経営者が企業外部の利害関係者達（投資者、債権者など）に対して、企業の経済事象を貨幣的に表現して伝達することであり、このため受講生達は財務会計の基準・法規などの知識と簿記とを習得する必要がある。しかし、私はさらに一歩進め、受講生達が、財務諸表やその基礎資料を見たら、「なぜこの数値（金額）になるのか」、「この数値は正しいか」、「今後、企業はどう展開していくか」などと追求し、数値の背後に存在する生々しい人間ドラマを想像できるようにしてもらいたいので、会計のものの見方にも触れる予定である。

2. 講義の内容と授業スケジュール

講義の内容は、教科書の記載順序により、また大略、次のスケジュールである。

- 4月～5月 基本的問題：財務会計に関する職能論・公準論・計算構造論、報告論・社会制度論など
- 6月～7月 会計処理と表示方法(1)：収益・費用
- 9月～10月 会計処理と表示方法(2)：資産・負債・資本

11月～翌年1月 財務開示制度：財務諸表（個別、中間、連結）の作成と国際比較、その他（外貨換算、財務分析、金融商品、会計方針の変更、粉飾決算、不正・使途秘匿金など）

3. 履修上の留意点と成績評価の方法

- (1) 出席率を重視する。
- (2) 年2回レポートを提出させる。
- (3) 成績評価は、定期試験（筆記）の結果と出席率とを総合して決める。

なお、上記(2)のレポートを提出していない者は、定期試験の結果が良好でも単位を取得できない。

〔教科書〕 染谷恭次郎著『現在財務会計』

（中央経済社）

〔参考書〕 授業時間において、随時指示する。

10. 圧縮記帳

11. 引当金と準備金

12. 企業を巡る国際課税の問題

- (1) 移転価格税制
- (2) タックス・ヘイブン対策税制
- (3) 外国税額控除制度

13. 法人税額の計算

<評価方法>

原則として学年末の試験によって評価する。レポートは年1回程度、提出を求める。また、毎回出欠をとるかどうかは、初回の講義の中で受講生諸君と相談して決めたい。

〔教科書〕

富岡幸雄著『税務会計論講義』

（中央経済社）¥2,900

参考書等は、講義の中で適宜紹介する。

税務会計論

か き かつ み
高 木 克 己

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。消費税についても何かと話題にのぼっている。本講義では、普通法人（株式会社等）を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、商法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。そこでは、法人税法固有の規定（いわゆる別段の定め）が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

講義内容の概要は次のとおりである。

1. 法人の種類及び課税所得の範囲等
2. 同族会社と青色申告
3. 課税所得の計算構造
 - (1) 企業利益と課税所得の関係
 - (2) 益金の額及び損金の額
 - (3) 公正処理基準及び資本等取引
4. 収益の計上基準についての原則的な考え方
 - (1) 引渡基準
 - (2) 特殊販売収益の計上基準
 - (3) 役務、請負、譲渡収益等の計上基準
5. 受取配当金益金不算入
6. リース取引
7. 給与（報酬、給料、賞与）の税務処理基準
8. 交際費及び寄付金
9. 有価証券、棚卸資産、固定資産、繰延資産等の税務処理

商業史

やま だ まさる
山 田 勝

商業と商業経営の歴史的発展の過程を、文化との関係に留意しながら講義する。その際、対象とする時代の人々の生活や考え方、現代とのかかわり、といった諸点も検討していきたい。

主に対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕 開講時に指示する。

経営情報論

たか い てつ お
高 井 徹 雄

経営スタッフの役割は、ひとこと而言うと、「意思決定の支援」である。すなわち、意思決定の問題に関するデータを収集し、決定の指針となる情報へとまとめあげ、それをタイミングよく意思決定者に提供するのが、経営スタッフの仕事である。

本講義では、将来、企業や官庁などで、経営スタッフとして活躍されるであろう皆さんのために、経営情報に関する体系的な観点と、情報処理技術の基礎について解説する。

I. 総論：経営情報のシステムの観点

- (1) 科学とシステムの理論
- (2) 経営情報と意思決定
- (3) コンピュータと情報環境の発展
- (4) データベースとネットワーク

II. 各論：経営情報の処理技術

- (1) 統計処理とデータ解析
- (2) シミュレーション技法
- (3) 意思決定を支援する人工知能システム

〔教科書〕高原康彦・高津信三編，高井徹雄他著
「経営情報システム」（日刊工業新聞社）
¥3,200

〔注〕先にプログラミング論を履修しておくことが望ましい。

〔関連科目〕経営科学，情報理論

情報理論

にし むら かず お
西 村 和 夫

(1) 講義のねらい

近年では日常的に使われる言葉となっている“情報”の本質を探ります。具体的にいうと，情報の量（情報量）を定義したシャノン（C. E. Shannon）流の情報理論について講義します。

この授業を受講すれば，ある通報や記号のもっている情報量を，具体的な数値として（ビットという単位で）計算できるようになります。これによって，たとえばDNAの情報をフロッピーディスクに記録するために十分な枚数が，たちどころに計算できるようになります。

また，情報量の期待値（平均値）であるエントロピーという概念も理解でき，計算できるようになります。これは，経営情報論，符号理論，通信理論，暗号理論などで利用される重要な概念です。

(2) 講義の内容と授業スケジュール

月	回数	内 容
4	3	授業内容概説，情報とは，情報量への要求
5	3	対数の原理と性質，計算練習
6	4	情報量の定義，練習，試験，情報量の利用
7	3	暗号系と用語，古典的な暗号
9	2	現代的な暗号，暗号技術を使ってできること
10	2	符号化（JISコード，万国共通文字符号）
10	2	確率過程およびマルコフ過程
11	2	遷移確率と同時確率
11	1	エントロピーの定義
12	2	冗長度，言語のエントロピー
12	1	価格以外の情報がない場合の市場占有率予測
1	1	チェック桁，情報の圧縮と乱数，デジタル

(3) 履修上の留意点

内容の性質上，確率と対数に関する多少の数学的知識が必要になりますが，これらについて全く知らなくても理解できるように配慮しています（上表5

月参照）。

出席はとりませんが，出席して計算練習に参加していないと試験問題を解くことは無理でしょう。

(4) 成績評価の方法

中間試験（6月）と定期試験との合計点によります。

(5) 授業の形式など

クイズと計算練習を適宜とりいれます。また，OHPとプリントを使います。適当な教科書はありません。各種の参考書をそのつど紹介します。

〔関連科目〕→経営情報論

国文講読Ⅰ（上代）

さ はら さく み
佐 原 作 美

『万葉集』の中から各期を代表する歌人の特色ある歌を選んで講読していきたい。

〔教科書〕土橋 寛編『作者別 万葉集』

（桜楓社）¥1,800

国文講読Ⅱ（中古）

すず き ひろ こ
鈴 木 裕 子

今年度は，『源氏物語』を，賢木巻から読む。本文を正確に読みながら光源氏の青春期の喜びや苦悩というものについて考えてみよう。

〔教科書〕新潮日本古典集成『源氏物語』二

（新潮社）

国文講読Ⅲ（中世）

その べ みき お
蘭 部 幹 生

中世は説話の時代とも言われるが，そのなかでも説話文学の代表作品である『宇治拾遺物語』を読む。一つ一つの説話が担っている歴史的背景や意味，及び他作品との関連について考えてみたい。

〔教科書〕中島悦次校註 角川日本古典文庫

『宇治拾遺物語』（角川書店）¥720

〔参考書〕その都度指示する。

国文講読Ⅳ（近世）

せい だ けい こ
清 田 啓 子

近世小説の白眉とされる『雨月物語』をとりあげる。古典と中国文学との撰取による独自の世界を充分味わってみたい。また，読本の発生以来，後期読本への流

れも見、できれば「春雨物語」も読んで「雨月」の位置も確かめたい。

〔教科書〕水野 稔校注『雨月物語』（明治書院）

国文講読Ⅴ（近・現代）

おおむろ えいじ
大 室 英 爾

近代詩を読む。『於母影』の訳詩などからはじめて大正期の朔太郎・犀星・春夫あたりまでの主たる作品を順次読み、考え、鑑賞する。併せて近代詩の流れにも検討を加える。

〔教科書〕萬田・吉田編著

『展望 近代詩—その歴史と作品—』

（双文社出版）¥1,236

国文講読Ⅴ（近・現代）

ささき せ おう じ
笹 瀬 王 子

本年度は、尾崎紅葉、幸田露伴、泉鏡花の作品を扱う。明治期を代表する三文豪の作品の読みを通して、普段あまり接することのない明治文学の特質とその魅力に迫りたい。

〔教科書〕木村有美子・山根賢吉編『紅葉・露伴文学選』（和泉書院）¥1,236

泉 鏡花著『歌行燈』（岩波文庫）¥260

国文特講Ⅴ（近・現代）

ささき せ おう じ
笹 瀬 王 子

昨年度に引き続き、田山花袋の回顧録『東京の三十年』を読む。本書に描かれた文壇や社会の動きに留意しつつ、多角的に明治の文学を考えてみたいと思う。

〔教科書〕田山花袋『東京の三十年』

（岩波文庫）¥570 ほか

〔参考書〕授業中、適宜指示する。

英文タイプライティングⅡ

ゆ あさ よう こ
湯 浅 陽 子

ブラインド・タッチを完全に習得した者のみを対象に、英文ワープロソフトWORDSTAR、日本語ワープロソフト—太郎、表計算ソフトLotus1-2-3等を使って様々な文書を作成します。

コンピュータ使用の為定員を32名とします。第一回目の授業の時にキーボード操作テストを行い、合格者及び人数制限の抽選に残った者を履習登録可能としま

す。

尚この授業は昨年度の「情報処理入門」と授業内容が重複するところが多い為、その受講者は対象外としておきます。

〔教科書〕第一回目の授業時に指示します。

時事英語

おかもと まこと
岡 本 誠

その日の朝の英語ニュースを聞く。受講者はこれを機会に世の中の政治経済の動きにも関心をもつことが肝要。また当日は耳をよく掃除してこること。

〔教科書〕テープ使用。

英語演習Ⅰ（ディクテーション）

おかもと まこと
岡 本 誠

慣用語の成立背景を歴史的にみていく。例えば、OKという言い方はどのようないきさつで成立したのか。あるいはmaverickとはどうして「一匹狼」の意味になったのか。これを全講義ディクテーションで行なう。紙と鉛筆それに辞書を持ってこること。各自TOEFL500点をめざしてほしい。

〔教科書〕テープ使用。

計算機言語概論

すぎ た とおる
杉 田 徹

高度情報化社会と呼ばれる二十一世紀の基盤技術のひとつにコンピュータが上げられる。その利用はあらゆる分野で急速に進められている。特に通信分野、医療関係の検査診断機器には、顕著なものがある。将来、診療放射線技師を目指す諸君にとって、コンピュータの基本知識は必要不可欠なものである。この講義ではパーソナルコンピュータの高級言語である BASICを中心に、アルゴリズム的発想の習得とその活用を目標に授業を進める。講義は次のテーマで行う。

1. コンピュータ言語の基本理論
2. BASIC言語
3. パーソナルコンピュータ (PC-9801)による実習

〔教科書〕コンピュータ教育工学研究所編

ガイドブック『BASIC』

（サイエンス社）¥1,854

臨床放射線特論 I

ほん ま じょう
本 間 襄

医療の中で、診療録・依頼箋の内容を理解し、相互のコミュニケーションに欠かせない外来医学用語の初歩的知識の修得を目的とする。

他学部履修では、将来病院や医学関係に従事する人に必要な知識である。

〔教科書〕 定めず

応用計測学

かし お えい じ
櫃 尾 英 次

医用画像診断装置は、コンピュータ技術の進歩と共に診断には不可欠なものとなってきた。この講義では、核医学機器（ガンマカメラ、シングルホトンECT、ポジトロンCT）、X線CT装置、MRI装置のハードウェアとソフトウェアについて概説する。また超音波診断装置、DSA、CRならびにPACSについても、その概要を講述する。

〔参考書〕 岩井喜典他 編著『医用画像診断装置』

（コロナ社）

教 職 及 び 資 格 講 座

教 職 課 程
 学 校 図 書 館 司 書 教 諭 講 座
 社 会 教 育 主 事 講 座
 博 物 館 学 講 座
 社 会 福 祉 主 事 講 座
 社 会 福 祉 士 基 礎

※上記の教職及び資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講できる課程及び講座は以下のとおりである。
 (履修についての詳細は、「教職課程・資格講座の履修要項」を参照すること。)

課 程 ・ 講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全 学 部
学 校 図 書 館 司 書 教 諭 講 座	全 学 部
社 会 教 育 主 事 講 座	全 学 部
博 物 館 学 講 座	仏教学部・文学部
社 会 福 祉 主 事 講 座 社 会 福 祉 士 基 礎	全 学 部

講義内容目次

I 教職課程

(1) 教職に関する専門科目 (必修)

教育原理 (上岡 安彦)	1
教育原理 (北村 三子)	1
教育原理 (坂本 信昭)	1
教育原理 (田中 智志)	1
教育原理 (村山 輝吉)	1
教育心理学 (教育方法論を含む) (遠藤 司)	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (大浜 幾久子)	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (北島 歩美)	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (国眼 眞理子)	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (中村 均)	2
青年心理学 (教育方法論を含む) (大浜 幾久子)	2
青年心理学 (教育方法論を含む) (川田 三夫)	2
青年心理学 (教育方法論を含む) (小宮山 要)	3
青年心理学 (教育方法論を含む) (常田 秀子)	3
特別活動 (中野目 直明)	3
生活指導 (遠藤 司)	3
生活指導 (佐藤 尚人)	3
宗教科教育法 (小山 一乗)	3
国語科教育法 (神谷 道倫)	4
書道科教育法 (那須 隆吉)	4
英語科教育法 (荒井 良雄)	4
社会科・地理歴史科教育法 (長野 覺)	4
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・地理歴史科教育法 (中島 義一)	4
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・地理歴史科教育法 (野呂 肖生)	4
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (長谷部 八朗)	5
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (谷敷 正光)	5
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (小山 一乗)	5
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (橋爪 敏)	6
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
職業科教育法 (前田 幸一)	6
商業科教育法 (谷敷 正光)	6
道德教育の研究 (上岡 安彦)	7

教育実習 (上岡 安彦)	7
教育実習 (坂本 信昭)	7
教育実習 (田中 智志)	7
教育実習 (村山 輝吉)	7
教育実習 (北村 三子)	8

(2) 教職に関する専門科目 (選択)

青少年問題研究 (皆川 広義)	8
教育哲学 (汐見 稔幸)	8
教育社会学 (高島 秀樹)	8
現代社会の諸問題と教育 (高島 秀樹)	8
教育評価 (大浜 幾久子)	8
教育情報学 (小倉 康仁)	8
教育調査 (鈴木 規夫)	9
教育史 (北村 三子)	9
教育関係法規 (広沢 明)	9
社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉)	(9)
社会教育施設 (村山 輝吉)	(9)
図書館学 I (山崎 慶子)	(9)
図書館学 II (源 昌久)	(9)
視聴覚教育 (飯森 彬彦)	(9)
教育臨床心理学 (牟田 隆郎)	9
教育法規研究 (神田 修)	9
児童文化 (香川 良成)	10
宗教教育 (小山 一乗)	10

(3) 教科に関する専門科目

【社会 地理 歴史 公民】	
日本史概説 (遠藤 廣昭)	10
日本史概説 (小松 寿治)	10
世界史概説 (井村 行子)	10
世界史概説 (渡辺 惇)	11
地誌学概説 (小田 匡保)	11
地誌学概説 (川元 豊和)	11
地誌学概説 (橋詰 直道)	11
人文地理学概説 (小林 高壽)	11
自然地理学概説 (高木 正博)	11
自然地理学概説 (早船 元峰)	11
民法 I (青野 博之)	11
民法 I (前期: 鶴井 俊吉)	12
(後期: 林 幸司)	
政治学原論 (大塚 桂)	12
社会学原論 (渡辺 源樹)	13
経済原論 (荒木 勝啓)	13
経済原論 (大石 雄爾)	14
経済原論 (小野 俊夫)	14
哲学概説 (国嶋 一則)	14
哲学概説 (中村 璋八)	15

倫理学概説 (久保 陽一)	15
宗教学概説 (洗 建)	15
宗教学概説 (松田 文雄)	15
宗教人類学 (佐藤 憲昭)	(15)
民間信仰論 (谷口 貢)	15
東洋思想研究 (館野 正美)	15
民衆宗教成立史 (洗 建)	16
歴史哲学 (麻生 建)	16
日本仏教史 (廣瀬 良弘)	16
日本文化史 I (廣瀬 良弘)	(16)
美術史概説 (中島 亮一)	(16)
日本宗教文化史 (松田 文雄)	16
【職業】	
産業概説 (前田 幸一)	16
職業指導 (山田 勇治)	16
商業実習 (前田 幸一)	17
【商業】	
職業指導 (山田 勇治)	(17)

II 学校図書館司書教諭講座

図書館学 I (山崎 慶子)	18
図書館学 II (源 昌久)	18

III 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉)	19
社会教育計画 (村山 輝吉)	19
社会教育実習 (上岡 安彦)	19
社会教育実習 (村山 輝吉)	19

(2) 選択必修科目

現代社会の諸問題と教育 (高島 秀樹)	(19)
婦人問題と社会教育 (矢口 悦子)	19
青少年問題研究 (皆川 広義)	(20)
青少年指導演習 (平野 学)	20
社会教育施設 (村山 輝吉)	20
図書館学 I (山崎 慶子)	(20)
博物館学 I (倉田 芳郎)	(20)
博物館学 II (竹内 順一)	(20)
企業内教育・職業訓練 (塩川 正人)	20
社会体育 I (古田 潤子)	20
社会体育 II (古田 潤子)	21
視聴覚教育 (飯森 彬彦)	(21)
教育原理	(21)
教育心理学 (教育方法論を含む)	(21)
青年心理学 (教育方法論を含む)	(21)
社会心理学 (前期:坪井 健)	21
(後期:穴田 義孝)	
教育社会学 (高島 秀樹)	(21)
教育調査 (鈴木 規夫)	(21)
教育史 (北村 三子)	(21)

児童文化 (香川 良成)	(21)
社会教育行政 (東 寿隆)	22
成人学習論 (東 寿隆)	22

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学 I (倉田 芳郎)	23
博物館学 II (竹内 順一)	23
教育原理	(23)
社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉)	(23)
視聴覚教育 (飯森 彬彦)	23
博物館実習 I (館務) (倉田 芳郎・太田 喜美子)	23
博物館実習 II (収集) (倉田 芳郎・所 理喜夫・ 葉貫 磨哉・恵津森 智行・ 太田 喜美子)	24
考古発掘実習 (千葉 基次)	24
博物館実習 III (見学) (倉田 芳郎・松本 信道 太田 喜美子)	24

(2) 選択必修科目

日本文化史 I (廣瀬 良弘)	24
西洋文化史 I (佐々木 真)	24
西洋文化史 III (三小田 敏雄)	24
仏教民俗学 (谷口 貢)	24
仏教美術 (中島 亮一)	25
現代美術 (矢野 陽子)	25
禅 美術 (海老根 聰郎)	25
美術史概説 (中島 亮一)	25
西域美術史 (松平 美和子)	25
考古学概説 I (日本) (倉田 芳郎)	25
考古学概説 II (外国) (飯島 武次)	25
考古学特講 II (高浜 秀)	25
考古学特講 IV (飯島 武次)	26
日本民俗学 (谷口 貢)	26
宗教人類学 (佐藤 憲昭)	26
地形学 I (小池 一之)	26
地質学 (貝塚 爽平)	26

V 社会福祉主事 講座 社会福祉士基礎

※社会福祉原論 (伊藤 秀一)	27
※社会福祉原論 (原田 信一)	27
※老人福祉論 (東條 光雅)	27
※障害者福祉論 (原田 信一)	27
児童福祉論 (柏女 靈峰)	27

※社会保障論（坂田 周一）	28
※公的扶助論（伊藤 秀一）	28
※地域福祉論（和田 敏明）	28
※心理学（福祉）（井上 孝代）	28
※社会学（福祉）（橋爪 敏）	28
※法 学（福祉）（鷄徳 啓登）	28
リハビリテーション論（原田 信一）	28
社会福祉計画論（川延 宗之）	29
家 族 福 祉 論（高橋 重宏）	29
医 療 福 祉 論（春見 静子）	29
婦 人 福 祉 論（林 千代）	29
保 健 福 祉 論（安梅 勅江）	29
社会福祉発達史（林 千代）	30
海外社会福祉論（中野 いく子）	30

上記科目のうち

※印は、社会福祉主事、社会福祉士基礎に兼用する科目、それ以外は社会福祉主事のみ対象とする科目

注（ ）頁は他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示している。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する専門科目（必修）

教育原理

かみ かつ やす ひこ
上 岡 安 彦

『エミール』（上・中・下）を年間を通して読みます。次に、出てくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原本に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。

〔教科書〕『エミール』（上・中・下）
（岩波文庫）

上 ¥570，中 ¥520，下 ¥520

教育原理

きた むら かつ こ
北 村 三 子

登校拒否・不登校の広がり象徴するように、今日の社会では、それまで自明だとされていた学校や教育の価値が揺ぎ始めている。このような時期にあって、私たちはどのような方向で教育について考えてゆけばよいのだろうか。本講義では、その手掛りを、J. クリシュナムーティの教育思想の中に探してみたい。

〔教科書〕クリシュナムーティ著『道德教育を超えて — 教育と人生の意味 — 』
（霞ヶ関書房）¥1,648

教育原理

さか もと のぶ あき
坂 本 信 昭

下記のテーマを「問題」としてとりあげ、ともに考えていきます。

1. いま教育のめざすもの
2. ひとの適応・成長・発達
3. 家庭の役割・地域の働き
4. 人格をはぐくむ
5. 学校への期待
6. よりよい授業に向けて
7. 学習をふかめる
8. 教師を育てる
9. 教育制度をみなおす

10. 障害児とともに

11. 内なる差別を考える

12. 学びへの出発

さらに、教育問題にかかわるVTRを視聴する予定です。

〔教科書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート
（エイデル研究所）¥1,800

〔参考書〕教師養成研究会『教育原理』
（学芸図書）¥950

デュイ著、宮原誠一訳『学校と社会』
（岩波文庫）¥200

西村絢子他『現代教育を考える』
（昭和堂）¥2,600

教育原理

た なか さと し
田 中 智 志

本講義は、教育についての基本的・総合的な認識と、教育の現実を直視する学問的姿勢を学ぶことを目的とするものであり、とくに個人的経験をこえた、ひと・社会と教育・学校との構造的な関係をあきらかにしていきたいと思います。とりあげるトピックスは、1. 人間と教育（人間を形成するとはどういうことか）、2. 社会のなかの学校（学校の選抜機能はなぜ生じるのか）、3. 教育課程と学習指導（みえないカリキュラムとはなにか）、4. 教育と学校の存立構造（脱学校論や再生産論はなにを告発しているのか）などです。なお、前期は講義が中心ですが、後期はグループ発表を中心とします。

〔教科書〕松浦良充編著『いま教育を考えるための8章』（川島書店）¥2,200
（また、5月中旬に参考書を指示します）

教育原理

むら やま てる よし
村 山 輝 吉

テキストにそいながら、下村湖人の著作なども参照しつつ、人間の発達と教育、文化、社会のかかわりについて原理的考察をおこない、あわせて教育の制度、形態、内容、方法のもつ意味と問題を社会的歴史的な視座からアプローチしたい。

〔テキスト〕堀尾輝久著『教育入門』

(岩波新書) ¥480

〔参考書〕『下村湖人全集』〔全10巻〕(国土社)

『教育の原理Ⅰ・Ⅱ』(東大出版会)

教育心理学

(教育方法論を含む)

えん どう つかさ
遠 藤 司

今日の教育の現場において、教師、生徒がおこなう様々な活動に対して心理学の知見を基にした見方がなされている。特に、教師として生徒と様々な形で関わる際に、心理学的見方に対してどのような態度で臨むかによって、具体的な教育活動のあり方が異なってくる。本講義では、心理学の知見がどのように教育の世界に影響を及ぼしてきたかを、学習、評価等の諸領域において概観しながら、生徒とのよりよい関わりを作るために、教師としてどのような活動をしていけばよいのかという問題について考えていきたい。

教科書、参考書については、講義中、随時紹介する。

教育心理学

(教育方法論を含む)

おほ はま きくこ
大 浜 幾久子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の現場の様々な問題をとりあげ、教育心理学的な考え方と、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また、性格テストなどの実習や初歩的な実験演習も随時、行う。

教育心理学

(教育方法論を含む)

きた じま おゆ み
北 島 歩 美

思春期、青年期の心理的発達課題について概説し、それらと合わせて、教育の現場においてあらわれる臨床的諸問題(不登校、心身症など)について検討する。さらに、時間が許せば、それらの問題についての臨床的アプローチを考えていきたいと思っている。

〔教科書〕バーバラ M. ニューマン著

フィリップ R. ニューマン

『生涯発達心理学』(川島書店)

〔参考書〕E. H. エリクソン著「自我同一性」

(誠心書房) ¥2500

中井久夫・中山康裕編「思春期の精神病理と治療」¥4,000

教育心理学

(教育方法論を含む)

こく がん まりこ
国 眼 眞理子

教育心理学は、教育という場に応用された心理学であるため広汎な領域が含まれるが、中学・高校教諭の免許状取得を念頭において、「青年期」「心の健康」、「対人関係とパーソナリティ」の三領域を中心に学んだ上で、「学習意欲と教育評価」や「進路指導」についても併せて考えていきたい。

〔参考書〕授業において随時プリントを配布する。

教育心理学

(教育方法論を含む)

なか むら ひとし
中 村 均

1. 発達

どのような仕組みで発達が起こると考えられているか。発達の变化的概観。

2. 学習

どのような仕組みで学習が起こると考えられているか。学習を促進する条件はどういうものがあるか。

3. 個人差

一人ひとりの違いの把握について。

4. 教育方法

教育メディアの利用について。

〔参考書〕授業中そのつど紹介する。

青年心理学

(教育方法論を含む)

おほ はま きくこ
大 浜 幾久子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題をとりあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また、性格テストなどの実習や初歩的な研究演習も随時、行う。

青年心理学

(教育方法論を含む)

かわ だ みつ お
川 田 三 夫

青年は発達の存在であると同時に社会的存在でもある。思春期の頃にふと自分のことを考え始め、友達と比較をしたりして色々悩みながら現在に至っている。親はもちろん、テレビ・マンガ、遊び・おもちゃ、学校・友達、勉強・進学、文学・音楽など自己の形成に影響を与えるものは数多い。講義の前半はこれらの意味や役割について考えてみる。

後半は身近な所で起きている現象や話題を取り上げながら青年を考える一方で、分かっているようで分かってない自分のことを人格心理学的な側面からアプローチして理解を広げてみたい。簡単な心理学のテストなども試みにやってもらう予定である。

青年心理学

(教育方法論を含む) こ み やま かぬめ
小宮山 要

前半では青年期の発達課題、自我、感情、知性等について考察する。また、後半では親子関係、恋愛・結婚、職業、問題行動、時間的展望等について検討し、自己と他者の理解を深めていく。

〔教科書〕使用しない。

青年心理学

(教育方法論を含む) つね た ひで こ
常 田 秀 子

青年期とは、子どもから成人へと移行する10代半ばから20代半ばまでの幅広い時期を指す。この講義では、この変化に富んだ時期の人間の心理について、生涯発達の視点から理解を進める。人間発達についての考え方、青年期の知性、青年期の自己、青年をとりまく社会的環境などについて扱う予定である。

基本的には講義中心の授業とする。必要に応じて、受講生によるレポートや討論も取り入れたい。受講生の多くは自らも青年期にあることから、講義内容を自分たちの問題としてとらえ、主体的に講義に参加してくれることを期待する。

〔教科書〕後日指定します。

特別活動

なかの め なお あき
中野目 直 明

情報化、国際化、高齢化の進む現代社会において、広い視点から学校教育の意義やこれからの方向を考え、人間形成を目指す特別活動のねらいや内容を明らかにしたい。主として、次の内容を講義する。

1. 現代社会と学校教育の課題
2. 人間形成を目指す特別活動
3. 特別活動の内容とその指導

〔教科書〕宇留田敬一編『特別活動の基礎理論と実践』(明治図書) ¥1,650

〔参考書〕中野目直明著『教育情報管理と学校経営』(エイデル研究所) ¥2,000

生活指導

えん どう つかさ
遠 藤 司

教師として生徒の「生活」にいかんにかして関わるべきかという問題は、今日の学校教育において重要になっている。特に最近、学校生活に適応できずに、様々な形で不適応状態に陥り、困難をおぼえている生徒も多い。本講義では、それぞれの生徒にとっての学校生活に適応することの意味、あるいは不適応状態に陥ることの意味を探りつつ、一人一人の生徒に教師がどのように関わればよいのか、また、学校という生活の場をどのように作っていけばよいのかという問題について考えていきたい。

教科書、参考書については、講義中、随時紹介する。

生活指導

さ どう なお と
佐 藤 尚 人

児童・生徒の教育を考える時、教科学習の指導はもちろん、学習がスムーズに行われるための環境づくり、わけても1人ひとりの子どもの学習への積極的な姿勢を導き出すことは極めて重要である。

本講義では、友だちができない・学習に集中できない・登校拒否・非行など具体的事例をもとに、子どもの精神発達の道すじを理解し、教師として子どもにどのように関わってゆくかについて考える。

〔教科書〕講義ノートに基づき進めてゆく。

〔参考書〕大貫・佐々木編著『心の健康と適応』(福村出版) ¥2,200

宗教科教育法

こ やま かず のり
小 山 一 乘

先ず教育関係法規下での「宗教科教育」の位置づけを概観する。特に各教科と宗教科との関係、「宗教教育」と「宗教科教育」との異同点にも留意する。我が国にかかわる第2次世界大戦後の、対日米国占領教育改革施策に看取される「宗教教育」の諸問題を例示しつつ、日本国憲法20条と教育基本法9条との関係、基本法9条と初期社会科学学習指導要領の文言との関係等を検証する。その上で、「宗教の定義集」への着目をし、「『宗教に関する寛容の態度』の涵養」への展開を検討する。そこからさらに「宗教の社会生活における地位」に関する「宗教的無知」解消を図る授業展開を考える。宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派教育の学習指導方法を具体的に探究して、異文化理解の課題にも備えるようにしたい。

適宜わらべうた等も導入し、幼稚園教育から高校教

育までの接続も考察に含めたい。模擬授業を課します。
学習指導案作成の徹底的指導をする。

- 〔教科書〕『仏教概論—わかりやすい仏教—』
（曹洞宗宗務庁）¥800
『仏教・キリスト教・イスラーム・神道
どこが違うか』（大法輪閣）¥1,600
『教育小六法』（学陽書房）¥2,200
小中高各『学習指導要領』
（文部省、各¥230, ¥250, ¥370）
『生徒指導の手引』（文部省）¥460
『教職教養ランナー』
（一ツ橋書店）¥1,020
小山一乗『社会科における宗教の教育と寛
容—「告げる」と「教える」をめぐって』
（宣協社）¥2,700
その他必要に応じて指示する。資料を配布
するのでファイルを用意しておくこと。
- 〔参考書〕『宗教教育の理論と実際』
（鈴木出版、1985年）
その他必要に応じて多数指示する。

国語科教育法

かみ や みち のり
神 谷 道 倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、あるいは教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、後期は実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方・指導事項・方法等主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

- 〔教科書〕新 中学校・高等学校『国語科教育法概論』
（有精社）¥1,600

書道科教育法

な す たか よし
那 須 隆 吉

長い歴史をもつ書の特質を考察し、その指導法を学習する。文部省の芸術科指導要領を理解し、将来の教師としての自覚を促し、指導力を養うことにつとめたい。

- 〔教科書〕久米公著『書写書道教育要説』
（萱原書房）¥2,300
〔参考書〕『高等学校学習指導要領解説』
（文部省）¥410

英語科教育法

あら い よし お
荒 井 良 雄

中学校や高等学校の英語教員として教壇に立つための基本となる英語教育法の理論と実践の研究指導を行う。

学習指導案の作成法と授業の進め方の実際的な指導が中心になる。教師に必修のPublic Speaking を重視する。

- 〔教科書〕『新英語科教育の展開』（英潮社）¥2,600
〔参考書〕稲村松雄『ジャック・アンド・ベティーから21世紀へ』（桐原書店）¥1,400

社会科・地理歴史科教育法 （平成元年度以前入学生： 社会科教育法（地理））

なが の たし
長 野 良 覺

学習指導要領に基づく中学校社会科・高等学校地理歴史科の教科目的・教科内容等を概観したのち、特に地理教育について教案作成・教材の工夫・視聴覚器材の使用法などを指導し、授業演習を行い、教育実習に備える。

- 〔教科書〕『中学校社会科地理教科書』『高等学校地理A・B教科書・地図帳』『文部省学習指導要領』

社会科・地理歴史科教育法 （平成元年度以前入学生： 社会科教育法（地理））

なか しま ぎ いち
中 島 義 一

社会科（地理歴史）教育の諸問題を講義し、後半は学生諸君に交代で壇上に立ってもらって授業演習を行う。出席を重視する。遅刻や欠席の多い人は教師として不適格である。

社会科・地理歴史科教育法 （平成元年度以前入学生： 社会科教育法（歴史））

の ろ たが おい
野 呂 肖 生

「中学校で社会科、高等学校で地理歴史科の授業をするさいに役立つように」を目標とし、社会科・地理歴史科教育（とくに歴史）の理論と実践を学ぶ。とくに個性を重視したい。

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

は せ べ はち ろう
長 谷 部 八 朗

教育をめぐるさまざまな今日的課題にもふれながら、社会科公民科教育のあり方をともに考えてみたい。

前期は、社会科公民科の性格、目標、歴史、指導計画、指導案、教材研究、教育評価といった問題について、とりあげる予定である。

そして後期には、模擬授業やディスカッションの機会を持ち、受講生の主体的な授業参加を期したい。

より詳しい進め方については、最初の授業で述べる。

〔参考書〕適宜指示する。

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

や しき ただ みつ
谷 敷 正 光

〈授業内容〉

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後の政治・経済の発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。学習指導要領は1989年に第6回目の改訂が行われた。今回の改訂は単なる教科内容の改訂にとどまらずに小学校低学年の社会科と理科を廃止し、新たに生活科を設け、高等学校の社会科を廃止し、新たに地理歴史科と公民科を設けたことの意味を考えなければならない。

したがって、しっかりとした社会科教育を樹立するため、単なる授業方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

〈授業形態〉

講義を基本に教室での模擬授業実践と討論、視聴覚教材を多く使用して現実的理解につとめる。

〈授業項目〉

1. 日本教育の現状
2. 教育の基本概念
3. 社会科の成立
4. 社会科学習指導要領の変遷
5. 中学校の教育課程と社会科
6. 高等学校の教育課程と公民科
7. 社会科の学習指導計画
8. 学習指導案の作成
9. ビデオによる現場教師の授業研究

10. 4年生による模範授業
11. 模擬授業を通じての社会科の学習指導と授業実践の研究
12. 中学校社会科の目標・内容・取り扱い
13. 高等学校公民科の目標・内容・取り扱い
14. 教育評価
15. 教育実習の意義
16. 社会科教師論
17. 教員採用試験の準備と今年度の採用について
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する)

〈履修条件〉

出席を確認する。

〈成績評価の方法〉

授業での課題の提出、学習指導案の作成などで総合的に評価する。

〔教科書〕大森・谷敷共著『社会科教育研究』
(梓出版)

〔参考書〕『社会科・公民科の教科書』『中学校・高等学校学習指導要領』も使用する。

〔注 意〕①年間かなりのプリントを配布するので、必ずファイルを用意すること。

②視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

こ やま がず のり
小 山 一 乗

我が国にかかわる第二次世界大戦、英文・邦文の「日本国憲法・教育基本法」、学習指導要領相互の関連検証。学校教育法に規定する学校の目的・学校教育の目標の系統的位相性の検討。社会科創設の国際関係論的・歴史的背景、及び、初期社会科指導要領(試案)以来の変遷概観。社会教育の目標・内容・方法・カリキュラム論。カリキュラムの類型。学習指導の段階説。学習指導案の様式・類型と教師の教育観。学習指導要領各項文末表現①「知識理解度事項」②「態度的事項」③「技能的事項」等と学習指導上のねらいの確認。中・高等学校の社会科・公民科の教科書を用い、個人又はチームによる模擬授業実践を課す。その際、年間学習指導計画案から本時学習指導計画案までを作成し、他教科との関連をも考慮すること。模擬授業とはいえ実際の授業とところろえ、メディア・ミックスを含めた手作りの「掲示・配布資料等の実物」を作成すること。模擬事業は、カガミ利用としてのビデオに収録し、事後の授業分析の討議に供する予定。最後に『学習指導要領』『指導書 社会編』『解説 公民編』をもとにして、各自手作りの教科書素描の提出を課す。シラバスは開講時に示す。

〔教科書〕小・中・高校各『学習指導要領』
各¥230 ¥250 ¥370 小学校・中学校学習

指導要領各『指導書 社会編』 ¥90 ¥100

『高等学校学習指導要領解説公民編』

(実教出版) ¥220

『中学生の社会科・地理』『同 歴史』

『同公民』(中教出版)各 ¥605 ¥605 ¥605

『最新版 倫理』『改訂版 政治・経済』

(中教出版) 各 ¥370 ¥370

『地図帳』各自で用意のこと

『平成6年版 教育小六法』

(学陽書房) ¥2,200

小山一乘『社会科における宗教の教育と寛容 — 「告げる」と「教える」をめぐって』

(宣協社) ¥2,700

〔参考書〕『楽しく学べるヒント教材 シリーズ

中学 社会科の授業Ⅰ』『同・Ⅱ』

(明治図書) 各 1,400

『教職教養ランナー95年版』

(一ツ橋書店) ¥1,020

『一般教養ランナー95年版』

(一ツ橋書店) ¥1,020

谷川彰英『戦後社会科教育論争に学ぶ』

(明治図書) ¥783

社会科・公民科教育法

(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

はし つめ さとし
橋 爪 敏

社会科は、戦後改革の一環として、民主的な国民の育成を目指して設定された教科である。したがって、単に知識の習得のみを目的としたものではなく、戦後教育の中心を成すものと位置付けられてきた。しかし、現実の政治的状況・教育状況によって紆余曲折してきたのも事実である。

1994年4月から、高等学校社会科は公民科と地歴科の2科に再編される。その分割再編の是非はともあれ、公民科・社会科教師に求められる「資質」は他教科のそれにも増して、厳しいものがあると言ってよからう。

この授業では、こうした点を踏まえた上で、公民科・社会科教師に必要な基礎的認識や知識を習得する事を目的とする。また、模擬授業等の機会を設け“教えること”を、実際の体験を通して学習する。

〔教科書〕開講時に指示する。

職業科教育法

まえ だ ゆき かず
前 田 幸 一

〈講義目的〉

職業科及び技術・家庭科に関する教育について学んでいきます。授業は人数の関係もありますが、ゼミ形式で進めていきます。

〈授業内容〉

基本的には以下の項目に沿って授業を進めていきます。

- (1) 「技術・家庭のあり方」について、新聞の切り抜きを通して考えていく。
- (2) 「中学校学習指導要領」の技術・家庭科について、その新旧の違い、変化などを比較検討する。
- (3) 職業教育について

(1)(2)は前期授業、(3)の職業教育は後期授業で行う予定です。なお(3)の職業教育についてはテキストを利用します。これは開講時に指示します。

〈評価方法〉

筆記試験はしません。平常点かレポート提出物などで評価します。

商業科教育法

や しほ だ みつ
谷 敷 正 光

〈授業内容〉

「産業教育」(職業教育)の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にともなうめまぐるしく変遷してきた。そして、高度成長期の高校教育は大きく軌道修正され、さらに先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、再び修正されている。従って、本講は、「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するため、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

〈授業形態〉

講義を基本に教室での模擬授業実践と討論、視聴覚教材を使用して現実的理解につとめる。

〈授業項目〉

1. 日本経済の発展と教育・産業教育
2. 商業教育の現状と課題
3. 職業教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の歴史
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の学習指導計画
8. 学習指導案の作成
9. ビデオによる現場教師の授業研究
10. 4年生による模範授業
11. 模擬授業を通じての商業科の学習指導と授業実践の研究
12. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い
13. 教育評価
14. 教育実習の意義
15. 商業科教師論

16. 教員採用試験の準備と今年度の試験について
 (教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する)

〈履修条件〉

出席を確認する。

〈成績評価の方法〉

授業中の提出物・課題で総合評価する。

〔教科書〕岡田修二他『新商業教育論』(多賀出版)

〔参考書〕『高等学校商業科の教科書』『高等学校学習指導要領』

〔注意〕①年間かなりのプリントを配布するので、必ずファイルを用意すること。

②視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

教育実習後は、口頭報告、レポート作成・提出、教育問題にかかわるVTRの視聴、グループ編成による授業(ディスカッション)を行い、教育への理解を深め、教育とは何か、どうあるべきかについて各自の教育観を明示できるようにし、さらに、望ましい教師像についても一緒に考えたいと思う。参考書は、下記以外にも授業で適宜紹介する。

〔教科書〕栗原敦雄他『教育実習ガイド』
 (宣協社) ¥1,500

〔参考書〕大村はま著『教えるということ』
 (共文社) ¥480

田村院司他著『きょういく』ビジュアルノート(エイデル研究所) ¥1,800

西村絢子他『現代教育を考える』
 (昭和堂) ¥2,600

道徳教育の研究

かみ おか やす ひこ
 上 岡 安 彦

道徳教育の基礎理解と課題研究を行う。

〔教科書〕『道徳教育の研究』〔新訂版〕
 (学芸図書) ¥900

教育実習

かみ おか やす ひこ
 上 岡 安 彦

事前指導

学校の教師としての仕事について講義

学習指導案作成実習

訪問指導

実習期間の研究授業参加

事後指導

デュエイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』

(大蔵省印刷局) ¥250

『高等学校 学習指導要領』

(大蔵省印刷局) ¥370

デュエイ『学校と社会』(岩波文庫) ¥350

教育実習

た なか さと し
 田 中 智 志

講義は、教育実習前の段階と教育実習後の段階の二部構成です。教育実習前の段階では、教育実習の意義・方法・内容についての講義とビデオ視聴をつうじて、教育実習の事前準備指導を行います。

つぎに教育実習後の段階では、小レポートの作成、グループ・ディスカッション、模擬授業などをつうじて、教師としての在るべき姿について一緒に考えてみます。

〔教科書〕最初の授業のさいに指示します。

教育実習

むら やま てる よし
 村 山 輝 吉

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めるよう、年間を通じて次の事項を取りあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはきんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

教育実習

さか もと のぶ あき
 坂 本 信 昭

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容(領域)に関する講義とビデオ教材「教育実習の日々」等を視聴し、教育実習の心得などについての事前準備指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習

きた　むら　みつ　こ
北　村　三　子

前半は教育実習の準備にあてる。後半は、教育をめぐる様々な問題について、文献を読み合い討議をしたい。

(2) 教職に関する専門科目（選択）

青少年問題研究

みな　がわ　ひろ　よし
皆　川　広　義

現代における青少年問題を総合的に考察する。

青少年の意識と行動、青少年の教育（人格形成）、青少年の非行問題などを主な課題として研究する。

将来、僧侶に成る者、教師をめざす者、青少年の指導を志す者などに資する講義をしたい。

〔教科書〕和田謙寿著『少年補導の研究』（駒沢大学青少年問題研究室）¥2,500

教育哲学

しお　み　とし　ゆき
汐　見　稔　幸

科目名は教育哲学となっているが、固苦しいものではなく気軽に現代の教育問題の本質やその背景などを学び考え合う授業を考えている。教員志望者だけでなく現代と将来の日本社会と文化のことを考えたいと思っている人も歓迎する。教育の成否は受けた教育体験が一人ひとりの中でいかに発酵するかにかかっている。そのことを深く考えるためには、人間の発達と教育体験の機微についての思索が何よりも大切である。不登校や新学力問題、新しい教育方法、学校の本質などテーマは数多く考えられるが詳細は参加者と相談してきめたい。授業は毎週ではなく、適当に合宿をおりませで集中して議論する日をおりこみながら進めたいと考えている。

〔参考書〕汐見稔幸『地球時代の子どもと教育』（ひとなる書房）

教育社会学

たか　しま　ひで　き
高　島　秀　樹

教育社会学は教育を社会的な事象としてとらえ、社会学の方法をもって実証的に解明していこうとする教育科学の一部門である。教育が個人の発達をみざす営

みであることはいうまでもないが、それは同時に人間を社会の成員にふさわしく形成し、次代の担い手を育成することを通して社会の存続・発展を可能にするという、きわめて社会的な営みでもある。

この講義ではこうした教育社会学の基本的な考え方を明らかにした上で、社会集団の教育（家族、遊びと仲間集団、地域社会など）と学校に焦点を合わせ、その基本的特質を明らかにするとともに、現代日本における実態・問題点をできる限り具体的に考察していきたい。

〔教科書〕福永安祥・高島秀樹『教育社会学』（明星大学）¥2,000

現代社会の諸問題と教育

たか　しま　ひで　き
高　島　秀　樹

現代日本社会とその内での私達の生活は、今日大きく変動しつつあり、そこに多くの問題を内在させている。この科目では、現代社会の内における個人のライフコースに沿って、各ライフステージにおける生活世界の実態と発達課題、各ライフステージにおいて個人と密接な関係を持つ社会集団や社会の状況について明らかにし、さらにそれらと教育との関係についてできるだけ具体的に、実例を取り入れて考察していきたい。

この科目では単なる「講義」にとどまらず、各々の問題について基本的なことを説明した上で、受講生自身に考え、発表してもらうことも取り入れていく。

〔教科書〕高島秀樹・岩上真珠・石川雅信共著

『生活世界を旅する－ライフコースと現代社会』（福村出版）1994年刊、¥2,400

教育評価

おお　はま　きく　こ
大　浜　幾　久　子

まず狭義の教育評価にとらわれず、教育心理学の研究手法－実験・観察・調査・テスト－の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価に関わる研究演習を行い、そのことを通して、教育評価の諸問題に対する考察を深めていきたい。

なお、パソコンによるデータ分析の実習も行う。

教育情報学

お　ぐら　やす　よし
小　倉　康　仁

パソコン用アプリケーションソフト（ワープロソフト、表計算ソフト、オーサリング・ソフト）や教育用プログラミング言語の操作実習を通して、教育におけるコンピュータ利用の可能性について多角的に検討す

る。

授業で取り上げる話題としては、コンピュータ・リテラシー、CAIとCAL、CMI、オーサリング・ソフト、シミュレーション・ソフト、データベース、パソコン通信、マルチメディアなどを予定している。

教育調査

すず きの のり お
鈴 木 規 夫

教育調査あるいは社会調査を実際に行い、調査に必要な基本的プロセスを学ぶと共に調査に不可欠なデータの解析法についても学習する。主な内容は、調査主題の設定、主題に関する討議、調査票の作成、調査の実施、結果の分析等である。なお、結果の分析は主としてパソコンを利用する。

教育史

きた むら みつ こ
北 村 三 子

まず、日本教育史の通史を検討する。次いで、参加者と相談の上適当なテーマを設定し、史料を読みたい。
〔教科書〕石川松太郎『教育の歴史－日本における教育の歩みを中心に－』（財団法人放送大学教育振興会）¥1,960

教育関係法規

ひろ さわ あきら
広 沢 明

憲法、教育基本法、子どもの権利条約など教育に関する基本法規につき、具体的事例に触れながら講義を行う。校則、体罰、内申書、日の丸・君が代、教科書検定、学校事故、障害児教育、民族教育など今日的な教育問題について、法的観点から検討をしたい。

〔教科書〕広沢明『憲法と子どもの権利条約』

（エイデル研究所）¥2,800

〔参考書〕開講時に指示する。

社会教育の基礎（社会教育概論）

むら やま てる よし
村 山 輝 吉

（P.19）参照

社会教育施設

むら やま てる よし
村 山 輝 吉

（P.20）参照

図書館学 I

やま ざき けい こ
山 崎 慶 子

（P.18）参照

図書館学 II

みなもと しょう きゅう
源 昌 久

（P.18）参照

視聴覚教育

いい もり あき ひこ
飯 森 彬 彦

（P.23）参照

教育臨床心理学

む た たか お
牟 田 隆 郎

現代の青年や子どもをとりまく社会環境は、必ずしも適正なものとはいいがたい。そのために、感受性に富む若い人たちが、社会のもつさまざまな矛盾を、「問題」というかたちで表現している。

本講義では、社会の表面に現れた青少年の諸問題を種々の材料を用いてとりあげ、その発生の機序と対応について、心理面・社会面等から考察していく。

教育法規研究

かん だ おさむ
神 田 修

教育法規とか教育法というと、とかく実際の教育とは関係のない堅くらしい「きまり」ぐらいに考えられ易い。しかし、今日の教育は、関係する法や法規をさしおいては正しく理解できません。教育法規は、教師になろうとする者はもちろん、そうでない者でも、しっかり勉強しておく必要のある分野です。

今年度は、下記のテキストを使い、いろいろな教育問題や情報にもふれながら、基本的なことを学ぶとと

もに、生きた教育と法ないし法規の学習をします。できるだけわかりやすく、教育界（学校や社会教育の仕事）に入っていく学生諸君のためになる授業にしたいと思っています。

- 〔教科書〕 神田 修, 兼子 仁『ホーンブック教育法』
 (北樹出版) 1995年 ¥2,300
 〔参考書〕 『解説教育六法』
 (三省堂) 1995年版 ¥2,400

児童文化

か がわ よし しげ
 香 川 良 成

「児童文化」と言えば、子どもの生活と人間形成に関わるあらゆる領域と分野に渡るわけであるが、今回は日本の児童演劇史と演劇教育史を中心に捉え、明治以後の発展の歴史を振り返りながら、子どもの発達の問題を、ことばとからだ・身体表現の問題の側面から検討してみたい。児童劇作品も幾つか取り上げて皆で読んでみたい。

- 〔参考文献〕 滑川道夫著『児童文化論』(東京堂出版)
 滑川道夫・中川正文編『児童文化』(東京書籍)
 富田博之著『日本児童演劇史』(東京書籍)

宗教教育

こ やま かず のり
 小 山 一 乗

種々様々な考察を試みる。用語・訳語としての宗教教育、宗教、religion、畏敬、注意深く観察する、(再)結合、宗、教、育、education、誓願、アニミズム、アニメーション等の字源・語源をさぐる。更に、何～何事、what～whatness、児童生徒の疑問態(の調査研究)、節分、雛祭り、節句、七夕、盆祭り、七五三、合格祈願、お守り、羽田空港長の朝、クリスマス、ターミナル・ケア等を狙上に載せ教育的思考と法的思考で考える。受講生各自に、各自が余命僅か(六カ月以内)ということを具体的に想定してもらい①一番大切な人を一人遊び、その人に②「別れの手紙」を書き、③書いた後の感想を書くことを体験・経験してもらおう。憲法20条・教育基本法9条・初期社会科学学習指導要領との絡みの中に、対日米国占領教育改革政策が胚胎していた異文化理解問題の史実を見る。宗教を文化現象の一形態として考えるか否かについて諸説を見ておきたい。道徳教育の内容項目上の宗教的用語が「宗教の定義集」・「現代日本の諸家の宗教観」の二典中では、どう規定されているか、その脈絡を意味論的に概観する。tellとteachとの差異、<religious education>と<education about religion>の教授概念を検討する。多民族多文化多宗教共住社会のうねり、

隣人は異邦人等がいわれ日常生活化しつつある国際化社会時代の問題・課題解決に与する宗教教育の目的論・目標論・内容論・方法論を具体的に考えたい。シラバスの詳細は開講時に示す。

- 〔教科書〕 小山一乗『社会科における宗教の教育と寛容－「告げる」と「教える」をめぐる』
 (宣協社) ¥2,700
 小中高各『学習指導要領』
 各¥230, ¥250, ¥370
 『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこが違うか』(大法輪閣) ¥1,600
 『教職教養ランナー』
 (一ツ橋書店) ¥1,020
 『教育小六法』(学陽書房) ¥2,200
 〔参考書〕 『宗教教育の理論と実際』
 (鈴木出版, 1985年)

(3) 教科に関する専門科目

教科に関する専門科目で各学科専門教育科目と兼用する科目の講義内容は「専門教育科目」欄に掲載されている。

【社会 地理 歴史 公民】

日本史概説

えん どう ひろ おき
 遠 藤 廣 昭

各時代の特徴をおさえ、研究成果と論点を含め講義する。特に、中世の宗教・文化史については、詳述するつもりである。

- 〔教科書〕 有斐閣選書『概説日本史』
 (有斐閣) ¥1,957

日本史概説

こ まつ とし はる
 小 松 寿 治

古代から近世にわたり政治史を中心に講義を行なう予定であるが、特に日本史を教える上で、最小限必要である事項を選び、授業を行ないたいと思う。教科書はとくに用意しない。

世界史概説

い むら ゆき こ
 井 村 行 子

「帝国主義の時代」以降の世界史をヨーロッパ、アメリカを中心に概説する。

- 〔参考書〕 大下・西川・服部・望田編『西洋の歴史』

〔近現代編〕(ミネルヴァ書房) ¥2,000
 西川正雄・南塚信吾『帝国主義の時代』
 《ビジュアル版》世界の歴史18
 (講談社) ¥1,500

世界史概説

わた なべ おつし
 渡 辺 惇

アジアの歴史を地域的に東アジア、東南アジア、南アジア(インド)、西アジア、内陸アジアに分け、それぞれの歴史的世界の風土、歴史展開の特色等について講義する。

〔教科書〕特に定めず、プリント・資料を配布する。

地誌学概説

お だ まさ やす
 小 田 匡 保

日本の諸地域については中学で、世界の諸地域は中学と高校で、それぞれ浅く広く学習されているはずである。本講義ではヨーロッパに焦点をあて、地域の地理学的見方について考えてみたい。高校の時のものでよいから、地図帳を持参すること。

〔参考書〕T.G. ジョーダン著(山本・石井訳)

『ヨーロッパ文化』(大明堂) ¥5,300

地誌学概説

かわ もと とよ かず
 川 元 豊 和

前半では地誌学の基本的な枠組について説明したい。また後半ではアジアの村落に的をしぼり、農業と村落の変化の様相を明らかにしようと思う。

〔教科書〕プリントを配布する。

地誌学概説

はし つめ なお みち
 橋 詰 直 道

前半は、地域の捉え方、地域区分、自然環境と人間の関係など地理学の基礎と地誌的な地域の見方を中心に学ぶ。

後半は、主に都市と農村の変容について、動態地誌的な事例研究成果を紹介し、地理的空間構造とその変容過程を学ぶ。

教科書は特に定めず、講義はプリント中心に行う。参考書は講義の中で紹介する。

人文地理学概説

こ ばやし こう じゅ
 小 林 高 壽

教職のための人文地理学を概説するのである。そのために①人文地理とは何か(本質論)②人文地理をどう教えるか(教授論)③教える立場と教わる立場の考察(教育論)④人文地理の基盤となるべき自然地理の内容はどうなっているか(体系論)⑤自然環境及社会環境とは(相互作用論)⑥地図と地理統計をどう読むか(教材論)⑦人文地理の教育と研究について(教養論)等にわたって講述したい。

地図帳と最新地理統計(小冊子になっている)は持参して貰いたい。

〔教科書〕長谷川典夫編著『教養のための地理学トピックス』(大明堂) ¥2,800

〔参考書〕高校用地図帳(アトラス)と、二宮書店編の『地理統計』

自然地理学概説

たか き まさ ひろ
 高 木 正 博

自然地理学の分野のうち、地形と水を基本的な視点において、自然環境と人間生活とのかかわりを具体的な地域事例をもとに解説し、それぞれの地域が有する地域的特性を明らかにする。

自然地理学概説

はや ふね げん ほう
 早 船 元 峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ、人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講生に2.5万分の1、5万分の1の地形図を用意(10枚程度)してもらい、それらをもとに種々なる作業(土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成)をして、より一層の理解を深めてもらう。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意すること。

〔参考書〕氷見山幸夫・岡本次郎編著『土地利用変化とその問題』(大明堂) ¥3,600

民法 I

あお の ひろ ゆき
 青 野 博 之

〈講義目的(要旨)〉

生活に関連するものとして、民法を学ぶ。民法の最

初ということで、民法入門という性格も有する民法総則が中心となるが、物権法も、もちろん講義対象である。

民法総則・物権法の中で、自分と他人との関係を権利義務という法律の目でみることができるようになれば、講義目的は達成される。自分は他人に対して何をなぜ主張することができるのか（権利）、自分は他人に対してなぜそんなことをしなければならないか（義務）を受講生自身が考えていけるように講義を進めたい。質問は大歓迎である。

出席者がそれほど多くなければ、私から受講者に質問しつつ、受講者に民法の条文を読み上げていただきながら、私の講義を聞いていただくことになると思われる。

〈授業内容・授業計画〉

前期

民法総則のうち法律行為の前半まで（民法一条から一一八条まで）。

4月、序説（たとえば、自分の土地はどういうふうに使ってもいいとはどういう意味か、他人に迷惑をかけても自分の自由に使ってもいいか）。

5月、自然人（たとえば、未成年者と契約をするときにどんな問題があるか）。

6月、法人（たとえば、法人という制度を認めることによってどんな利点があり、どんな弊害が発生するか）、物

7月、法律行為（たとえば、契約は自由であるとはどういう意味か）。

後期

民法総則のうち法律行為の後半から時効まで、および物権法（民法一一九条から三九八条の二二まで）。

9月、法律行為（たとえば、契約を取り消すことができるのはどんな場合か、契約を取り消すとどういう結果になるか）、期間、時効（たとえば、時効という制度はなんのために認められているか）。

10月、物権総論（たとえば、物権は債権とどこが違うか）、物権変動（たとえば、マンションを買った場合には何をしなければならないか）。

11月、占有権、所有権、用益物権（たとえば、土地を借りるとどんな権利が発生するか）。

12月、担保物権（たとえば、貸金を確実に回収するためにはどうすればよいか）。

1月、質問に答える（受講生からの質問には毎回の講義時間の際に答えるが、それとは別に質問時間を設ける）。

〈評価方法〉

出席して質問をした回数、およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので、これに答えてくだされば、これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく、自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので、安心して質問に答えてほしい。出席したらできるだけ、質問をし、私からの質問に答えることが結局受講生のためになる。

また、私のためにもなる。したがって、質問および回答はこの講義を進める鍵である。試験に際しては一切の持ち込みを不可とする。

〈教材〉

教科書：我妻 栄・有泉 亨著（川井 健補訂）『民法I（総則・物権法）』（一粒社）、教科書は、上記のものを使うが、ほかに自分が気に入ったもの、手持ちのものがあれば、それでもよい。

六法：憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法を中心として法律を集めて編集したものを六法と呼んでいる。受講する際にはぜひとも六法を持っていくこと。外国語を学ぶ際に辞書が欠かせないように、法律科目を履修する際には六法は不可欠である。六法は、『ポケット六法』（有斐閣）、『コンパクト六法』（岩波書店）、『デイリー六法』（三省堂）などの大きさ（厚さ・値段）のもので十分である。『コンサイス六法』（三省堂）、『判例基本六法』（岩波書店）、『判例六法』（有斐閣）を進んだ勉強をしたい受講生に勧める。『口語〜』という書名のついたものでもよい。六法は毎年出版されるので、新しいものの方が望ましい。

民法 I

	つる	い	しゅん	きち
(前期)	鶴	井	俊	吉
	はやし	こう	じ	
(後期)	林	幸	司	

民法（I）は、民法総則、物権法を対象とする。民法総則は民法の通則であって、抽象的でわかりづらい。そして物権法も、日本の特殊性が強く出ている領域であって、これもまたむずかしい。できる限り具体的な事例などをあげて解説する予定である。

〔教科書〕我妻 栄・有泉 亨著『民法I（総則・物権法）』（一粒社）

政治学原論

おお	つか	かつら
大	塚	桂

現代政治学の体系的な理解を深めるべく、以下の諸問題について検討していく。

- I. 政治学の課題と対象ならびに方法論
- II. 政治思想の史的展開
- III. 政治権力論
- IV. 政治制度・機構論
- V. 行政国家論・現代社会論
- VI. 政治変動論
- VII. 政治行動論
- VIII. 政治過程論・政策決定過程論
- IX. 政治集団論
- X. 国際政治理論

- 〔教科書〕大塚 桂『政治学原論序説』
 (勁草書房) ¥3,296
- 〔参考書〕原田綱『政治学原論』
 (朝倉書店) ¥5,356
- 佐竹寛『政治学体系論』
 (法学書院) ¥3,090
- 中山政夫『現代政治学』
 (三和書房) ¥2,575
- 日下喜一『現代政治学概説』
 (勁草書房) ¥2,060
- 本田弘『政治理論の構造』
 (勁草書房) ¥4,000

社会学原論

わた なべ もと き
 渡 辺 源 樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

経済原論

あら き よし ひろ
 荒 木 勝 啓

原論は本来ミクロ・マクロ両面にわたって学習すべきであるが、この科目が商学科選択および他学部生の教職科目でもあることを考慮して、この授業はもっぱらマクロ経済学の基礎的部分 (IS-LM分析まで) に限定して行うことにする。

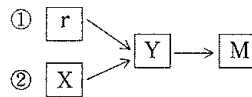
ところでなぜ経済事象を理解するために「経済理論」を学ばなければならないのであろうか。理論なき現実観察がいかに危ないものであるかは、毎年のように見られる次のような答案の叙述をみればよく理解できよう。

「公定歩合が下がる。すると景気が良くなるとともに国際収支の黒字幅が拡大し……」

この記述は、おそらく「日本経済が過去において輸出主導型であり、輸出拡大によって(その結果)黒字が増大しながら景気が拡大していった」という記憶に基づいて書かれたものであろう。たしかに経験に基づけば、日本経済の輸出拡大(黒字増大)と、景気拡大は同時進行的であったようにみえる。しかし経験の一般化ほどこわいものはない。ではアメリカはどうだったであろうか。景気が拡大するたびに国際収支の赤字が増大したではないか。

上述の答案のように(A)景気がよくなると国際収支の黒字化傾向となるのが正しいのか、それともアメリカがそうであったように(B)景気がよくなると国際収支の赤字化傾向となるのが正しいのか。

そこで問題の整理が、すなわち前提条件を明確にした上で結論を導くという方法論、つまり「理論」が必要となるのである。今輸出をX、輸入をMとし、国際収支を便直上經常収支すなわち輸出-輸入だけに限定し、 $B = X - M$ と書こう。BはもしXがふえれば増大(黒字化)し、Mがふえれば減少(赤字化)する。X、Mともにふえればその相対的なふえ方に応じてBの増減が決まる。さて、公定歩合をrと表し、「景気」を国民所得Yで代表しよう。すると、「公定歩合が下がると景気が良くなる」という関係は $r \downarrow \rightarrow Y \uparrow$ と書ける。「輸出が増大すると景気が良くなる」という関係は $X \uparrow \rightarrow Y \uparrow$ と表すことができる。また輸入は景気が良くなると増加するのが一般的であるから $Y \uparrow \rightarrow M \uparrow$ という関係がある。すると図式的に



のような causalityが成立つてあろう。さて上述の答案の混乱は、本来この図式の①から出発する事象の流れを、日本経済の経験が示した②から出発する流れと混同してしまったところに原因があるのである。①から出発したとすれば、結果はMの増加だけであり、従って $B = X - M$ は赤字化以外の道はない。すなわち80年代後半のアメリカ経済のように超低金利政策のもとで輸出の拡大を伴わなければ經常収支Bは赤字化する以外にないのである。②から出発したとすれば、結果はやはりMの増大となるがしかし、日本経済の経験が示すように $\Delta X > \Delta M$ である限りBはふえる。すなわち經常収支は増大するのである。こうして、上述の答案は前提が違うが故に、誤りであり、また(A)が正しいのか(B)が正しいのかという問題は、「景気が良くなった」その原因、出発点が①であるのか②であるのかを明示化しなければ判定できないという結論が導けるのである。このように理論とは条件明示化の方法論なのである。

以上のように本講義は現実問題をたえず念頭に置きつつもマクロ理論を基礎から構築するということを主眼に置いている。年間の主要項目は次の通りである。

- (1) 総供給=総需要
- (2) 均衡国民所得の決定
- (3) 政府・海外部門の存在する場合への拡張
- (4) 乗数
- (5) ビルト=イン=スタビライザー
- (6) 貨幣とは何か
- (7) 信用創造理論
- (8) 貨幣数量説
- (9) マネタリズム
- (10) 古典派経済学の3命題
- (11) ケインズ理論
- (12) IS-LM分析
- (13) 財政政策と金融政策
- (14) ポリシー・ミックス

- (15) フィリップス曲線をめぐって
- (16) 期待理論
- (17) 成長理論

なお、最低年1回実地研修を行う。予定では証券取引所である。この時出席点をとる。

試験は期末に前後期合わせた分の試験を行う。ノート・本・電卓持込可。2題出題し1題は計算問題、1題は論述問題が予定。

〔教科書〕浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』
(成蹊堂)

経済原論

お 大 石 雄 爾

この豊かになった日本において、労働者はいまだに長時間労働を余儀なくされている。不況の中にあっても企業はそれなりの成長をしているが、多数の勤労者の所得は抑えられている。また、日本での営業に見切りをつけ、東アジア諸国などに生産の拠点を移す企業がふえ、アメリカが経験してきた産業の空洞化現象が進行しつつある。

地球全体に目を広げると、20世紀の「社会主義」体制が崩壊し、資本主義的な方向での世界の再編成が行なわれている。その中で、いわゆる「南と北」の諸国間に横たわる貧富の差はますます拡大し、地球規模における環境の破壊が進行している。環境問題は、いまや人類に遠くない将来における生死の選択を迫りつつある、といっても過言ではない。

このように、一見ただけでも現代世界は複雑な様相を呈しているが、よく見ると一本の赤い糸で結ばれていることがわかる。それは、世界の主要問題の多くが、資本（企業）の活動の全面的展開の結果として生み出されている、という事実である。確かに、資本はすでに百余年にわたって社会的富を生産し、分配し、また全体として富を急速に拡大させてきた。それが可能であったのは、資本が社会的労働の大部分を資本のもとに取り込んできたからに他ならない。

そこで、われわれは、社会的な労働が資本のもとで行なわれると、どうして現代世界に見られるような諸問題を生み出すのか、ということを考えてみなければならない。そのためには、まず、資本とは一体何か、資本のもとにおける労働はどのような特徴をもつか、そしてさらに、資本によってこの資本主義社会そのものがいかんにして再生産されるかということ、すなわち、資本主義経済の一般的法則を理解することが必要となるものと思われる。

この講義は、以上のような趣旨にもとづいて、およそ次のようなテーマに沿って進めてゆく。

1. 経済理論を学ぶにあたって
2. 商品とは何か
3. 貨幣とは何か
4. 資本の生産過程

5. 賃金とは何か
6. 資本の蓄積
7. 資本の流過程
8. 剰余価値と利潤
9. 価値と生産価格
10. 商業資本
11. 利子生み資本
12. 近代的土地所有

〈講義方法と留意点〉

講義は、ほぼ2回で1テーマについてお話しするというペースで進める。皆さんの理解を深めていただくために、相当量の板書することになっているが、これを書写してこと足れりと考えることなく、読み返したときに理解できるようなノートの取り方を各自くふうしてほしい。

時に、講義の冒頭で経済や政治にかかわる問題を取り上げ、簡単な解説を加えることにする。また、皆さんの問題関心を高める一助として「30分レポート」を年間数回、講義時間を利用して実施する。

経済原論はその科目の性格上、全体的な関連を把握して初めて、各部分の理解も可能になるというものである。そのため、受講する皆さんには、年間を通して毎回出席することを強く要求したい。

〈成績評価〉

試験は原則として年度末に行ない、これを中心に成績評価をする。「30分レポート」も判定の参考とする。

〔教科書〕平野喜一郎他『経済原論』

(青木書店) ¥2,781

〔参考書〕金子ハルオ他『資本主義の原理と歴史』

(青木書店) ¥1,854

経済原論

お の とし お
小 野 俊 夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮し、現代経済学のミクロとマクロの基本を解説し、複雑な現代経済を理解しうる力を養うことを目指す。

〔教科書〕小野俊夫編著『現代経済学の基礎』

(学文社)

哲学概説

くに しま かず のり
国 嶋 一 則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に抛り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。

哲学思想の基礎的概念や考え方の解明に重点をおく。また書物の読解力を養成するために、教材の重要な箇所を読んで解説する。

〔参考書〕その都度示す。

哲学概説

なか むら しょう へち
中 村 璋 八

この講義は中国の哲学を中心とし、その起源より、それ以後、現代に至るまでの史的展開を概説する。哲学・思想は洋の東西にかかわりなく、その地の自然環境、すなわち気候、風土やその時々々の政治、経済などと密接な関連を持ちながら発生し、それを展開して行くものである。中国は広大であり、その歴史も世界の中で最も長い。そこで、この講義も中国各地の気候・風土やその各時代の政治・経済を念頭におきながら殷墟卜辞・諸子百家を始め秦・漢以降の経学・道教・佛教などの各特色を考察し、それが朝鮮半島や日本に如何に受容され、変質して行ったかも考えてみたい。

〔教科書〕中村璋八編『中国思想文学通史』

(明治書院) ¥1,600

倫理学概説

く ぼ よう いち
久 保 陽 一

善や正義などの倫理学上の基本的概念を歴史的に検討しながら、—アリストテレス倫理学、キリスト教の倫理、カント道徳哲学、ヘーゲルの法哲学、マルクス主義、実存主義、プラグマティズム、功利主義等—現代における倫理の問題(生命環境倫理学等)について考えることにしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

宗教学概説

あらい けん
洗 建

宗教学の体系について概観し、その中から特に宗教社会学的問題を中心に考察する。教職教科であることに配慮し、憲法問題の宗教学的考察などをとりあげる。

〔教科書〕なし。

〔参考書〕その都度指示する。

宗教学概説

まつ だ ぶん ゆう
松 田 文 雄

初めに宗教学の研究方法、その領域、宗教学で用いる用語などを概説し、後期、今年度は日本仏教の特色について述べる。

〔参考書〕随時指示する。

宗教人類学

さ とう のり あき
佐 藤 憲 昭

(P.26) 参照

民間信仰論

なに ぐち みつぎ
谷 口 貢

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていききたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題について考察を加える。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

東洋思想研究

たて の まさ み
館 野 正 美

中国古代における様々な思想家たち—いわゆる“諸子百家”—の哲学思想を概観する。その際、たとえば、孟子は性善説・荀子は性悪説といった、単なる知識の羅列ではなく、むしろ、彼らが人間存在の深層に“何”を見出し(あるいは見出すことに失敗し)て、それをどのように表現しているのか、といった点にこそ意を注ぎ、詳細に論じてゆきたい。

かくして、孔子や孟子・荀子らの儒家思想、老子や荘子らの道家思想を経て、後期には『呂氏春秋』の諸思想、今年度は特にその医学思想について論及してゆきたい。

〔教科書〕館野正美著『中国古代思想管見』

(汲古書院) ¥1,200

〔参考書〕授業中に適宜紹介します。

民衆宗教成立史

あらい けん
洗 建

新宗教の規定をめぐる諸問題，新宗教の展開，発達史を概観し，主要な新宗教教団について紹介する。

〔参考書〕堀 一郎編『日本の宗教』

(大明堂) ¥2,000

歴史哲学

あ まつ けん
麻 生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で，歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を，「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは，今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが，そもそもは「他者理解」の問題，「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生 建『解釈学』（世界書院）¥2,500

日本仏教史

ひろ せ りょう こう
廣 瀬 良 弘

仏教の歴史の流れを概観し，のちに平安後期から江戸期にかけての仏教と社会・文化との関わりについて講述する。とくに鎌倉仏教の成立と展開，仏教諸宗派の僧侶・寺院と地域社会とのかかわり，都市景観と寺院，一向一揆・無縁所寺院と戦国大名，近世においていかにして寺院が寺請制度を担うるまでに至ったかの問題，寺院と檀家等について考察する。その際には，各地の寺院が所蔵する古文書・過去帳・授戒会帳・墓石史科学も提示しながら行うことにする。

〔教科書〕史料はコピーして随時配布する（無料）

〔参考書〕黒田俊雄著『寺社勢力—もう一つの中世社会—』（岩波新書），網野善彦著『無縁・公界・楽』（平凡社選書），井上鋭夫『山の民・川の民』（平凡社選書）

日本文化史 I

ひろ せ りょう こう
廣 瀬 良 弘

(P.24) 参照

美術史概説

なか しま りょう いち
中 島 亮 一

(P.25) 参照

日本宗教文化史

まつ だ ぶん ゆう
松 田 文 雄

仏教文化に的をしぼり，近世における日本宗教文化について講義する。必要な資料はプリントして，受講生と共に講読する。

【職業】

産業概説

まえ だ ゆき かず
前 田 幸 一

〈講義目的〉

日本の主要な産業を勉強していきます。教職コースの科目ということもあり，受講者数が多くないのでゼミ形式で授業を進めていきます。

〈授業内容・授業計画〉

授業は

1. 戦後日本の産業発展と今後の展望
2. 産業の見方・考え方
3. 素材型産業
4. 組立加工型産業
5. 生活関連産業

という項目に沿って進めていきますが，特に上記の3，4，5の項目に力を入れて授業を進めます。

〈評価方法〉

筆記試験はしません。平常点かレポート提出物のどちらかで評価します。

〔教科書〕日本興業銀行産業調査部編『日本産業読本』（東洋経済新報社）

〔参考書〕水口和寿『現代産業概論』（昭和堂）

宮沢健一・竹内宏編『日本産業教室』

(有斐閣)

職業指導

やま だ ゆう じ
山 田 勇 治

〈講義目的〉（要旨）

職業指導（進路指導）は教職科目であるから，将来教員として役立つような講義内容とするように心掛け，

なるべく教育現場の現状をふまえた上で、実践的な授業にするつもりである。受講する場合には、問題意識をもって積極的に教育問題を考えるようにしてほしい。

渋谷源蔵『貿易実務』（同文館）
藤田栄一『貿易取引の英語』（勁草書房）

〈授業内容・授業計画〉

【商 業】

前期は、職業指導の基礎的な概念である「職業」についての理解を深めるとともに、職業の中でも特に公認会計士を中心にした会計専門職業についてアメリカの場合と比較しながら、特に教育面を中心にして講義していきたいと考えています。

職業指導

やま だ ゆう じ
山 田 勇 治

後期は、中学・高校を中心とした学校進路指導の現状とその問題点について文部省が過去3回にわたって実施した実態調査を中心にしてその現状と問題点について考えていくような授業をするつもりである。なお、時間的な余裕があれば学校で実施されている心理テストについて説明を加えたいと思っています。

(P.16) 参照

〈評価方法〉

出席および授業中における課題などの提出状況を考慮しながら、期末のレポート提出によって評価する。

〔教科書〕山田勇治『会計教育論』（創成社）¥1,300

〔参考書〕藤本喜八『進路指導論』（恒星社厚生閣）

商業実習

まえ だ ゆき かず
前 田 幸 一

〈講義目的〉

国内よりも対外国企業との商品取引の実務について授業を進めていきます。授業はゼミ形式で行っていくつもりです。

〈授業内容〉

授業は基本的に以下の項目で進めていきます。

1. 輸出実務の概要
2. 取引関係の創設
3. 取引条件の取決め
4. 売買条件の取決めと契約成立
5. 輸出信用状の照合
6. 約定品の調達
7. 輸出保険
8. 輸出承認と認証の取付け
9. 運送契約の締結
10. 為替の予約
11. 海上保契約
12. 輸出検査と包装
13. 輸出通関
14. 船積み
15. 船積書類
16. 輸出決済
17. 貿易クレーム

〈評価方法〉

筆記試験はしません。評価は平常点かレポート提出等によって行います。

〔教科書〕開講時に指示

〔参考書〕石田貞夫『貿易取引の実務』（実教出版）

II 学校図書館司書教諭講座

図書館学 I

やま ざき けい こ
山 崎 慶 子

小学校，中学校，高等学校各々の学校の教育目標を達成するために学校図書館はなくてはならぬ設備である。

人格形成期にある児童生徒たちが多くの事を学び教養や趣味を豊かに育てるためには，教科書の他にたくさん資料が必要となる。児童生徒たちが生涯にわたって学ぶことの面白さを知る魅力ある学校図書館はどうあるべきか，そのためにはどのような研究や工夫が必要か。学校図書館を預かり教員の中心的存在として活躍する司書教諭の職務内容全般について，特に読書指導の意義及び資料利用の技能育成について考察を深めたい。

前期講義は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」「図書館資料の選択」，後期は「学校図書館の利用指導」「読書指導」。

〔教科書〕図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』改訂版（学芸図書）¥1,442

図書館学 II

みなもと しょう きゅう
源 昌 久

この講義においては，司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内，主として資料組織法（分類法・目録法）について論じる。前期には分類法，後期には目録法を講じ，各々の概念的フレーム・ワーク，基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕もり・きよし原編『日本十進分類法 新訂8版』（日本図書館協会）
日本図書館協会目録委員会編
『日本目録規則1987年版 改訂版』
（日本図書館協会）

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎 (社会教育概論)

むら やま てる よし
村 山 輝 吉

社会教育の本質について理解を図ることを目的とする。その内容としておもに下記の事項をとりあげる。

1. 社会教育の意義 — 理念, 歴史, 現状, 外国との比較, 社会教育と学校教育
2. 多様な学習の機会
3. 社会教育の法と行財政
4. 社会教育の施設
5. 学習者の理解
6. 社会教育の内容と方法
7. 社会教育と生涯教育・生涯学習

〔教科書〕 碓井・倉内編『新社会教育』
(学文社) ¥2,000

〔参考書〕 『社会教育ハンドブック』
(エイデル研究所)

〔教科書〕 永田良行著『成人教育への挑戦』
(全日本社会教育連合会) ¥773
ジェルビ著『生涯教育』
(東京創元社) ¥1,500

社会教育実習

むら やま てる よし
村 山 輝 吉

実習前の指導 — これまでの実習の経験に学ぶ。

実習期間 — 個別の訪問指導。

実習後の指導 — 個別の体験の整理・検討とそこから生ずる共通する課題の追求。
〔例〕 社会教育職員の専門性とは
なにか。

社会教育計画

むら やま てる よし
村 山 輝 吉

社会教育主事として社会教育計画を立てるに際して必要な事項について基礎的な理解を図る。社会教育の対象の理解と組織化, 地域社会と社会教育, 社会教育調査とデータの活用, 社会教育事業計画, 学習情報の提供と学習相談, 社会教育と広報・広聴, 社会教育施設の経営, 社会教育の評価等が主な内容となる。

〔教科書〕 酒匂・村山他 共編著『生涯学習の方法と計画』(国土社) ¥2,800

現代社会の諸問題と教育

たか しま ひで き
高 島 秀 樹

(P. 8) 参照

婦人問題と社会教育

や ぐち えつ こ
矢 口 悦 子

女性問題(婦人問題)の現状を明らかにし, その解決にむけて取り組まれている諸活動を紹介・分析する。年間の予定としては,

- I. 女性問題を捉える基本的視点
- II. 日本における婦人運動の歴史
- III. 日本における婦人教育政策の歴史と現状
- IV. 国際的動向と女性学の発展
- V. 女性問題学習の実際

(社会教育のなかでの実践・グループ・サークル等での実践, その他の活動・実践など)

- VI. 今後にむけての課題

という内容を考えている。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 授業中に紹介する。

社会教育実習

かみ おか やす ひこ
上 岡 安 彦

事前指導

社会教育分野の活動について講義

実習期間

社会教育施設訪問指導

事後指導

ジェルビ『生涯教育』によって自分の社会教育実習の体験を吟味し, 日本の教育を考えてみる。

青少年問題研究

みな かわ ひろ よし
皆 川 広 義

(P. 8) 参照

図書館学 I

やま ぎき けい こ
山 崎 慶 子

(P. 18) 参照

青少年指導演習

ひら の まなぶ
平 野 学

青年期を生きる学生諸君が“青少年指導”について学ぶには微妙な難しさが伴う。まずかかわる側自身、自らをよく見つめていることが何よりも重要になってこよう。ここではこうした認識を土台に、青年心理学や臨床心理学、カウンセリング学等の立場から、現代の青少年の状況等論じつつ、その援助や指導のあり方について互いに学び合いたい。特に「演習」科目でもあることから、受講者各々の様々な体験（ボランティア等）の発表や小グループでの討議、更には話を聴く練習（ロールプレイ）や自己理解を深めるためのエクササイズ等、色々取り入れる形で進めていきたい。そしてそうした中、受講者自らの成長にも役立つような授業になればと思っている。

〔教科書〕特に使用しないが、プリント等適宜配布しつつ、色々紹介していきたい。

〔参考書〕河合隼雄『大人になることのむずかしさ』（岩波書店）
同『カウンセリングを語る（上、下）』（創元社）

博物館学 I

くら た よし ろう
倉 田 芳 郎

(P. 23) 参照

博物館学 II

たけ うち じゅん いち
竹 内 順 一

(P. 23) 参照

企業内教育・職業訓練

しお かわ まさ と
塩 川 正 人

「企業」は“生きもの”のように変貌し、成長してきます。企業の生きた姿を知ることは、卒業後の未来をつかむ上で必須の条件といえそうです。

本講座は、企業人教育20年の経営コンサルタントが、実践事例を中心に、企業論と人間論を、学生諸君と対話しつつ展開します。

★教職や社教主事を希望する諸君へは「採用試験合格」への決め手を、企業人教育の手法を活用して指導します。

★会社就職を希望する人へは、会社選択のノウハウを、個人別指導をしつつ展開します。

〔教科書〕なし

社会教育施設

むら やま てる よし
村 山 輝 吉

1. 社会教育施設とは何か
2. 社会教育施設にかかわる人々
3. 公民館
4. 図書館
5. 博物館
6. 社会体育施設
7. その他の社会教育施設・関連施設
8. 社会教育施設をめぐる動向と課題

〔参考書〕適宜指示する。

社会体育 I

ふる た じゅん こ
古 田 潤 子

野口三千三氏の理論と方法論を基にして、私なりの考え方や方法を加味したものです。

“人間のからだはどうあるべきか” “いいからだとはどういうのか” “それにはどうしたらよいか” ということを動きを通じて考え、行動できるからだづくりを行います。

立つ・寝る・歩く等あらゆる姿勢に於て、地球の表

面と接触しているからだの最下部に全体重を任せきる
ことの出来る能力と感覚を身につけます。

「社会体育Ⅰ・Ⅱ」は必ず対で履修すること。

〔参考書〕野口三千三著『原初生命体としての人間』

(三笠書房) ¥980

社会体育Ⅱ

ふる た じゅん こ
古 田 潤 子

人間の動きと道具との関係。

動きに於ける人と人との対話。

動きと呼吸との関係。

動きのイメージ。

効率のいい力の使い方。

あらゆる行動に対して最良の適応が出来る基本姿勢…等について動きながらたしかめ、自己発見していきます。

視聴覚教育

い もり あき ひこ
飯 森 彬 彦

(P. 23) 参照

教育原理

(P. 1) 参照

教育心理学 (教育方法論を含む)

(P. 2) 参照

青年心理学 (教育方法論を含む)

(P. 2・3) 参照

社会心理学

(前期) つば い つよし
坪 井 健
(後期) あな た よし ゆき
穴 田 義 孝

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会学的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理(行動)に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意しつつ、現実の社会における人々の心理(行動)に関心を持ち、社会過程を重視する社会学的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的とした。

〔教科書〕穴田義孝編『こころ・行動そして社会』

(人間の科学社)

教育社会学

たか しほ ひで き
高 島 秀 樹

(P. 8) 参照

教育調査

すず き のり お
鈴 木 規 夫

(P. 9) 参照

教育史

きた むら みつ こ
北 村 三 子

(P. 9) 参照

児童文化

か がわ よし じげ
香 川 良 成

(P. 10) 参照

社会教育行政

ひがし とし たか
東 寿 隆

前半は社会教育の法と行政について、戦後社会教育法制の動向をふまえて、社会教育行政の本質を考えてみる。

後半は、現在の生涯学習政策について、実態をふまえつつ、これからの社会教育行政の方向を考えたい。

〔教科書〕 島田修一著『社会教育の自由と自治』

(青木書店) ¥2,000

〔参考書〕 社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』

(エイデル研究所) ¥3,500

成人学習論

ひがし とし たか
東 寿 隆

前半では、成人の学習論について、社会教育の本質と実践事例などにもとづいて考えてみる。

後半では、地域づくりなどに果す学習の役割、新しい生活と文化の創造について考えたい。

〔教科書〕 島田修一編『地域にくらしと文化をひらく』

(国土社) ¥1,700

〔参考書〕 酒匂一雄・千野陽一・那須野隆一・村山輝吉・谷貝 忍共編著『生涯学習の方法と計画』(国土社) ¥2,800

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学 I

くら た よし ろう
倉 田 芳 郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「博物館学Ⅱ」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難しいかもしれない。本講義は博物館の基本のみを講ずるので、2単位である。社教主事の資格を取得しようとする方は、「博物館学Ⅱ」（2単位）も履修することが必要である。受講方法について、誤りの無いようにしたいので、4月第1週の時間は必ず出席すること。

博物館学Ⅱ

たけ うち じゅん いち
竹 内 順 一

博物館の運営について、以下の項目を中心に実際例をとりあげる。①展覧会実施マニュアル ②パブリシティ ③インスタレーション ④美術館エデュケイター ⑤レジストレーション ⑥学芸員の研究 ⑦学芸員の文章と翻訳 ⑧外国における特別展の実施。これらを通して、将来の博物館像を追求し、専門家の分業体制とともにレジストラの役割の重要性を考える。

（しばしばレポート課題がある）

〔参考書〕講義時に指示する。

教育原理

(P. 1) 参照

社会教育の基礎（社会教育概論）

むら やま てる よし
村 山 輝 吉

(P. 19) 参照

視聴覚教育

い もり おお ひ
飯 森 杉 彦

まず、視聴覚教育の成立に至る歴史をたどり、視聴覚教育の理論と、その背景にある教育思想、コミュニケーション論・映像論などを紹介することにより、視聴覚教育とは何か探る。

次に、視聴覚教材を、ラジオ・テレビ・映画・OHP・ビデオ・パソコンなど、具体的に取り上げ、その特性、教材制作の過程、利用法などを紹介する。

最後に、情報化、国際化の進む社会で、今後ますます重要性を増すとされる「メディア教育」について論じる。

〔参考書〕『メディアと教育』（小林出版）

博物館実習Ⅰ（館務）

くら た よし ろう おお た き み こ
倉 田 芳 郎 ・ 太 田 喜 美 子

博物館で10日間以上、学芸員の指導により実習を行なう。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

博物館実習Ⅱ（収集）

くら た よし ろう ところ り き お
倉 田 芳 郎 ・ 所 理 喜 夫
は め き ま さ い え つ も り と も ゆ き
葉 貫 磨 哉 ・ 恵 津 森 智 行
お お た き み こ
太 田 喜 美 子

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。無断欠席のものは、受講できない。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 12月か2月
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬

考古発掘実習

ち ば もと つぐ
千 葉 基 次

一般的に言えば、考古学は机上の実習の一方で、遺跡を調査するための技術も必要とする。十分な技術は、一回の実習で身に付くと思えないが、いつの場合も基本・基礎の変わることはない。学友とこの基礎を、汗と泥にまみれて野外実習する経験も良いでしょう。新学期第1回目の授業は、必ず出席のこと。又、発掘実習には30日以上参加すること。

博物館実習Ⅲ（見学）

くら た よし ろう まつ もと のが みち
倉 田 芳 郎 ・ 松 本 信 道
お お た き み こ
太 田 喜 美 子

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅰ

ひろ せ りょう こう
廣 瀬 良 弘

日本文化の流れを概観し、平安期末から江戸期にかけての文化について講述する。とくに中世文化の成立過程とその展開、北山・東山文化、禅宗と文化、下剋上の世と民衆文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化、化政文化等について考察する。

西洋文化史Ⅰ

さ さ き まこと
佐 々 木 真

今日、私たちがイメージする西洋文化とは、主に19世紀から20世紀にかけて、知識人たちの影響下で形成された、近代文化のことであろう。しかし、最近のヨーロッパ史研究では、前近代社会や民衆世界においては、今日と異なった文化が存在したことが指摘されている。本講義では、西洋の民衆文化を題材として、中世末から近代にかけての文化変容の問題を考えてみたい。具体的には、民衆の生活様式（人口動態、家族・労働形態、女性や子供の地位）や知の世界（読書行為、識字）、民衆の心性（価値規範、死生観）などを手がかりとして民衆の文化世界を考察する。教科書は特に指定せず、参考文献については必要に応じて授業時に紹介する。

西洋文化史Ⅲ

み こ だ とし お
三 小 田 敏 雄

本年度は下記の教科書を使用して、〈西欧的結婚パターン〉や〈ライフ・サイクル奉公人〉というような西欧的特徴を通してヨーロッパの家族関係の変遷を辿りながら、文化の諸相におけるその具体的な表現を学んで行く。

〔教科書〕ミッテラウア／ジーダー『ヨーロッパ家族社会史』（名古屋大学出版会）¥2,472

仏教民俗学

たに ぐち かつぎ
谷 口 貢

仏教が日本社会に受容され、地域社会に定着するには、民間の習俗や信仰と接触し習合する過程があった。したがって、仏教と民俗信仰とのかかわりを追究することは、日本仏教の諸特徴を明らかにすることになる

といえよう。

講義では、各地の具体的な調査事例を紹介しながら、地域社会における寺院の機能に焦点をあて、仏教年中行事、葬送儀礼、先祖祭祀などについて考察を行うことにしたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

仏教美術

なか じま りょう いち
中 島 亮 一

前期では仏教美術のルーツをインドに求め、その誕生の経緯と東漸のあとをたどり、その図像学的な解釈と信仰思想との関係、仏陀の伝記などを考察する。

後期は中国・朝鮮を経た仏教美術が、日本伝来後変容していく姿を、信仰思想の変遷とあわせて観察する。(スライド併用)

〔教科書〕佐和隆研編『仏像案内』

(吉川弘文館) ¥1,900

〔参考書〕その都度指示する。

現代美術

や の よう こ
矢 野 陽 子

19世紀以降の美術の流れを鳥瞰しながら、あらゆる表現が試みられている現代美術を時代を追って検討していく。毎回スライド等で具体的に美術作品を見ながら、様式の革新、伝統の継承、作者の意図などを考察する。

禅美術

え び ね とし お
海 老 根 聰 郎

日本の中世絵画には、伝統的な大和絵と、この時代には、中国から新たに流入した絵画を学んだ漢画がある。後者を作りだした環境は禅宗社会であり、画家も禅宗画僧である。講義は、この流れを黙庵、鉄舟、明兆、周文、雪舟などの画家を中心としてたどりながら、合わせて大和絵についても述べる。(毎回スライドを使用する)

美術史概説

なか じま りょう いち
中 島 亮 一

前期では日本の原始時代から平安時代までの美術を、後期は鎌倉時代以後(できれば江戸時代まで)の美術を、時代の中で紀伝風にテーマ仕立てに分類し(例え

ば「明日香村の石造物」、「浄土教の美術」など)スライドなどをとおして考察し、それぞれの問題点も検討する。

〔教科書〕久野健他『美術史〈日本〉』

(東京堂出版) ¥2,000

〔参考書〕その都度指示する。

西域美術史

まつ たら みわ こ
松 平 美和子

西域から西アジアの遺跡から出土した美術品を東西美術交渉史の視点からながめ、いわゆるシルクロードの美術を考察しようとするものである。今年度はアフガニスタンの首都カーブルの北に位置するクシャーン朝の都の遺跡から出土した多様な遺宝を中心に、東西の美術をとりあげたい。(スライド使用)

〔教科書〕特に定めず、プリントを使用する。

考古学概説 I (日本)

くら た よし ろう
倉 田 芳 郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

考古学概説 II (外国)

い じま たけ つぐ
飯 島 武 次

東洋考古学の概説を講義する。

〔参考書〕飯島武次『夏殷文化の考古学研究』

1985年(山川出版社) ¥7,000

飯島武次『中国新石器文化研究』

1991年(山川出版社) ¥11,000

考古学特講 II

たか は しゅう
高 浜 秀

ユーラシア大陸の北を横切って、西はハンガリア平原から東は中国の北の大興安嶺まで続く草原地帯には、古来、南方の農耕地帯とは異なった独特の文化が栄えていた。初期鉄器時代になるとここには騎馬による遊牧が行われ始め、スキタイ系文化と呼ばれる互いにきわめて共通点の多い幾つかの文化が成立することになる。講義では、その前段階である青銅器時代から始めて、この地帯の文化を考えていきたい。

V 社会福祉主事講座 社会福祉士基礎

社会福祉原論

い とう しゅう いち
伊 藤 秀 一

本講では、受講生がこれから社会福祉を学ぶ者であることに留意しつつ、まず、社会福祉の概念を整理することから始めたい。

次いで、社会福祉の生成過程、制度的なしくみ、各分野の現状に論及する。

さらに、社会福祉の今日的課題を講述し、一応の体系的な把握に努めたい。

〔教科書〕仲村優一著『社会福祉概論』
(誠信書房) ¥1,700

社会福祉原論

はら だ しん いち
原 田 信 一

社会福祉は、時代に即応し、個人のニーズに合致した福祉サービスの支援を要求する。そこには提供者と利用者(対象者)間における対人的・非貨幣的援助活動のもつ比重が著しく大きくなり、従来までのような物的・貨幣的救済を主とした、福祉問題の彌縫的・応急的対応では、最早、包摂できない状態にきている。

それらのことをふまえて、本講では時代要請に応える専門的原理の探究をおこないたい。

〔参考書〕原田他共著『新しい社会福祉の理論』
(高文堂出版社)

老人福祉論

とう じゅう かつ まさ
東 條 光 雅

人口の急速な高齢化が進む中、家族形態・機能の核家族化と相まって、老後問題に対する社会的関心が非常に高まっている。老後問題は、今後一層の深刻化が予想され、老人福祉施策は近年流動的に変化している。わが国においては、約30年後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが、現状改善という視点からだけでなく、長期的な展望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えてゆくことが必要である。

本講では、老人福祉施策の歴史の変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉サービスを考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の変化や、関連

する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

〔教科書〕冷水 豊・浅野 仁・宮崎昭夫編『老人福祉』第3版(海声社) ¥2,000

〔参考書〕三浦文夫編『図説 高齢者白書1993』
(全社協) ¥2,800

障害者福祉論

はら だ しん いち
原 田 信 一

わが国の障害者福祉の発展過程をその淵源に遡りつつ体系的に講ずる。内容面では、人権の認識を基盤においた正当性のある障害者観、そして今後、激動化によって惹起が予測される障害者問題発生メカニズムを究明する。さらに、その対応方法、政策、ならびに処遇のあり方などに加え、欧米先進諸国における障害者福祉との対比から、わが国の障害者福祉に見直しを必要とする新たなる課題構築点などに重点をおき講じたい。

〔教科書〕星野・藤村・原田・井田編『障害福祉論入門』〔改訂版〕(有斐閣)

〔参考書〕(1)原田・春見・佐藤著『新しい社会福祉の理論』(高文堂)

(2)原田・吉田編『心身障害児(者)の心理・教育・福祉』(文化書房博文社)

児童福祉論

かしわ め れい ほう
柏 女 靈 峰

児童福祉とは、理念的には人格主体として理解されながら、実際には自分たちの立場を主張したり、それを守ることができない児童に代わって、国、地方自治体、保護者及び社会全体が、その生活と発達、自己実現を保障する活動の総体であると考えられる。

本講では、最新の資料に基づきながら、児童福祉の理念、児童を取り巻く環境、制度体系、サービスの現状と課題、児童福祉の方法について論述するとともに、出生率の低下、児童虐待、不登校等の今日的・個別の課題についても言及し、現代社会とのつながりの中で児童の福祉について考えてみたい。

〔教科書〕柏女靈峰『児童福祉論考』(仮称)誠信書房(近刊)

〔参考書〕別途作成する『児童福祉資料集』をコピー

の上、使用する予定。

社会保障論

さか た しゅう いち
坂 田 周 一

社会保障の理念、概念、歴史をふまえて、社会保障制度のしくみならびに運営を理解し、高齢化社会に対応できる社会保障制度の改政課題を考察する。

〔教科書〕古賀昭典編著『社会保障論』
(ミネルバ書房) ¥2,600

公的扶助論

い どう しゅう いち
伊 藤 秀 一

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。

1. 現代社会と公的扶助
 2. 低所得問題対策の概要
 3. 生活保護制度のしくみ
 4. 生活保護の最近の動向
 5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
- なお、テキスト等については開講時に指示する。

地域福祉論

わ た とし あき
和 田 敏 明

地域福祉を基調とする社会福祉の転換が、地方分権化、社会福祉供給システムの多様化、責任主体の多元化を伴い進展している。平成5年度からは、老人福祉法等8法改正の完全実施が行われ、市町村福祉時代が始まり、地域福祉の現実化が新しい段階を迎えた。講義では、地域福祉の理念と内容、推進方法、地域福祉の現状について基礎概論を講ずるとともに、それを実践動向に即して深めたい。

〔教科書〕改訂社会福祉士養成講座7
『地域福祉論』(中央法規) ¥2,500
〔参考書〕永田幹夫著〈改訂〉『地域福祉論』
(全国社会福祉協議会) ¥2,060

心理学(福祉)

いの うえ たか よ
井 上 孝 代

欧米諸国において、社会福祉実践の方法論として心

理学が広汎に取り入れられているという現況に基づき、社会福祉にかかわる基礎科学として心理学の分野全般を講義する。

重点的な内容としては、①人間の心理学的理解における心理機能と基礎的概念、②人間の成長発達の様相と障害、③人間理解の学説および諸理論の実際、④心理学的援助の技術と実践など、社会福祉士の養成における指定科目である「心理学」で学ぶべき内容を整理する。

教科書の指定は特に行わないが、必要に応じて資料、参考プリントなどを用意する。

社会学(福祉)

はし つめ さとし
橋 爪 敏

この講義は、「社会学」についての基本的な知識を提供する事を目的とする。『改訂 社会福祉士養成講座12/社会学』をテキストとしてその内容を把握し、社会学独自の社会現象の見方や考え方を理解する。

したがって、テキストに即して、社会学の歴史、社会集団、現代社会の諸問題などを論じていく。参加学生数によっては講義以外の方法も併用したい。

〔教科書〕福祉士養成講座編集委員会編『改訂社会福祉士養成講座12/社会学』
(中央法規出版)

〔参考書〕安藤喜久雄ほか編『社会学概論』、『わかりやすい社会学』(学文社)

法学(福祉)

けい とく ひろ とう
鷄 徳 啓 登

我国の福祉政策は、憲法に根拠を有し、個々の法令に基づいて国家によりなされている。そこで本講義は、テキストに従い、まず憲法の意義・原理原則を一通り説明し、次に各福祉法に共通する行政法総論をやり、最後に福祉六法を各論的に行う予定である。

〔教科書〕小林弘人編著『社会福祉のための法入門』
(川島書店)
〔参考書〕福祉六法等教場にて説明します。

リハビリテーション論

はら た しん いち
原 田 信 一

リハビリテーション領域のなかで、学問的にいちじるしく遅れをみせているのが社会リハビリテーションであるといわれている。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも現実的でしかも難解な社会福祉問題を抱えていることがいちじ

るしい運帯をもたらす原因になっているといわれる。そこで、本講義はとくに、社会リハビリテーションの基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等について概説したい。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕随時指示する。

社会福祉計画論

かわ てい ひと ゆき
川 延 宗 之

社会福祉が問題対応的なサービス提供から、予防福祉的な側面も強調されるに従って、そのサービス提供を組織的計画に行おうとする傾向が増してくる。この傾向の内容や課題そして方向について、ソーシャルワークの側面から、社会福祉政策の側面から、整理するとともに、その実際の計画内容や計画技法について学ぶのが、本講の課題である。なお、社会福祉計画は一国の計画として考える事は可能であるが、多くは社会福祉サービスの特徴上、特定のエリアにおける地域福祉計画として考える必要がある。本講では、以上の様な点について、指定するテキストを中心に、相互学習方式による学習を展開する予定。なお、受講予定者は必ず第1回を受講する事。

〔教科書〕① 高田真治『社会福祉計画論』

(誠信書房) 1979年

② R. パールマン A. グリン著 岡村重夫監訳『コミュニティ・オーガニゼーションと社会計画』1980年

(全国社会福祉協議会版) ¥2,800

③ 全社協編『地域福祉計画 — 理論と方法 —』1984年

(全国社会福祉協議会版) ¥1,300

家族福祉論

たか はし しげ ひろ
高 橋 重 宏

現代の家族生活の問題と課題を解説する。さらに、「家族」、「家庭」、「家庭機能」等の概念を整理するとともに、ファミリー・サービスのあり方についても北米における事例を紹介しつつ検討したい。

とくに国連が定めた国際家族年の原則、目的、スローガン等についても講述する。

医療福祉論

はる み しず こ
春 見 静 子

医療とは何か。医療の歴史、医療福祉の歴史、医療の分野で社会福祉援助活動を行うために必要な知識と技術を学ぶ。

1. 医療論 医療の概念、医療の場、与え手と受け手医療法、現代医療の問題点
2. 医療領域のソーシャルワーク 歴史、意義、機能、方法、機関
3. 医療ソーシャルワークの実際 事例を通して医療福祉の実際を学ぶ

〔教科書〕山川哲也『臨床医療ソーシャルワーク』

(誠信書房) ¥2,500

婦人福祉論

はやし ち よ
林 千 代

戦後のある時期登場した“婦人福祉”という概念は、いまだ成熟しているとはいえない。唯一、女性を対象としている社会福祉事業は、売春防止法に基づいて制度化されている婦人保護事業である。しかし、女性という特性ゆえに遭遇する生活上の困難は多様であり、何らかの解決策を必要としている。

売買春問題を基底に据えて、婦人保護事業の現実から女性の福祉阻害の実態をとらえ、女性の人権復権の検討を課題としたい。それは当然、男性の人権侵害を問い考えることになる。

〔教科書〕特になし

〔参考書〕林 千代著『母子寮の戦後史』

(ドメス出版)

保健福祉論

あん め としき え
安 梅 勅 江

急速な人口の高齢化や国際化、地方の時代といった社会構造の大きな節目と相まって、福祉に対するニーズは大きく変貌してきており、わが国の保健・医療・福祉の諸領域は、今や連携から統合化の時代へと推移しつつあると言える。

従って、本講義では、人間の生涯における身体的・精神的・社会的に健康で豊かな生活を維持する原理及び方法論の希求を目的とした保健福祉学の理念に基づき、健康を機軸に据えた真の生涯福祉のあり方について理論的な整理を行う。さらに、学際的学問領域としての保健福祉学の概念、歴史、方法論を踏まえ、保健福祉の実践に根ざした体系につき概説する。

〔教科書〕日本保健福祉学会編 平山宗宏・高山忠雄

社会福祉発達史

はやし ちよ代
林 千 代

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想その関連等が内容となる。一定の歴史の産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』

（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介

海外社会福祉論

なか の いく子
中 野 いく子

前半では、福祉国家を世界で最初に成立させたイギリスを中心に社会福祉・社会保障のアイデアとその政策・制度的変遷を講じる。

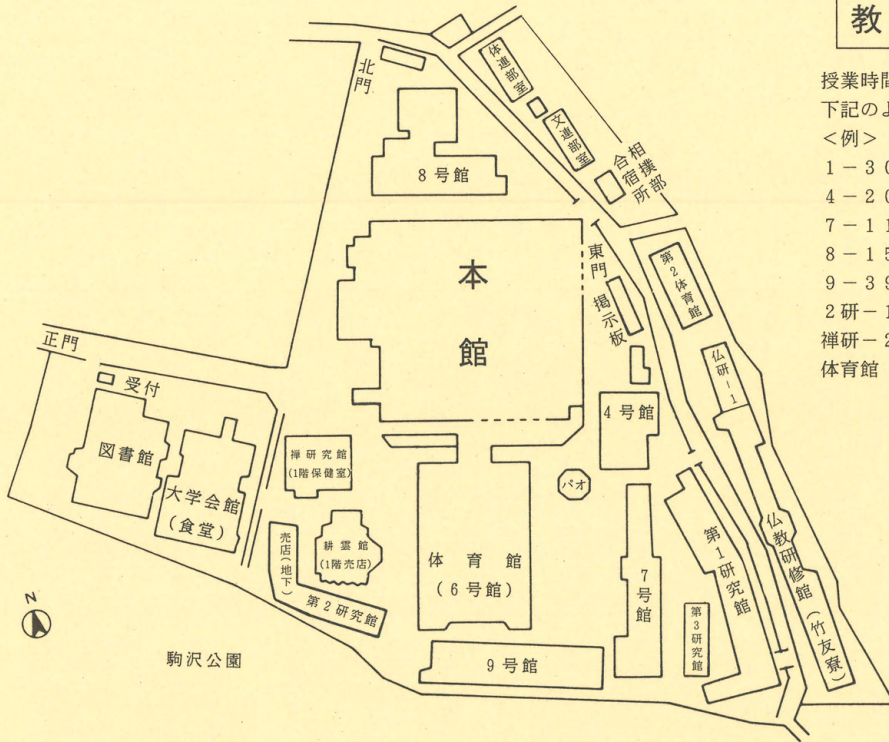
後半では、北欧やヨーロッパ諸国、アメリカなどの福祉国家の実情と現在直面している問題について学習・討論することにした。その他に、受講生の関心があれば、アジア諸国の社会福祉についても取り上げたい。

講義だけでなく、受講生に活発に検討してもらう授業にしたいので、意欲ある学生の受講を望む。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕社会保障研究所編『イギリスの社会保障』
『フランスの社会保障』『西ドイツの社会保障』
『スウェーデンの社会保障』『アメリカの社会保障』（東大出版会）

駒澤大学の構内図



教場案内

授業時間表に載っている教場は下記のように見て下さい。

<例>

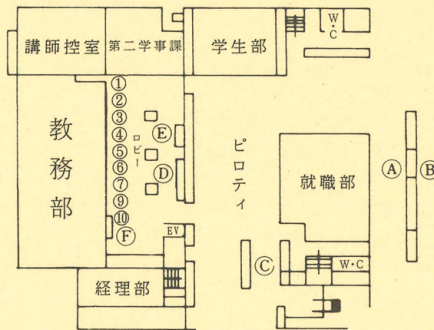
- 1-301 本館(1号館)3階
 - 4-204 4号館2階
 - 7-110 7号館1階
 - 8-150 8号館1階
 - 9-390 9号館3階
 - 2研-101 第2研究館1階
 - 禅研-201 禅研究館2階
 - 体育館 体育館2階
- (ただし選択種目により第2体育館になる)

各事務室・掲示板配置図

教務部窓口

- ①教職課程
学校図書館司書教諭講座
- ②博物館学講座
社会福祉主事講座
社会教育主事講座
- ③科目等履修生 聴講生 卒業証書
- ④証明書(教務関係)申込受付・発行
<健康診断書および在学証明書は学生部>
- ※ 諸証明書申込用紙は経理部前にあります。
- ⑤諸届願
 - 休学・復学・退学・死亡
 - 改氏名・本籍地変更・保証人変更・保証人住所変更
- ⑥大学院関係・留学生関係
卒業論文(仏教学部・文学部)
- ⑦転部転科
- ⑧履修・試験・成績・学業相談
学部演習(仏教学部・経済学部
法学部・経営学部)
- ⑨時間割変更・休講・外国語指定届

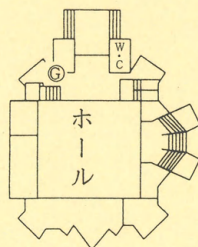
本館1F



掲示

- Ⓐ第1掲示板(表面)
公示・告示・学生部・就職部関係連絡事項, 教務部関係(試験・教職・研究室等)連絡事項, その他
- Ⓑ第2掲示板(裏面) - 臨時掲示板 -
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職部関係連絡事項(8月)
- Ⓒ第3掲示板 - 臨時掲示板 -
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職部関係連絡事項(4月~11月)
- Ⓓ休講掲示板・ビデオ教場使用一覧(当日)
- Ⓔ授業時間表カウンター・教場変更掲示板
- Ⓕ大学院・留学生関係掲示板
- Ⓖ国際センター掲示板
- Ⓗ留学生専用・海外留学掲示板
学外諸機関からの案内・募集広告等

耕雲館2F



体育館1F

